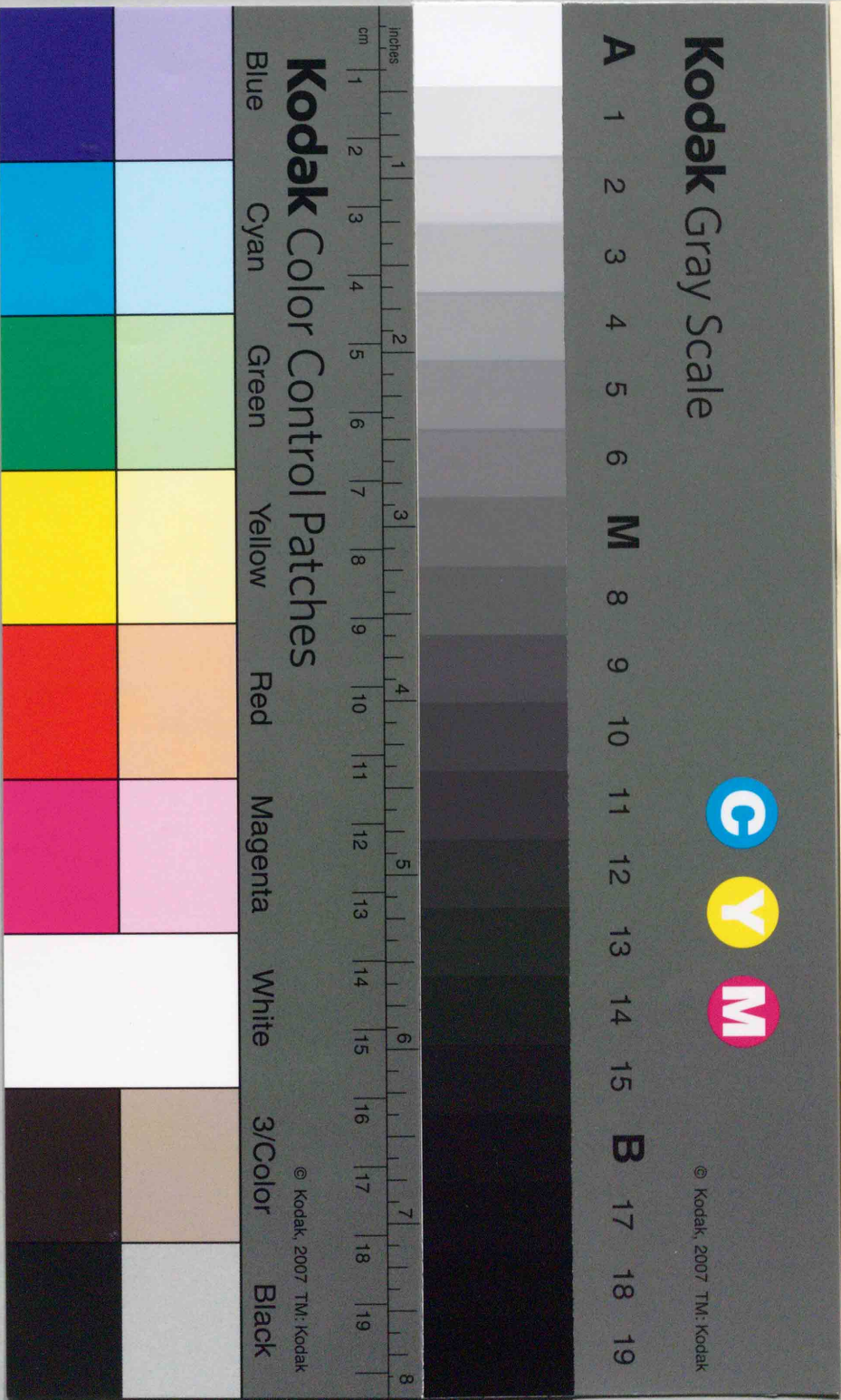
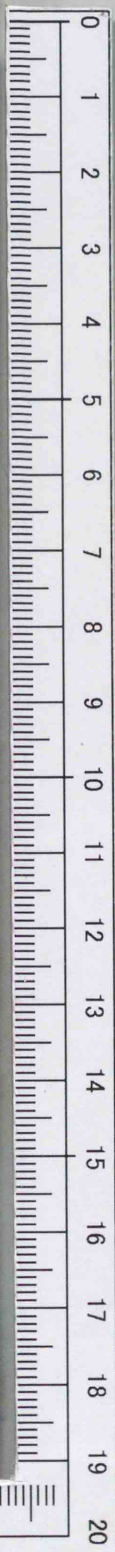




教科  
51  
2000



30109 ✓

教科書文庫

3
291
51-1902
20000 40299

M35  
1902

資料室

教科書文庫  
3  
291  
51-1902  
2000040299

375.9  
S214 和  
三  
号



明治三十三年五月五日  
文部省檢定濟

明治三十五年一月發行

# 帝國新地理

全

東京 三省堂編輯

広島大学図書

2000040299





例言

一、本書は、中學校、師範學校、高等女學校及之と同等の諸學校に於ける日本地理の教科用に充てんために編纂したるものにして、活字及用紙の體裁等は凡て文部省告示第六十一號の制定せる所に則れり。

一、山名の左側に於ける數字は其高さを示せるものにして、尺を以て之を表し、川名の左側に於ける數字は其長さを示せるものにして、里を以て之を表す。都邑の左側に於ける數字は其人口を示せるものなれども、繁雜に渉るを以て、百位以下は之を切捨つることゝなせり。

例令ば富士山とあるは一萬二千四百七十尺の高さ、利根川と

あるは七十二里の長さ、甲府とあるは三萬七千の人口なるを示せるが如し。

- 一、高さ三千三百尺(一千米突)以下の山、長さ二十里以下の川、人口五千人以下の都邑には、其高さ、其長さ、其人口數を附せず。
- 一、山の高さは農商務省參謀本部等の地圖に就きて正確ならんと思ふものによらず、河川の長さは主に内務省土木局編六十五大川流域誌或は各府縣地誌に載する所に據れり。都邑の人口は内閣統計局最近の調査に基きたれども、北海道と臺灣とは其調査中に審かならざるを以て、其各地最近の統計表に據れり。
- 一、山の高さ河の長さは、各區總説の部に於てのみ之を示し、處誌に於ては之を示さず。是山と河とは二三縣に跨るもの多きを以て、其各縣に於て一々數字を附するは、却て繁雜に渉るべきを慮り

てなり。

- 一、山の高さ、都邑の人口の端數は、大抵之を切上げて其大略を示すことゝなせり。
- 一、湖沼は周回二十里以上のものに限り、鼈頭に於て其周回を示せり。湖沼の左側に數字を附せざるは其數の甚だ少なきと、一々周回なる文字を附するの不便あるとによる。
- 一、都邑中の一部份に屬する地名には、人口の數を示さず。
- 一、主要の山河湖沼都邑物産等は凡て太字にて記せり。之を太字にて記載するに方りては、大よりして小に及ぼす方針を取れり。例へば帝國全體の總説に於ては樺太山系を太字にし、本州區の總説に於ては阿武隈山脈を太字にし、處誌に於ては筑波山を太字になせるが如し。

一、釐頭に記載せる舊諸侯の祿高は、五萬石を以て限りとし、其以下は一切之を省略せり。

一、天産々出高の比較、産業の盛否等は、概ね最近五年若しくは三年の統計に據りて其平均に従へり。但し其内、年を逐ひて増大し、數年間の平均を取る要なきものは、最近出版の内閣統計局統計年鑑(第十九回)、農商務省農商務統計表(第十六回)にある所に従へり、一、地名の読み難きものには假名を附したれども、同地名屢ば出づる場合には一々之を附せず。唯だところ々々に之を附することとなせり。

一、本書は、三省堂新版日本大掛圖と總ての點に於て能く相一致せしめられたれば、本書を教授せらるゝに方り、該掛圖を用ひらるれば、教授上の便極めて大なるべし。

### 帝國新地理目次

#### 總説

日本帝國……………一

帝國の四面……………二

帝國の海岸……………四

帝國の地勢……………四

帝國の區劃……………六

#### 特説

##### 中域

本州區……………九

本州區の海岸……………九

本州區の地勢……………一三

本州區の區劃……………一七

關東地方……………一七

關東地方の交通系……………一八

處 誌……………一九

東京府……………一九

神奈川縣……………二五

埼玉縣……………二九

千葉縣……………三〇

茨城縣……………三二

群馬縣……………三四

栃木縣……………三六

奥羽地方……………三八

奥羽地方の交通系……………三八

處 誌……………三九

福島縣……………三九

宮城縣……………四一

岩手縣……………四三

青森縣……………四四

秋田縣……………四五

山形縣……………四七

甲信越地方……………四七



甲信越地方	四七
甲信越地方の交通系	四八
處誌	四八
山梨縣	四八
長野縣	五〇
新潟縣	五三
本州中部地方	五五
本州中部地方	五六
本州中部地方の交通	五六
處誌	五七
静岡縣	五七
愛知縣	六〇

三重縣	六三
滋賀縣	六六
岐阜縣	六八
福井縣	七〇
石川縣	七一
富山縣	七三
近畿地方	七四
近畿地方	七四
近畿地方の交通系	七四
處誌	七五
京都府	七五
大阪府	八〇

奈良縣	八三
和歌山縣	八五
兵庫縣	八八
中國地方	九一
中國地方	九一
中國地方の交通系	九二
處誌	九二
岡山縣	九三
廣島縣	九四
山口縣	九七
島根縣	九九
鳥取縣	一〇〇

四國區

四國區の海岸	一〇二
四國區の地勢	一〇三
四國區の區劃	一〇四
四國區の交通系	一〇五
處誌	一〇五
德島縣	一〇五
香川縣	一〇七
愛媛縣	一〇九
高知縣	一一〇
九州區	一一二
九州區の海岸	一一二

九州區の地勢	一一五
九州區の區劃	一一六
九州區の交通系	一一六
震 談	一一七
福岡縣	一一七
佐賀縣	一二〇
長崎縣	一二一
熊本縣	一二三
大分縣	一二五
宮崎縣	一二六
鹿兒島縣	一二八
南 域	一三一

琉球區	一三一
臺灣區	一三四
臺灣區の海岸	一三四
臺灣區の地勢	一三五
臺灣區の區劃	一三五
震 談	一三七
北部地方	一三七
西部中央地方	一三九
南部地方	一四一
東部地方	一四二
澎湖列島	一四二
總括	一四二

北域……………一四四

十州區……………一四四

十州區の海岸……………一四四

十州區の地勢……………一四五

十州區の區劃……………一四七

十州區の交通系……………一四七

處誌……………一四七

西部地方……………一四七

東北部地方……………一五〇

南部地方……………一五二

千島區……………一五五

概括……………一五七

帝國の氣候……………一五七

帝國の天産と産業……………一六一

内地商業と外國貿易……………一六九

帝國の軍備……………一七一

帝國の教育……………一七四

帝國の交通……………一七六

帝國の宗教……………一七七

帝國の國民……………一七七

帝國の政體……………一七八

# 帝國新地理目次畢



## 帝國新地理

### 總說

#### 日本帝國

我が神州大日本帝國は、東北より西南に互れ  
 る群島の一體にして、其中に大島五あり。最北に在るは十州  
 又北州と名づけ、其南に在るは本州と名づけ、本州の南に在  
 るは四國と名づけ、本州の西南に在るは九州と名づけ、九州  
 の西南に在るは臺灣と名づく。面積は、本州最も大にして、十  
 州九州臺灣之に亞ぎ、四國最も小なり。此等の大島に附屬す  
 る著名の島嶼には、十州の東に千島諸島、本州の北に佐渡島  
 隱岐島、四國の東に淡路島、九州の西北に對馬島、壹岐島あり。

(1) 一四九二方里  
 (2) 一〇五〇方里  
 (3) 二二二三方里  
 (4) 一、二五一方里

又本州の南に豆ツ南七島小笠原諸島九州の南に琉球諸島臺灣の西に澎湖列島あり。全國の總面積大約二萬七千方里、人口略ぼ四千六百萬にして、東北より西南への延長凡そ一千二百里とす。我が國を以て世界の諸國に比するに、面積に於ては其大を誇る能はざれども、人口の點に於ては世界の上位に居る。

**帝國の四面**

日本帝國は三連の弓狀をなし、凸面を以て太平洋に向ひ、凹面を以て亞細亞大陸に對す。大洋面は常に土地隆起の傾向を有し、大陸面は常に土地陷没の傾向を有す。大陸面には日本海あり。

十州の北の海はオコツク海OKHOTSKと稱し、九州及琉球諸島の西の海は東海トシベイと稱す。本州と四國との間は瀬戸内海と稱し、

風光明媚なる所とす。

日本海の西北には西シ比ベ利リ亞ヤと稱する地域あり。露ロ西シ亞ヤ國クニの領土にして、其面積我が國の略ぼ三十倍あり。同海の西の半島國は朝チ鮮セン韓カンと稱し、其面積我が國の略ぼ二分一に過ぎず。東海の西方には支シ那ナ清シと稱する大邦あり。其面積我が國の略ぼ二十六倍あり。西比利亞朝鮮支那は我が隣域にして、我れと密接の關係を有し、我が國と共に亞細亞洲の東部を占む。

十州の北に方りて薩サツ哈ハ連レン樺カ太フトと稱する島あり。此島はもと我が國の領土なりしが、二十餘年前千島諸島と交換して露西亞に與へ、今は彼の國の所有に屬す。千島諸島の北方に在る半島は東カム塞チヤ加ツカと稱し、西比利亞の一部分たり。

太平洋の遙か東方には**亞米利加**と稱する大地域あり。其中の**合衆國**と我が國とは、交情甚だ密にして貿易盛んなり。太平洋の遙か南方には**大洋洲**と稱する所あり。大小の諸島星の如く散布す。

**帝國の海岸**

大洋面は海岸の屈曲甚だしけれども、大陸面は其出入極めて少なし。四國十州臺灣は皆な海岸の屈曲稀少なれども、本州の南岸九州の西岸は海岸特に錯雜す。全國大小諸島嶼の海岸線延長は略ぼ七千四百里にして、五大島中にては、本州の海岸線最も長く、九州十州四國之に亞ぎ、臺灣の海岸線最も短かし。

**帝國の地勢**

我が帝國の地は、樺太山系**崑崙山系**の兩隆起帶によりて構成せらる。此兩山系の相結合する所に富士

一九五三  
一八六三  
一八三三  
一八一三  
一七五三  
一七〇三  
一六五三  
一六〇三

**帶火山脈**あり。此れより以東の地を**北日本**と名づけ、此れより以西の地を**南日本**と名づく。又太平洋に面する地方を**表日本**とし、日本海に面する地方を**裏日本**とす。北日本の表面に於ける山嶽は一體に低けれども、北日本の裏面は、日本全國中最も大なる變動を受けし地方にして、高山秀嶺甚だ多く、火山温泉に富む。南日本の裏面は、其表面に比すれば、噴火の顯象及地體の變動甚だしと雖も、北日本の裏面の如く甚だしからず。帝國に於ける大火山脈は富士帶火山脈の外、北に**千島帶火山脈**、南に**霧島帶火山脈**あり。

要するに、我が國は山國にして、到る所山巒鬱結し、平地は至つて少なく、僅かに總面積の九分一を占むるのみ。河は山多きを以て其數亦従つて多けれども、地幅狭きが故に大河を

形成する能はず。

帝國の區劃

我が國は臺灣を除き、現時全國を一道三府四十三縣に分つ。其下に郡市區町村あり。又天然の形勢によりて域内を八十五國に分ち、之を大別して畿内八道とす。舊時は畿内七道の制なりしが、明治の聖代に至り、北海道を加へて八道となれり。臺灣は近時支那より獲しものなるを以て道の稱なく、目下二十廳を置く。

畿道の制は、往時宮城の在りし京都近傍を畿内とし、之を元として、東方太平洋に沿へる一帯の地を東海道とし、畿内の東方東海道の北に在る地を東山道とし、東山道西半部の北方日本海に沿へる地と佐渡島とを以て北陸道とし、畿内の西方瀬戸内海に沿へる地を山陽道とし、山陽道の北方日

本海に沿へる地と隱岐島とを以て山陰道とし、四國及淡路島と畿内南方の半島地とを以て南海道とし、九州と壹岐島對馬島琉球諸島とを以て西海道とし、十州と千島諸島とを以て北海道とす。今畿道中に包含する國名を擧ぐれば次の如し。

東海道十五ヶ國

武藏 下總 上總 安房 常陸 相模 甲斐 伊豆  
駿河 遠江 三河 尾張 伊勢 伊賀 志摩

東山道十三ヶ國

近江 美濃 飛驒 信濃 上野 下野 磐城 岩代  
陸前 陸中 陸奥 羽前 羽後

北陸道七ヶ國

若狹 越前 加賀 能登 越中 越後 佐渡

畿内五ヶ國

山城 大和 河内 和泉 攝津



山陰道 八ヶ國 丹波 丹後 但馬 因幡 伯耆 出雲 石見 隱岐  
山陽道 八ヶ國 播磨 美作 備前 備中 備後 安藝 周防 長門  
南海道 六ヶ國 紀伊 淡路 阿波 讚岐 伊豫 土佐

西海道 十二ヶ國

筑前 筑後 豊前 豊後 肥前 肥後 日向 大隅  
薩摩 壹岐 對馬 琉球

北海道 十一ヶ國

渡島 後志 石狩 天鹽 北見 膽振 日高 十勝  
釧路 根室 千島

現時地學上全國を北域中域南域の三大部に分ち、十州と千島諸島とを以て北域とし、本州と四國九州とを以て中域とし、琉球諸島と臺灣とを以て南域とす。本書は即ち此區劃に従ふ。

特説

中域

本州區

**本州區の海岸** 〔太平洋に面する方〕 本州の最北に津輕半島、下北半島の兩突出あり。兩者相擁して陸奥内海をなす。下北半島は一に斗南半島と稱す。津輕半島の北端は龍飛崎と稱し、下北半島の北端大間岬と相對して蝸牛角状をなす。大間岬を東に廻れば尻屋岬あり。此岬より南に轉じ馬淵河口に至る間は、概して平坦の砂濱とす。此れより南、仙臺灣に至る間は、斷崖絶壁にして、南するに従ひ海岸の屈曲出入甚だし。其南方の突出は牡鹿半島と稱し、其中央部の海角は閉

伊崎と稱す。閉伊崎は實に本州の最東端なり。此れより海岸線稍や趣を變じ、久慈河口に至る間は概して平坦なる砂濱とす。久慈河口よりして南は鹿島灘の濱にして、砂丘の脈相連なり。犬吠岬に至る。此邊航行危険なり。此岬の西南は九里の濱にして砂丘の脈あり。此れより大東岬を過ぎて房總半島の南端野島崎近傍に至れば、沿海に岩礁多し。此邊を房州沖と稱す。此れより海岸北に廻り館山灣となり、三浦半島と相對して浦賀海峡をなす。其北に方り富津崎、觀音崎と相寄りて東京灣の咽喉をなす。富津崎は觀音崎と共に燈臺及砲臺の設あり。三浦半島の西は相模灣にして、其沖を相模灘と稱す。北岸は平坦にして砂多し。伊豆半島は沿岸概して斷壁にして、山角直ちに海岸に迫る。其南端を石廊崎と稱す。

此半島の西は駿河灣にして、灣の西南方の岬角は御前崎と稱す。此れより西、志摩半島に至る間は、遠州灘一に遠江灘と稱し、波濤荒し。其海岸一帶平砂の地にして、西部に渥美半島あり。其盡端を伊良湖崎と稱し、遙かに志摩半島と相望み、伊勢海の門を扼す。志摩半島より本州の最南端潮岬に至る間は、一帶の礁濱にして岩壁聳峙す。其海上を熊野灘と稱す。潮岬より比井岬に至る間も、亦斷崖にして田邊灣あり。此れより北は紀伊海峡の東岸とす。由良海峡を過ぐれば大阪灣あり。大阪灣は一に茅渚海と稱す。其東岸及北岸は一帶平砂の濱なり。大阪灣より本州の西端に至る間は、瀬戸内海の濱にして、海岸錯雜極まりなく、其海上には大小の諸島碁布羅列す。明石海峡を通ずれば播磨灘にして、其北岸は大抵平砂の

濱とす。小豆島を過ぐれば兒島半島兒島灣ありて水島灘となる。備後灘より燧灘となり、平清盛の鑿開せし穩戸瀬戸を通ずれば廣島灣あり。屋代島邊を過ぐれば周防灘にして室津半島あり。瀬戸内海は長さ大約百餘里、潮流は四國九州間の豊豫海峽及紀伊海峽より入り、中央部に於て相會し、再び兩方に分流す。

〔日本海に面する方〕本州北端の龍飛崎を西南に廻れば鱸作崎あり。此れより以南男鹿半島の突出あれども、海岸大抵平直なり。北陸道の海岸も亦富山灣七尾灣若狹灣の三灣と能登半島の突出とを除く外は、概して平直なり。能登の尖端珠洲岬近傍は巉岩高く峙つ。若狹灣以西も亦海岸の性質甚だ單純にして、屈曲出入少なく、概ね平坦なる砂濱なれども、

丹後半島島根半島の大突出あり。本州の西端に沿ひ響灘を過ぎ下關海峽を通ずれば、即ち瀬戸内海なり。

**本州區の地勢**

樺太崑崙兩山系の會合地即ち富士帶

火山脈の通ずる所は、地勢甚だ高峻にして、本邦中面積最も闊き所とす。富士帶火山脈は小笠原諸島豆南七島等と其脈を相延き、天城山箱根山富士山八嶽戸隱山妙高山等其中に在り。富士帶火山脈以東の表面部にては、樺太山系十州より本州に入りて、北上山脈阿武隈山脈を起す。前者には姫神山早池峯等ありて、後者には靈山大瀧根山八溝山筑波山等あり。阿武隈山脈の西南には關東山彙あり。大山丹澤山武甲山三峯山甲武信嶽金峯山等之に屬す。富士帶火山脈以東の裏面部には分水山脈ありて分水界をなす。岩手山吾妻山磐梯

\*一脈と稱す須火山

\*一に岩木火山脈と稱す

山那須山日光山等其中に在り。出羽山脈之に並行して又其西に在り。岩木山森吉山鳥海山月山等之に屬す。其脈延いて白根山四阿山淺間山等に及ぶ。出羽山脈の西には彌彥火山脈あり。彌彥山米山等之に屬す。分水山脈と北上阿武隈兩山脈との間は北上川阿武隈川の凹谷即ち奥平野にして、略ぼ三十萬町の田圃を有し、地味米桑に適す。又出羽山脈と分水山脈とを連結して東西に走る山脈ありて、階形の如き地形の排列をなし、岩木川能代川御物川最上川等諸川沿岸の諸平原其階形の内に在り。御物能代兩川の平原は略ぼ十三萬町の田圃を有し、最上川の平原は略ぼ十一萬町の田圃を有す。關東山彙ある地方は山巒稍や重疊すれども、其東方大部の地は平坦なる沃野にして、關東平野をなす。即ち利根川荒

\*本邦第二の大湖(周囲三六里)

川多摩川の流域にして、地味肥沃、五穀菜蔬に適す。利根川は俗に阪東太郎と稱し、其水霞浦と相通ず。利根川の流域は略ぼ五十四萬町の田圃を有す。

富士帶火山脈以西の表面部にては、崑崙山系の一派南日本外帶山脈、九州四國より本州に入りて、紀伊山脈赤石山脈となる。前者には高野山那智山彌山山上嶽大臺原山等ありて、後者には秋葉山赤石山白嶺駒嶽等あり。富士帶火山脈以西の裏面部にては、崑崙山系の一派南日本内帶山脈、九州より本州に入りて、中國山脈となり、濃飛高原より飛驒山脈木曾山脈に連亘す。中國山脈中には數多の三國山及蛭山等あり。濃飛高原は一大山地にして、山嶽錯雜し、別に山嶽の脈をなさず。位山伊吹山等の諸嶽其中に聳ゆ。飛驒山脈には御嶽乘

鞍嶽(10,450)穂高山(11,500)鎗嶽(10,200)立山(9,210)等あり。木曾山脈には駒嶽(9,500)惠那山(7,920)等あり。中國山脈は山陰山陽兩道の脊梁をなし、該山脈以南は地勢南に向ひて傾斜し、東大川(川吉井)西大川(川旭)等の河流あり。該山脈以北は地勢北に向ひて傾斜し、江川等の河流あり。畿内の域には淀川大和川の流れありて畿内平野をなせども、南部一帯紀伊に亙る地は山勢稍や峻峻なり。畿内平野は略ぼ十九萬町の田圃を有す。琵琶湖(琵琶湖)よりして東、關東山彙邊に至るまでの山地は、天龍川(天龍川)木曾川(木曾川)等東海道の諸水と、信濃川(信濃川)神通川(神通川)射水川(射水川)等北陸道の諸水とを分界す。木曾川の流域は尾濃平野にして、略ぼ十七萬町の田圃を有し、信濃川の流域は越後平野にして、略ぼ十五萬町の田圃を有す。又日本海の沿岸に方り白山火山脈あり。白山(白山)大山(大山)三瓶山(三瓶山)等之に屬す。其北

本邦第一の大湖  
周囲六〇里

本邦第一の長河

に又能登火山脈ありて能登半島の北部を掠む。阿蘇火山脈は九州より四國を経て本州中部に來り、鳳來寺山(山煙巖)を起す。

**本州區の區劃**

往時箱根山に關所ありしを以て、其以東の八國を關東地方と稱す。關東地方の北は奥羽地方と稱し、關東地方の西は甲信越地方と稱し、甲信越地方の西は本州中部地方と稱し、本州中部地方の西は近畿地方と稱し、近畿地方の西は中國地方と稱す。

**關東地方**

關東地方は東海道の東部と東山道の一小部の域にして、所謂關八州の地を占め、其中に次の諸府縣を包含す。

府	縣	國	縣	國	縣	國
東京府	東京府	武藏の一部、 豆南七島、 小笠原諸島	神奈川縣	武藏の一部、 相模	埼玉縣	武藏の一部
千葉縣	安房、上總、 下總の大部		茨城縣	常陸、 下總の一部	群馬縣	上野
栃木縣	下野					

安房上總下總の地は房總地方と總稱し、上野下野の地は兩毛地方と總稱す。

**關東地方の交通系**

帝都東京を元として諸道四方に分出す。西の方太平洋の沿海地方を通ずるものは東海道と稱し、西の方内地の中央部を通ずるものは中山道と稱し、北の方本州東北部の内地に向ふものは奥州街道と稱し、本州東北部の海岸地に向ふものは濱街道と稱す。其他甲州街道

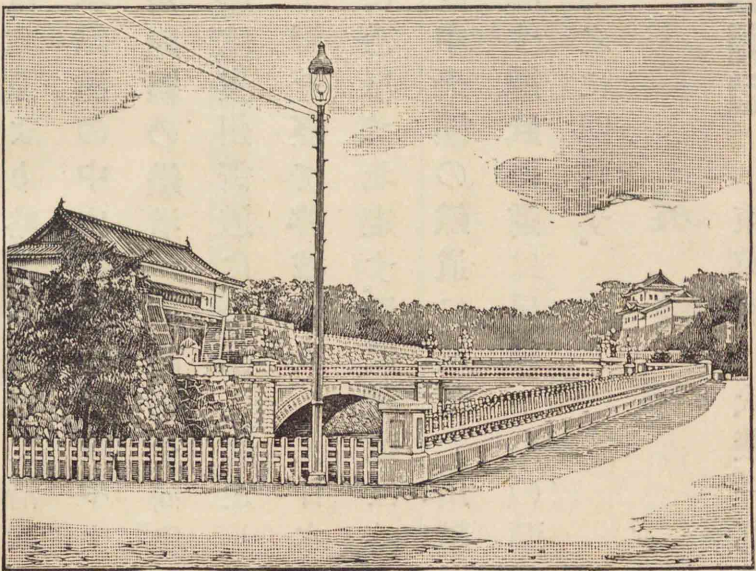
\*一に東北鐵道と稱す

等ありて、鐵道概ね此等の街道に沿ふ。官設東海道線の鐵道は東京より略ぼ東海道に沿ひて、相模を通じ駿河に向ふ。日本鐵道の中山道線は、略ぼ中山道に沿ひて上野に入り官設信越線の鐵道之に關聯す。同奥州線は中山道線より分岐し、略ぼ奥州街道に沿ひて北走し、水戸線を派し兩毛線を受け、下野を経て磐城に入る。又日本鐵道の磐城線は略ぼ濱街道に沿ひて北走す。甲武鐵道は略ぼ甲州街道に沿ひて進み、官設中央線の鐵道に連續す。川越鐵道青梅鐵道ありて之に關聯す。總武鐵道は房總半島の頸部に向ひ、房總鐵道成田鐵道等之に關聯す。

處 誌

**東京府**

東京府は武藏一部の地にして、豆南七島、小笠原



元年其名を現稱に改め、同二年

皇居を此に遷し給ひて  
諸島又其管下に屬す。西  
部には御嶽オホ大嶽等の山  
宮 巒あれども、他は地勢甚  
城 だ平坦にして、米麥能く  
二 登る。府廳は東京灣西北  
重 岸地の東京(市)に在り。  
橋 東京は我が兼用(1426)天皇陛  
之 下の宮居し給ふ所に  
圖 して、實に我が帝國の  
首都とす。此地はもと  
江戸と稱せしが、明治

\* 麹町區 神田區  
日本橋區 京橋區  
區 芝區 麻布區  
區 赤坂區 四谷區  
區 牛込區 小石川區  
區 本郷區 下谷區  
區 淺草區 本所區  
區 深川區

より、爾來中央政府の所在地として政事の中心となり、商  
工百般の業盛んに行  
はれ、殷盛全國に冠た  
り。隅田川市の東部を  
流れ、架するに數大橋  
を以てす。隅田川は荒  
川下流の稱にして、其  
河畔向島ムカフジマは櫻花の美  
を以て名あり。市内を  
分ちて十五區とす。  
宮城は市の中央に位  
し、我が國の樞要なる



東京市中之圖

官廳は多く其内外に在り。宮城の地はもと太田道灌の築きし所にして、其後徳川將軍の代々城居せし所とす。宮城の西北に靖國神社あり。本市には近衛師團ありて、輦下警衛の事に任じ、又第一師團司令部陸軍大學校士官學校及海軍大學校等あり。東京帝國大學高等師範學校、第一高等學校、高等商業學校、東京高等工業學校、東京美術學校、東京外國語學校等の諸校亦此に在り。市内の公園中其名の最も著はるゝは、上野芝淺草の三とす。上野公園には、徳川氏の靈廟、東照宮、動物園、博物館、圖書館等あり。園内櫻樹多し。淺草公園には有名なる淺草寺ありて、域内常に雜沓す。芝公園には徳川氏の靈廟ある増上寺あり。市内は道路四通八達し、實に八百八町の名あり。到る所人車馬車の來

徳川吉宗等の靈廟

徳川秀忠等の靈廟

往織る如く、主要の街路には馬車鐵道の設あり。日本銀行を始め幾多の宏壯なる建築物あり。市の名産には紫染錦繪、淺草海苔等あり。淺草海苔は東京灣の西北岸より産するものとす。近時製造工業大に進歩し、所々に諸種の工場勃興し、綿絲等の産多し。本市は古の所謂武藏野の一隅にして、近傍に山嶽の起伏するなし。

官設東海道線の鐵道は新橋より發し、日本鐵道の諸線は、上野より發す。甲武鐵道は麴町區より發し、總武鐵道は本所區より起る。又日本鐵道の山手線ありて、市の西郊を廻走す。東武鐵道又磐城線に關聯して、市北千住に起り、略ぼ奥州街道に沿ひて北走し、埼玉縣の東北部にて日本鐵道の奥州線に會す。

今戸燒

泉岳寺赤穂義士の墳墓、本門寺日蓮入寂の所



多摩川の上流より長堤を東京に通じて飲料に供す

源爲朝の流されし所に三原山あり  
新島の屬島にして昔は本島と連なりしが海嘯のために分裂せしものなりといふ  
文祿二年小笠原貞頼の發見せしもの

甲州街道の要路に**八王子**あり。織物業の中心地にして、甲武鐵道によりて東京と相通ず。官設中央線の鐵道此に起り、小佛峠の洞道を過ぎて甲斐に入る。其西北多摩川上流地方の**青梅**は青梅鐵道により甲武鐵道に連續し、以て東京に通ず。  
多摩川には鮎の産あり。

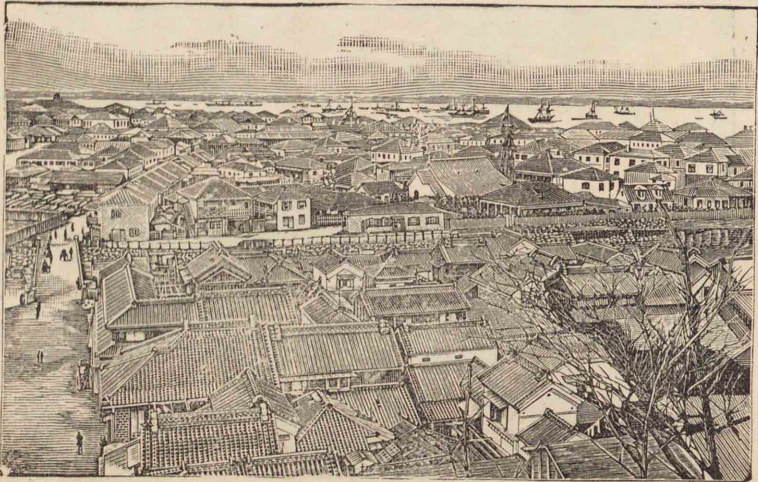
(豆南七島及小笠原諸島) 豆南七島中にては、大島を最大とす。其南に**利島新島式根島神津島三宅島御倉島**、次を以て羅列し、最南に**八丈絹**を以て名ある**八丈島**あり。八丈島と御倉島との間に**黒瀨川**又**黒潮**と稱する海流あり。小笠原諸島は豆南七島の遙か南方に在りて、其中に父島母島等あり。椰樹鳳梨甘蔗煙草等能く生育し、鱧鯨鰻龜信天翁等を産す。其南方に又近年我が版圖に入りし**硫黃島**あり。

五山

建長寺  
圓覺寺  
善福寺  
淨智寺  
淨明寺

神奈川縣

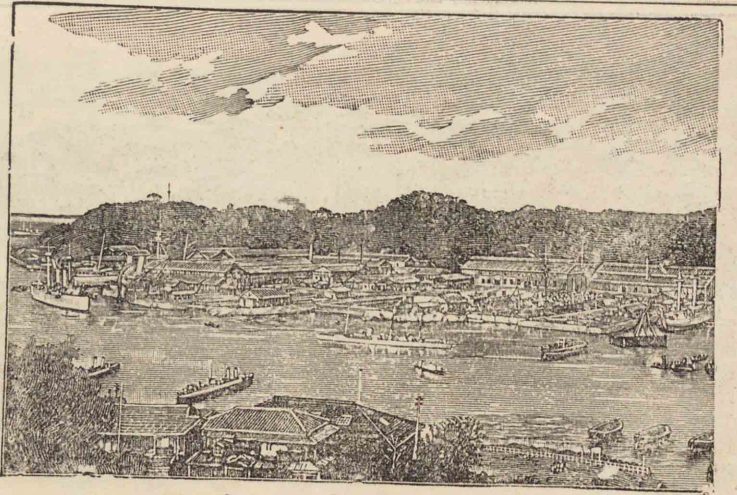
神奈川縣は武藏一部と相模との地にして、西



横濱之圖

方には山巒重疊すれども、其他は地勢平坦にして、**相模川**の流れあり。相模川は其下流を馬入川と稱す。縣廳は東京灣西岸地の**横濱(市)**に在り。横濱はもと一漁村たるに過ぎざりしが外國と貿易を行ふため之を開きてより、大に發達し、今は我が國第六の大都會となれり。實に大開港場の一とす。近來漆器の産多し。生絲絹布茶銅等を盛んに海

\*  
平間寺



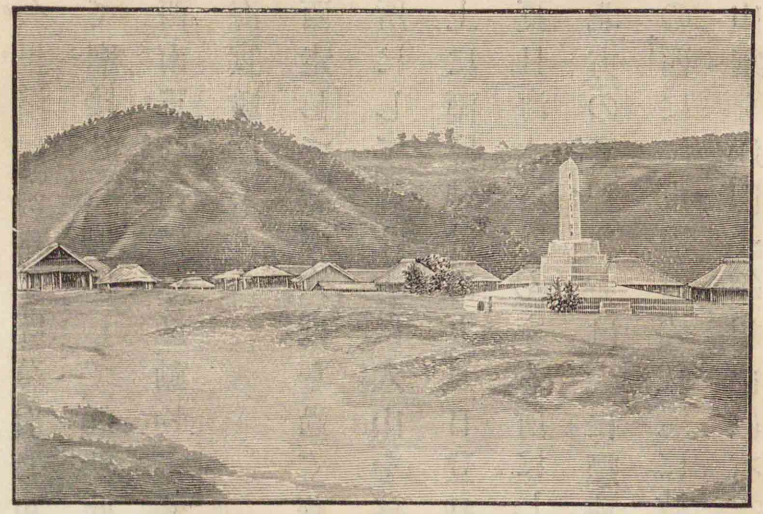
横須賀造船所之圖

の舊蹟甚だ多し。鶴岡八幡宮、鎌倉五山の一なる建長寺、護良

外に輸出し、綿絲、石油、砂糖、毛布、機械、雜貨等を多く海外より輸入す。東海道線の鐵道は、東京より川崎大師堂附近を過ぎて此に來り、大船に至りて支線を鎌倉横須賀に出だす。鎌倉は源頼朝の覇府を開きし所にして、其當時は武門政治の中心として、天下の實權此に聚まり、頗る繁盛を極めしが、今は寂寞たる一寒村となれり。此地附近歴史上

\*  
北條實時建設  
上杉憲實再興  
稻村ヶ崎(新田  
義貞の佩刀を  
海に投ぜし故  
地)  
江ノ島貝細工

親王を祀れる鎌倉宮等最も著名なり。鎌倉宮背後の土窟、頼朝屋敷、北條屋敷、公方屋敷の址及頼朝の墳墓を弔ふ者は、往時を追想して一滴の暗涙なき能はざるべし。鎌倉の近傍金澤は金澤文庫の舊蹟ある所とす。鎌倉の西南江島は景勝を以て名あり。横須賀は軍港の一にして、第一海軍區鎮守府の在る所とす。巨大なる造船所ありて、數艘の軍艦常に碇泊す。又海軍機關學校



久里濱彼理上陸紀念碑之圖

浦賀水館

あり。横須賀の東南浦賀近傍久里濱は嘉永年間幕府官吏の合衆國水師提督彼理と始めて應接せし地にして、近時此に其上陸紀念碑を建つ。浦賀の西南三崎邊は水産動物多く群集するを以て、帝國大學の臨海實驗所あり。

清淨光寺

東海道線の鐵道は、大船より西走して藤澤大磯を過ぐ。藤澤は時宗の本山遊行寺の在る所にして、西北方に大山を望む。大山は一に雨降山と稱す。山上に雨降神社あり。夏日登拜する者多し。大磯は鎌倉と共に夏日海水浴盛んなる所にして、貴顯紳士の別荘多し。大磯西北方の秦野地方は大に煙草を産す。東海道線の鐵道は大磯の西にて東海道の往還に岐れ、酒匂川の河谷に沿ひて箱根山彙を迂回す。箱根山は有名な<sup>+</sup>る。熄火山にして、温泉諸所に涌出し、實に避暑の仙境とす。山

國府津

火山の形跡を存するも有史

以來未だ嘗て噴火せしことなきもの

箱根七湯

湯本細工

後北條五代の墓湯本早雲寺に在り

大久保氏十一萬三千石の舊城地

電氣鐵道國府津より小田原を經て湯本に至り、人車鐵道又小田原より起りて熱海に至る

松井氏八萬石の舊城地

上に湖あり。蘆湖と云ふ。近く富士の美峰を望む。其山影の湖面に映ずるもの、逆さ富士の名あり。此湖は舊噴火口に水の溜りしものとす。湖畔に離宮及舊關所跡あり。近傍石橋山は源頼朝の戦に敗れし所とす。箱根山東麓附近の小田原は、後北條氏の居りし所にして、箱根熱海の温泉場に至る要路に當る。沿海漁利多し。

埼玉縣

埼玉縣は武藏一部の地にして、西方には武甲山

三峯山

等秩父の諸山あれども、東方は一面の平野にして、田

畝遠く開け、麥の産本邦に冠たり。縣廳は浦和に在り。中山道線の鐵道東京より此に來り、大宮熊谷を過ぎて上野に入る。大宮は中山道線の鐵道と奥州線の鐵道との分岐する所に、氷川神社あり。大宮の西方川越は川越平の産地にして、

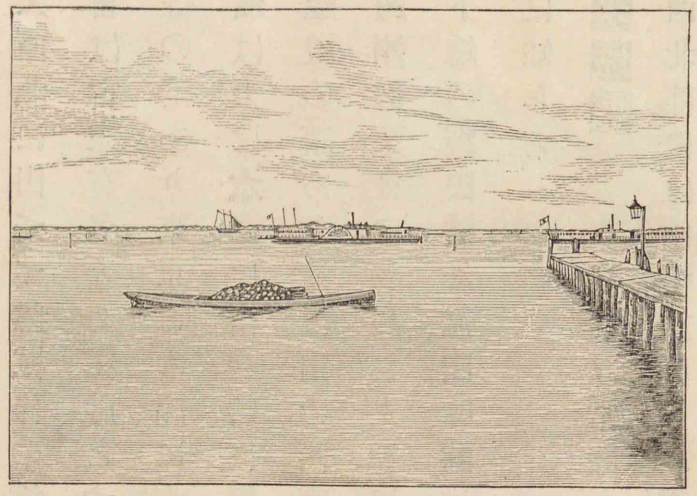
青縞の主産地  
は北埼玉地方  
とす

川越鐵道によりて甲武鐵道に連續し、以て東京に通ず。上武鐵道近時熊谷より起りて秩父地方に向ふ。秩父地方は荒川の源流地にして、生絲の産多く、又石材に富む。其中に大宮郷あり。縣内概して紡織の業盛んにして、青縞秩父絹等世に名あり。又狭山邊には茶の産あり。

千葉縣

千葉縣は安房土總と下總大部との地にして、所謂房總半島の域なり。南方には鋸山鹿野山清澄山等の諸山あれども、其他は平坦にして田畝原野多し。原野には小金原習志野等あり、鋸山は頂形鋸齒に似たるを以て名高く、鹿野山は景勝を以て聞こゆ。北境には利根川の巨流ありて、西境には其支流江戸川あり。縣廳は東京灣東北岸地の千葉に在り。千葉は千葉氏二十餘世の城址ある所にして、千葉醫學專

\*堀田氏十一萬石の舊城地  
木内宗吾



利根河口之圖

子節銚子縮を産す。成田鐵道は佐倉より出で成田を経て佐

門學校あり。總武鐵道によりて東京と相通ず。江戸河畔の國

府臺は、里見後北條の古戰場にして、近時まで教導團の在りし所とす。房總鐵道は千葉より本縣の東海岸地に向ひ、總武鐵道は千葉より佐倉を経て銚子に至る。佐倉邊は所謂佐倉炭を出だす。近傍に印旛沼あり。銚子は利根河口に在りて、漁業の盛んなる所とす。其海角を犬吠岬と云ふ。銚

新勝寺

誕生寺日蓮誕生の故地に於て小湊にあり

原に至る。成田には有名なる成田不動堂あり。成田より鐵道又西北に出でて磐城線の鐵道に連續す。佐原近傍の香取神宮は古來有名なる靈社とす。本縣の西海岸には木更津北條等の港あり。東京との間に汽船常に往復す。東海岸九十九里濱は大に水産に富む。特に鱈獵最も盛んにして、土諺に鯛様鱈殿の語あり。清澄山の西南峯岡牧場にては、牛馬を牧養す。房州砂又世に名高し。上總にては家禽の飼養盛んに行はれ、下總の野田醤油流山味醂は其産海内に冠たり。行徳鹽亦世に知らる。

茨城縣

茨城縣は常陸と下總一部との地にして、北方及西北部には山巒重疊し、八溝山加波山筑波山等の諸山あれども、其他は地勢平坦なり。縣廳是那珂川下流地の水戸(市)に

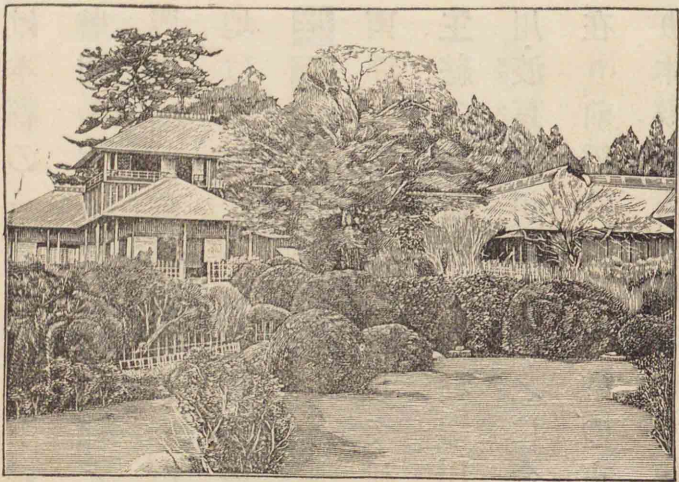
徳川氏三十五萬石の舊城地

徳川光圀大日本史弘道館

土屋氏九萬五千石の舊城地

北浦

源義家の歌詠して過ぎし來の關と思へどもみちもせに散る山櫻かな



在り。水戸はもと徳川氏の親藩を置きし地にして、濱街道の

の鐵道より岐出し、結城を経て水戸に來る。結城邊は大に水

要路に當り、日本三公園の一なる常磐公園あり。附近大に煙草を産す。磐城線の鐵道は東京より土浦石岡を經、此に來り、東北走して平瀧を過ぎ磐城に入る。公土浦附近に霞浦あり。霞浦は魚類に富み、運漕の利多し。平瀧の附近に勿來關址あり。太田鐵道は水戸より北方に走りて太田に至り、水戸線の鐵道は奥州線

西ノ内紙  
主産地は多賀郡

松平氏十七萬石の舊城地

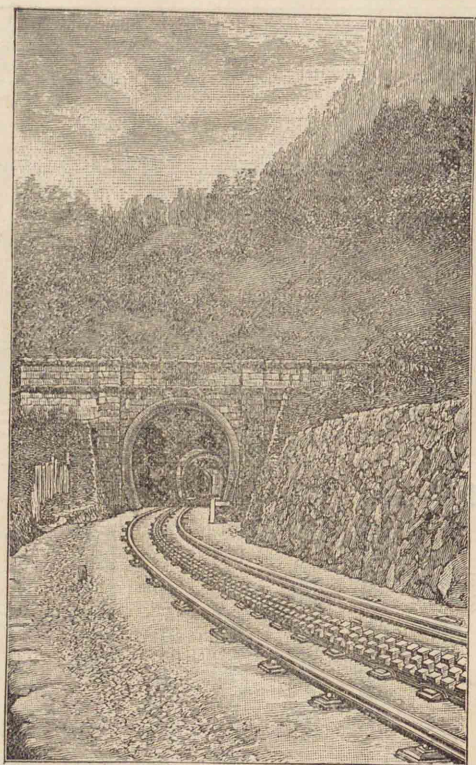
大河内氏八萬二千石の舊城地

綿を産し、結城紬又世に著はる。奥州線の鐵道に沿へる古河は本縣の一名邑たり。下總の猿島地方に在る岩井は往昔平將門の偽宮を設けし地とす。猿島地方は所謂下總茶を産す。鹿島浦に鹿島神宮あり。境内名勝多し。北方久慈川流域の山地は石材に富む。常陸石炭又名あり。

群馬縣

群馬縣は上野の地にして、域内山多けれども、東南部は平野沃土にして、村里概ね皆な桑を植ゑ蠶を養ひ、繭生絲の産甚だ多し。利根川源を本縣の北部に發し、吾妻川烏川・渡良瀬川等の水之に合す。縣廳は利根川東岸の前橋(市)に在り。前橋は生絲商業の市場とす。中山道線の鐵道、埼玉縣より本縣に入り高崎市(市)を経て此に來る。兩毛線の鐵道、又此地より東方に走り奥州線に會す。高崎は中山道の要路に當り、

市街繁盛なり。官設信越線の鐵道此より西方に出で、妙義山の近傍を經、碓氷峠の洞道を過ぎ、淺間山を望んで信越地方に向ふ。其の碓氷峠を過ぐる所、アプト式鐵道による。妙義山



アプト式鐵道之圖

は奇石怪岩を以て名高く、赤城山・榛名山と共に上野三山と稱す。上野鐵道、又高崎より西南に走り富

岡を過ぐ。富岡には有名なる製絲場あり。兩毛線の鐵道に沿へる伊勢崎及桐生は機織の業盛んなる所にして、伊勢崎の

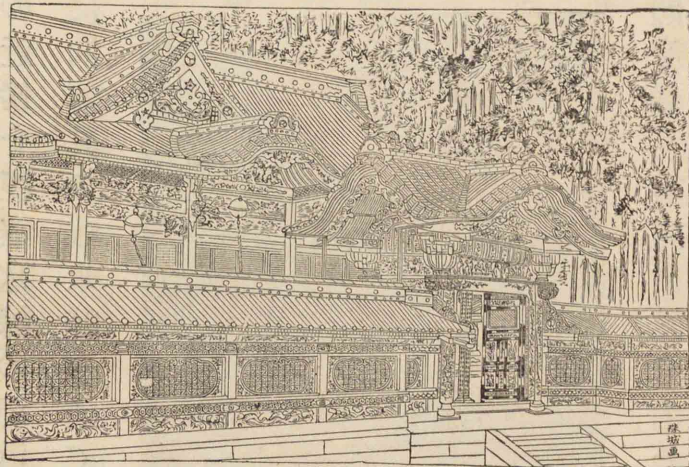
\*染織學校あり  
織物學校あり

Handwritten notes in the top left margin, including the number '550' and some illegible characters.

Handwritten notes in the top right margin, including the number '550' and some illegible characters.

大田金山新田  
氏の城址

\*戸田氏七萬石  
の舊城地



光靈廟之圖

銘仙、桐生の羽二重、繻子等其名大に世に聞こゆ。縣内温泉多く、榛名山東北腹の伊香保、白根山東方の草津等、頗る名あり。

栃木縣は下野の地に於て、東北西の三方は山嶽重疊し、南方の一面は土地開豁にして、地味大麻に宜し。那珂川、鬼怒川皆な源を域内に發す。縣廳は宇都宮(市)に在り。奥州線の鐵道、小山を経て此に來り、那須野原を過ぎ磐城に入る。小山は兩毛線鐵道及水戸線鐵道と奥州線鐵道との分合點とす。那須野原

十  
一  
カ

唐澤山(藤原秀郷の城跡)  
\*小野篁創立  
上杉憲實再興

は那須山の南麓に在る原野にして、廣袤十數里に跨る。近傍の山中に鹽原温泉あり。宇都宮近傍は干瓢の産多し。日光線の鐵道、宇都宮より西方に出で、日光に至る。日光には有名な東照宮あり。其壯麗帝國に比なく、俗に日光を見ずして結構を云ふ勿れの語あり。近傍日光山中に華嚴、瀧裏見、瀧等の勝あり。日光山は男體山、白根山等の總稱にして、男體山の麓に中宮祠湖あり。一に中禪寺湖と稱す。渡良瀬川の源流地に在る足尾銅山は、本邦第一の銅山とす。附近に石橋洞門の奇を以て名ある庚申山あり。兩毛線の鐵道に沿ひて、栃木佐野及足利あり。足利は織物の産に名ある所にして、足利學校の舊蹟あり。此邊に佐野鐵道あり。佐野にて兩毛線の鐵道に交叉す。本縣の東南地に在る眞岡邊は木綿の産に名あり。

### 奥羽地方

**奥羽地方** 奥羽地方は東山道東北部の地にして、其中に次の諸縣を包含す。

青森縣	福島縣	縣	國	縣	國	縣	國
陸奥の大部	岩代、磐城の大部	宮城縣	陸前の大部、磐城の一部	岩手縣	陸前の一部、陸中の一部、陸奥の一部	山形縣	羽前、羽後の一部

陸前陸中陸奥の地は三陸地方と總稱し、羽前羽後の地は兩羽地方と總稱す。

**奥羽地方の交通系** 東部にては奥州街道、阿武隈川北上川の流域を北走し、濱街道亦東方の海岸地を北走し、奥州線の鐵道磐城線の鐵道、其各道に沿ひて交通甚だ便なれども、

西部は交通の便に乏しく、鐵道の設未だ全からず。近時官設奥羽南線の鐵道奥州線より岐出し、岩代より羽前に入り、同奥羽北線の鐵道亦奥州線に關聯して、陸奥より羽後に入り、其便稍や開く。奥州線に關聯して、南部に岩越鐵道あり。

### 處 誌

#### 福島縣

福島縣は岩代と磐城大部との地にして、東方の

\* 靈山神社北島顯家を祀る

海岸地と阿武隈川の流域とを除く外は、山巒鬱結重疊し、靈山、吾妻山、磐梯山等の諸山あり。靈山は北島氏の城址ある所にして、吾妻山、磐梯山は共に近時破裂せしことある火山とす。阿武隈川の沿岸地は田圃沃土多く、頗る蠶桑の利に富み、蠶卵紙の産に名あり。西部は地勢甚だ高峻なれども、會津平の沃野あり。縣廳は阿武隈川流域の福島に在り。福島は生絲



\*丹羽氏十萬石の舊城地  
安達ヶ原

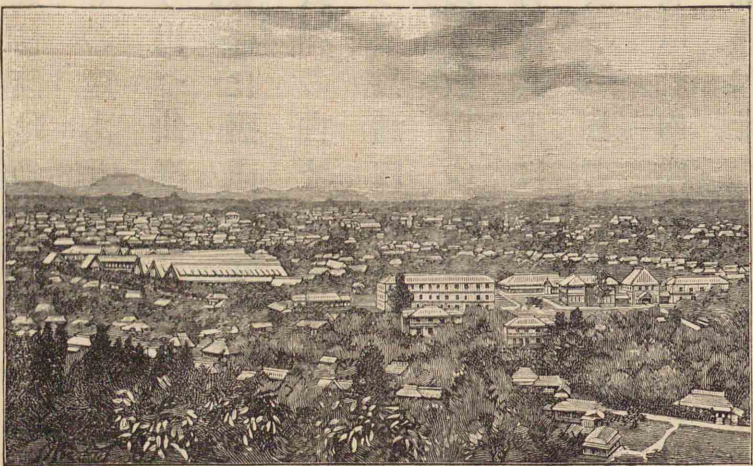
↑松平氏二十八萬石の舊城地

↑相馬氏六萬石の舊城地  
相馬燒は器毎に馬形を印す小名濱  
秋田氏五萬石の舊城地

蠶卵紙の市場とす。奥州線の鐵道、**白河須賀川郡山二本松**を経て此を過ぐ。須賀川郡山二本松邊は製絲の業盛んなり。白河は二本松と共に戊辰の激戰地たりし所にして、附近に**白河關址**あり。岩越鐵道郡山より起り**猪苗代湖**の北方を過ぎ、會津平中心地の**若松(市)**に至る。若松は又戊辰の戰史上に名ある所にして、**會津塗**を産す。附近又**人參**の産多し。猪苗代湖の水は日橋川となり、只見川を合せて、終に**阿賀川**をなす。岩越鐵道は他日若松より進んで、阿賀川沿岸地を通じ、越後に通ぜんとす。磐城線の鐵道に沿へる都邑には**平及中村**あり。中村は**相馬燒**の産に名あり。平邊の山脈は**石炭**に富む。郡山の東北**三春**地方には**三春駒**を産し、北方**半田**銀山よりは大に銀を出だす。

宮城縣

宮城縣は陸前大部磐城一部の地にして、西部南部及東北部は山嶽重疊すれども、**阿武隈川北上川**地方は地概ね平坦にして、沃野多く、所謂**仙臺米**の産あり。縣廳は奥州線の鐵道に沿へる**仙臺(市)**に在り。仙臺は奥羽地方第一の大都會にして、第二師團司令部、第二高等學校、仙臺醫學專門學校等あり。經峯の伊達政宗の靈廟は、頗る壯觀とす。往時白河關ありしころは



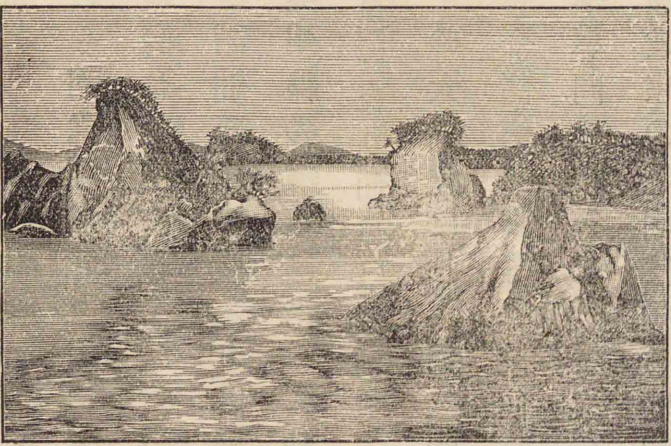
\*伊達氏六十二萬五千石の舊城地

仙臺之圖

部及東北部は山嶽重疊すれども、**阿武隈川北上川**地方は地概ね平坦にして、沃野多く、所謂**仙臺米**の産あり。縣廳は奥州線の鐵道に沿へる**仙臺(市)**に在り。仙臺は奥羽地方第一の大都會にして、第二師團司令部、第二高等學校、仙臺醫學專門學校等あり。經峯の伊達政宗の靈廟は、頗る壯觀とす。往時白河關ありしころは

宮城野城東に在り

近傍諸地の物産、皆な此に集まれりといふ。仙臺平埋木細工等の産あり。埋木は名取川等より出づ。仙臺の東北、松島灣頭の鹽竈に鹽竈神社あり。近傍に多賀城の古址ありて城碑此に建つ。松島灣内には所謂松島の勝あり。數百の群島、碁布羅列して、青松其上に茂生す。實に日本三景の一とす。北上川河口地の石巻は、縣内商業の要區にして、汽船常に北上川を上下し、其上流地方物産の出口をなす。石巻の東南、荻濱は、大船を泊すべき



松島之圖

白石

雄勝石雄勝濱より産す

南部氏二十萬石の舊城地

釜南部鐵瓶南部

十時  
臨時緯度觀測所あり

良港たり。其近傍の金華山島は、昔時陸奥山と稱せしものにして、下總の犬吠岬と相對し、眺望頗る壯快なり。奥州線の鐵道は岩沼に於て磐城線の鐵道と相會し、仙臺を経て北走す。縣内牧場に適する地多く、牛馬の牧養盛んに行はる。沿海又漁利多く、仙臺鮪世に名あり。北上川には鮭鱒の産あり。

岩手縣

岩手縣は、陸前一部、陸中大部、陸奥一部の地に於て、西部には分水山脈の諸山、東部には北上山脈の諸山ありて、峰巒諸所に起伏すれども、北上川地方は地概ね平坦なり。縣廳は北上川上流地方盛岡(市)に在り。此地は南部縞の産地にして、又林檎を産す。西北に南部富士の稱ある岩手山を望む。近傍に厨川、柵址あり。安倍貞任の據りし所とす。奥州線の鐵道は、一關水澤等を経て盛岡を過ぎ、北走して青森縣に入

藤原秀衡居館の跡  
源義經の寄寓せし所即ち衣川館址

仙人峠

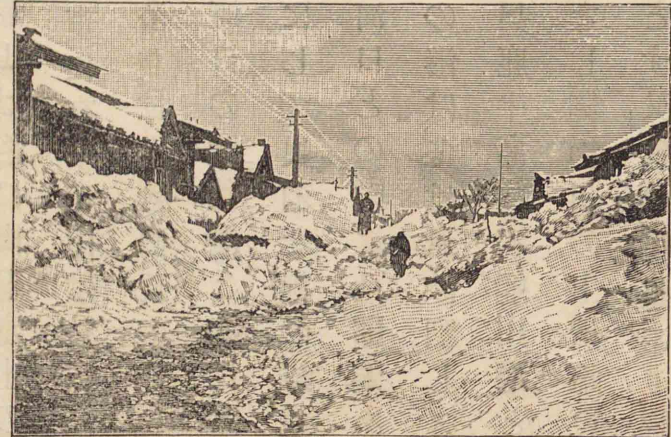
0

る。一關と水澤との間に衣川あり。此邊古蹟多く、衣川、柵址、平泉館址、高館中尊寺等其名高し。水澤近傍には又鎮守府址あり。海岸地には宮古等稍や繁華なる地あれども、近年大海嘯の變に遭遇し、爾來諸村大に衰微せり。縣内牧畜鑛業共に盛んにして、北部の原野よりは所謂南部駒を産し、釜石鑛山よりは大に鐵を産す。盛岡以南は養蠶盛んなり。

**青森縣** 青森縣は陸奥大部の地にして、國內山多けれども、岩木川及馬淵川の流域は地勢平坦なり。東方の海岸地に小河原沼、南境の山地に十和田湖あり。十和田湖は水清くして風景に富む。縣廳は青森灣南岸地の青森(市)に在り。青森は十州渡航の要津とす。奥州線の鐵道、岩手縣より本縣に入り、支線を八戸方面に出だし、西北走して野邊地灣の南岸地を

日本一

津輕氏十萬石の舊城地



通じ、此に來りて止む。官設奥羽北線の鐵道青森より起り、西南走して岩木川上流地の弘前(市)を過ぎ羽後に入る。弘前は第八師團司令部の在る所にして、津輕塗を産す。下北半島の大湊

青森之雪景

は良港とす。縣内山林多く、津輕地方の羅漢柏特に名あり。又馬の産多く、宇會利山よりは硫黃を産し、岩木川よりは鮭鱒を産す。又林檎の産に富む。

秋田縣

秋田縣は羽後大部

陸中一部の地にして、域内山脈連亘すれども、御物川能代川

佐竹氏二十萬  
五千石の舊城

周回二〇里

源義家の清原  
家衡武衛を攻  
めし所

地方は地概ね平坦にして、所謂秋田米の産多し。西南境の鳥海山は、俗に出羽富士の稱あり。縣廳は御物川沿岸地の秋田(市)に在り。秋田は秋田畝織の産地とす。近傍に高清水の古蹟あり。世々秋田氏の住せし所とす。御物河口の土崎港は、能代河口の能代港と共に、米の輸出多し。能代港は能代塗の産地にして、奥羽北線の鐵道現時此邊まで來る。能代河口と御物河口との間に八郎瀨あり。男鹿半島其西に突出す。凡そ此邊の港は、冬は風波烈しきを以て、船舶寄泊する能はざれども、男鹿半島内の船川港と陸奥の大湊とは、冬期の碇繫に妨げなし。御物川の上流地に在る横手は、木綿商業の盛んなる所とす。又金澤柵址あり。縣内鑛山多く、阿仁銅山尾去澤銅山小坂銀山院內銀山等特に名あり。又山林に富み、秋田杉の名世

に高し。秋田欸冬又天下の奇産と稱す。

山形縣

山形縣は羽前と羽後一部との地にして、最上川の流域を除く外は、群山連互し、羽前三山の稱ある羽黑山湯殿山月山等あり。此三山は各山頂に神社ありて、夏秋の候諸國より參拜する者多し。最上川は日本三急流の一にして、其流域は所謂出羽米の産地とす。沿岸又薄荷の産多し。縣廳は最上川上流地の山形(市)に在り。奥羽南線の鐵道福島より米澤(市)を経て此を過ぐ。米澤は所謂米澤絲織の産地なり。北方の新庄は綾織に名あり。最上河口の酒田港は米穀の輸出多し。其東南に鶴岡あり。此邊の地方を庄内と稱す。

甲信越地方

甲信越地方

甲信越地方は、地域東海東山北陸の三道に

水野氏五萬石  
の舊城地  
上杉氏十八萬  
七千石の舊城  
地  
戸澤氏六萬八  
千石の舊城地  
酒井氏十七萬  
石の舊城地  
庄内繪蠟燭

互り、其中に次の諸縣を包含す。

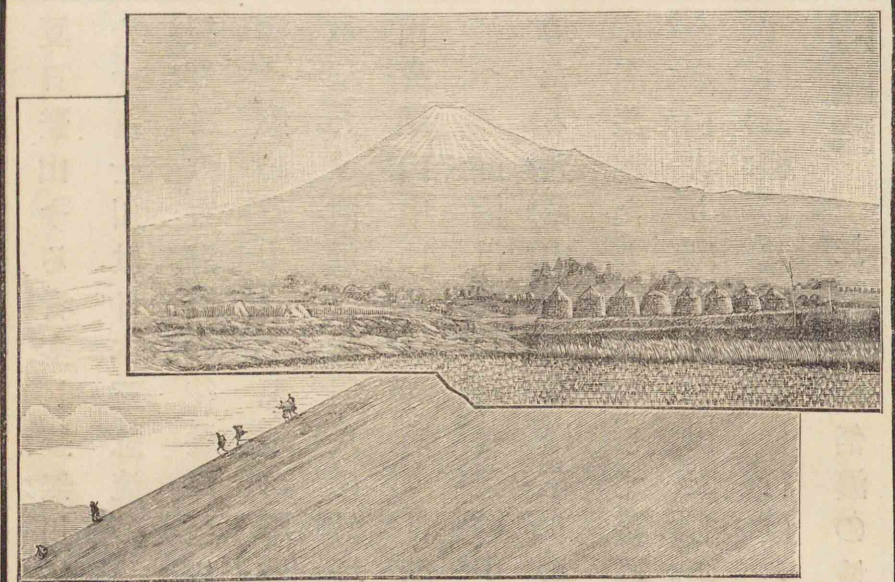
山梨縣	國	長野縣	國	新潟縣	縣	越後、佐渡	國
甲斐		信濃					

**甲信越地方の交通系** 甲信越の地には、信濃に中山道、越後の海岸地に北陸街道あり。又官設信越線の鐵道、北越鐵道等ありて、交通稍や便なれども、甲斐は頃日東境に官設中央線鐵道の小部開通せるのみにして、交通の便に乏し。中央線は將來甲斐より信濃に入り、尾張に向ふべき豫定なり。

處 誌

**山梨縣** 山梨縣は甲斐の地にして、高山四境を周り、内地亦山多けれども、中央は稍や平坦にして、田圃開け稻田桑野

火山なれども  
長時期の間活  
動の作用を現  
出せざるもの



富士山之圖

相連なる。南境の富士山は有名なる高峯にして、形恰も倒扇の如く、四面形狀を同じうす。所謂休火山にして、中央に舊噴火口あり。八峯周圍に駢列す。劔峯最も高し。東南の山腹に一峯あり。寶永山といふ。南麓は即ち裾野にして、西麓には所謂富士人穴あり。七湖諸所に散在す。箱根山上の蘆湖と共に、富士八湖の名あり。

富士八湖  
西木柵  
精進  
甲斐國

御嶽山(金櫻神社)  
日本武尊の跡を駐め給ひし所

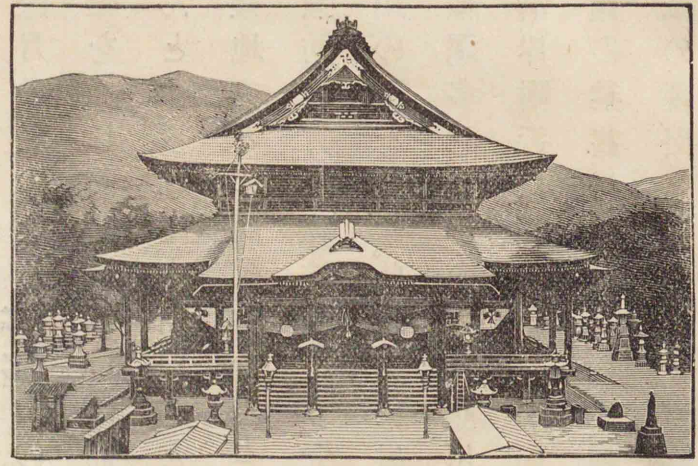
夏日登山する者多し。釜無川(カマナシ)笛吹川(フエフキ)の水相合して富士川をなす。富士川は日本三急流の一にして、水勢甚だ急なり。沿岸カシカサハ鵜澤(ウヰ)より、東海道の往還に至る十八里、舟行フナユカ纔に半日にして達す。縣廳は中央平原地の甲府(カノ)市(マツ)に在り。國內各地物産の集散地とす。附近に武田氏の館址(タケダノ)酒折(サカ)宮等あり。甲府の遙か西南身延山中に久遠寺あり。日蓮宗の總本山とす。甲州街道に沿へる勝沼は、葡萄培養業の中心地にして、武田勝頼生害の地たる天目山、其近傍に在り。其東方一圓郡内(ノ)と稱し、甲斐絹の名産地たり。縣内概して養蠶業盛んにして、生絲の産多し。金峯山よりは水晶を出だし、雨畑(アメノ)は硯材に名あり。西南地にては三桎(ミツヅ)の栽培盛んに行はる。葡萄の外又果實の産多し。

長野縣

長野縣は信濃の地にして、境域十國に接す。峯巒

\*松平氏五萬三千石の舊城地

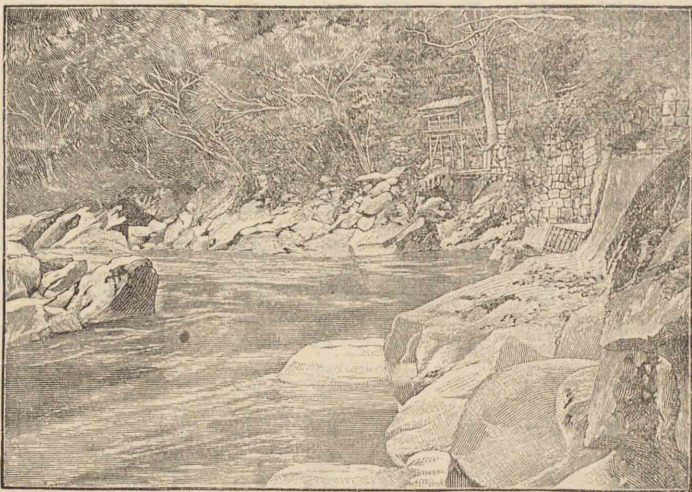
國內に鬱結し、四境又山脈を繞らし、地勢甚だ高けれども、域内自ら平地あり。千曲川(チヌ)、犀川(サイ)と相會ひて信濃川をなす。其兩河の相會する所は、即ち川中島にして、武田・上杉兩氏の屢ば雌雄を爭ひし古戰場とす。縣廳は長野(ノ)市(マツ)に在り。長野はもと善光寺(ヨシノ)町と稱せし所にして、有名なる善光寺あり。信越線の鐵道は群馬縣の域より碓氷峠を過ぎ、輕井澤(キヤウサイ)上田(ウエダ)を経て此に來り、北走越後に入る。輕井澤は避暑の好適地にして、上田は上田縞の



善光寺之圖

更科蕎麥  
戸田氏六萬石  
の舊城地

飯田元結



木曾棧道舊蹟之圖

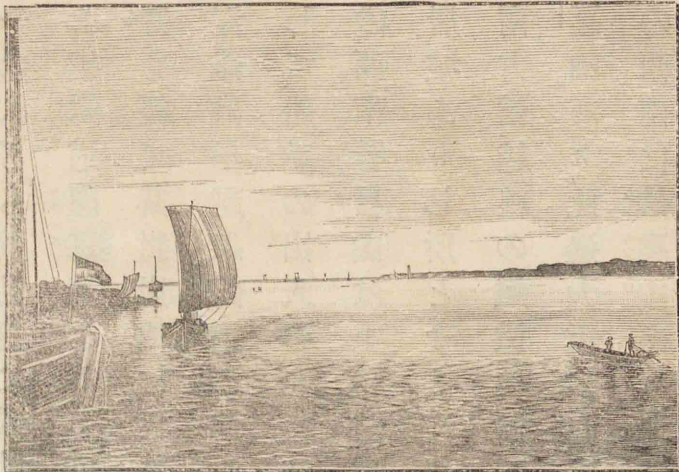
産地とす。官設篠井線の鐵道篠井より信越線の鐵道に岐れ、  
觀月の名のなる姨捨山の山腹を通じ、將に松本市に通ぜんとす。松本は、南信地方と越後地方との商業中心地とす。諏訪地方に諏訪湖あり。天龍川の源をなす。此地方には製絲場多し。遙か南方、天龍川の沿岸附近に飯田あり。縣内蠶蠶の業甚だ盛んにして、蠶卵紙の産出に富み、生絲眞綿多く出づ。又生漆の産多し。木曾川の上流地は木曾谷にして、木

\*上松福島の間  
上松近傍  
木曾義仲城址  
(宮越)

曾義仲の起りし所とす。木曾棧道の舊蹟寢覺床等の勝あり。谷内山林に富み、古來良材を出だし、特に檜に名あり。又木曾駒の名世に著はる。

新潟縣

新潟縣は越後及佐渡の域とす。越後は山脈南方に蜿蜒すれども、信濃川阿賀川の貫流するありて、所謂越後平野をなし、越後米の産多く、其産額實に本邦に冠たり。佐渡は其形法馬の如く、南北兩部廣闊にして、中央漸く狭く、南と北とは山脈重疊す。縣廳は信濃河口地

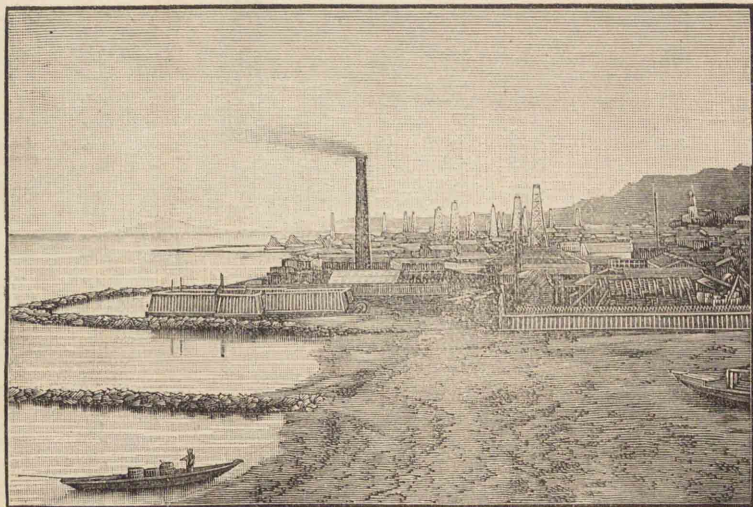


新瀨之圖

\* 牧野氏七萬四千石の舊城地

+ 備原氏十五萬石の舊城地

翁館



石油工場之圖

道の越中に入らんとする所に、**親不知**の險あり。地勢險隘、波

の**新潟(市)**に在り。大開港場の一なれども、貿易更に振はず。北越鐵道**直江津**より**長岡三條**を経て其對岸地に來る。直江津は信越線鐵道の終點にして、船舶の出入多し。直江津の西南**春日山**は、上杉謙信の居城ありし所とす。直江津の南方信越線の鐵道に沿ひて**高田**あり。此邊大雪多し。高田の西南に**妙高山**あり。北陸街

\* 溝口氏十萬石の舊城地  
村上内藤氏五萬石の舊城地  
+ 主産地は小千谷邊とす

無名異燒  
裂織  
+ 金北山脈

相川の東南新町の東方の山中に在り

浪至れば親子相顧る違なしといふ。近來新道を開鑿して、今は唯だ其名を存するのみ。新潟の東南に**新發田**あり。又縣内の名邑とす。越後は近時養蠶業大に開け、諸種の織物を産し、**越後縮五泉平等**頗る名あり。石油の産は實に本邦隨一とす。古來謂ふ所の越後七不思議は、今は一笑にだも値せず。阿賀川信濃川等は鮭を産し、越後鹽引の名世に聞こゆ。佐渡には**小木夷相川**等の都邑あり。中に就いて相川最も盛んなり。外國船の新潟に入るもの、其沖に繫泊すること危険なるときは來りて夷港に碇泊するを許さる。相川の東北に有名なる**金山**あり。金銀の産多く、佐渡の土といへば即ち「黄金」の異名たり。佐渡には順徳天皇の御火葬所あり。

本州中部地方



**本州中部地方** 本州中部地方は、東海、東山、北陸、三道の西部の地にして、其中に次の諸縣を包含す。

石川縣	滋賀縣	静岡縣	縣	國	縣	國	縣	國
加賀、能登。	近江。	伊豆、豆、南、七、島を除く、駿河、遠江。	愛知縣	尾張、三河。	三重縣	伊勢、伊賀、志摩、紀伊の一部。	岐阜縣	美濃、飛騨、越前、若狹。
富山縣	越中。	富山縣	福井縣	福井縣	福井縣	福井縣	福井縣	福井縣

**本州中部地方の交通系**

南部には東海道の往還あり。官設東海道線の鐵道略ぼ之に沿ひて西走し、尾張にて之に岐れ、美濃に入り、略ぼ中山道に沿ひて近畿地方に向ふ。關西鐵道、東海道線の鐵道に關聯して尾張に起り、略ぼ東海道の

往還に沿ひて進み、途中にて二線に岐れ、一は西北走し、一は西南走す。又一支線南に走りて、參宮鐵道に關聯す。官設北陸線の鐵道、又東海道線より岐出して北國に向ひ、略ぼ北陸街道に沿ひて、其海岸地を走る。七尾鐵道、中越鐵道ありて、又之に關聯す。

**處 誌**

**静岡縣**

静岡縣の域は、伊豆、駿河、遠江の地とす。伊豆は半島をなし、天城山の脈四方に亘り、山巒到る所に重疊し、土地礫确なり。西岸は道路險惡にして、沿岸の地皆な小汽船の便による。駿遠の地は東北境に富士山、西北部に秋葉山、黒法師山等ありて、北方一帶山を負へども、南するに従ひて地勢平坦なり。秋葉山上の秋葉神社は參拜者多し。富士川、大井川、天

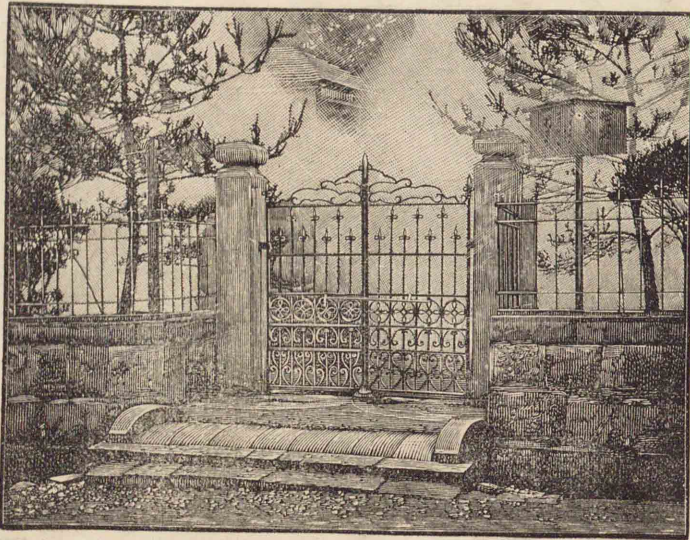
\*安倍茶

静岡の近傍大岩臨濟寺には今川義元の墓あり

徳川家康初葬の所 興津 興津日本武尊の叢雲御劔を以て火を拂ひ難を免れ給ひし所

龍川の畔は田圃多く、農業盛んなり。安倍大井中流流域の北部は製茶の業大に行はれ、其産頗る多し。大井川は駿遠の境を劃する大河にして、平日は水に乏しけれども、一旦暴雨あれば、水量頓に増加す。其川渡しは往時海道の奇觀と稱せり。縣廳は安倍川流域の静岡(市)に在り。静岡はもと駿府又府中と稱せし所にして、往昔徳川家康の退隱せし所とす。實に東海道屈指の要區にして、竹細工漆器を産す。静岡の東方清水港は、開港場の一にして、富士川より吐出する砂のため、漸次に遠淺となる憂あれども、現時は尙ほ商業上の要地たり。近傍に久能山及三保松原の勝あり。東海道線の鐵道は神奈川縣の域より本縣に入り、沼津興津を経て静岡に來り、西南走して濱松を過ぐ。沼津は東海道線鐵道と東海道往還との再

び相會する所にして、其近傍の海岸は青松白砂相映じ、風光



熱海大湯之圖

甚だ佳なり。濱松は曾て徳川家康の城居せし所にして、遠江屈指の都邑とす。北方に三方原あり。武田信玄の徳川家康と大戰せし所とす。濱松西方の濱名湖は、もと淡水湖なりしが、永正年間の大地震により、湖口切れて海に通じ、今は内海の形をなす。其切れたる口

を今切と稱す。沼津の東方三島は箱根山麓に在りて、東海道

\*三島神社あり

垂山

熱海雁皮紙

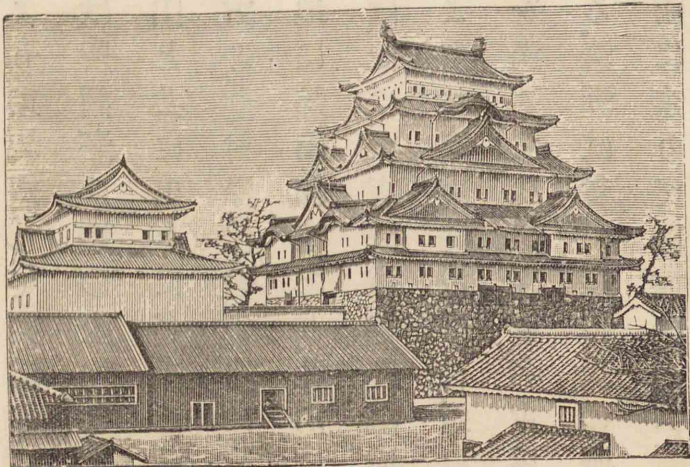
遠州鹽表  
濱名納豆

の往還に沿ひ、豆相鐵道によりて東海道線の鐵道に關聯す。豆相鐵道は現時南方北條を経て修善寺近傍に達す。北條は北條氏の出身地にして、近傍に蛭小島あり。源頼朝の流されし所とす。修善寺は伊豆東北海岸の熱海と共に、有名の溫泉場にして、浴客甚だ多し。修善寺には源頼家の幽せられし修禪寺あり。熱海の大湯は晝夜六回熱湯を噴出す。所謂間歇泉たり。伊豆東南端の下田港は、良港にして、もと開港場たりし所とす。伊豆の沿岸は漁利甚だ多く、伊豆海苔伊豆節世に名あり。天城山は良材に富み、伊豆石又世に聞こゆ。駿河にては多く三極を栽培す。所謂駿河半紙は、此樹の皮を採りて製せるものとす。遠江の相良地方には、石油の産あり。

愛知縣

愛知縣の域は三河尾張の地なり。東北部は山巒

徳川氏六十一  
萬九千石の蓄  
城地



名古屋之圖

重疊すれども、西部は尾濃平野の内に位し、地勢平坦にして、尾張米の産多し。三河の名は豊川大平川矢作川の三川あるに基く。縣廳は東海道線の鐵道に沿へる名古屋(市)に在り。名古屋は往時徳川氏の親藩を置きし所にして、我が國第四の大都會とす。金の鯨を以て有名なる名古屋城には、第三師團の司令部ありて、其牙城は現時離宮となれり。七寶燒扇子等を名産とす。

紡績の業近來大に振ふ。關西鐵道此に起り、熱田灣の北岸地

瀬戸陶器學校  
徳川家康の豊  
臣秀吉の軍を  
破りし所  
徳川家康の陣  
營ありし所

大河内氏七萬  
石の舊城地

を西南走して伊勢に入る。官設中央線鐵道の一部又名古屋より東北走して美濃の多治見に至る。名古屋の東北瀬戸邊は所謂瀬戸燒の産地とす。近傍に長久手の古戰場あり。小牧山と共に史上に名ある所とす。名古屋の南方熱田は、尾張地方より對岸伊勢の地に渡る要津にして、帆檣常に林立す。此地に熱田神宮あり。社内に草薙の御劔を藏む。東海道の往還は、此にて東海道線の鐵道に岐る。東海道線の鐵道は、靜岡縣より略ぼ東海道の往還に沿ひて本縣に入り、豊橋岡崎大府を過ぎて此に來り、名古屋に通じ、清洲一宮を経て美濃に入る。清洲は曾て織田氏の城居せし所とす。尾西鐵道、一宮より南に走りて關西鐵道に會す。豊川鐵道豊橋に起り、豊川稻荷の所在地なる豊川を経て、豊川の上流地に向ふ。豊川上流

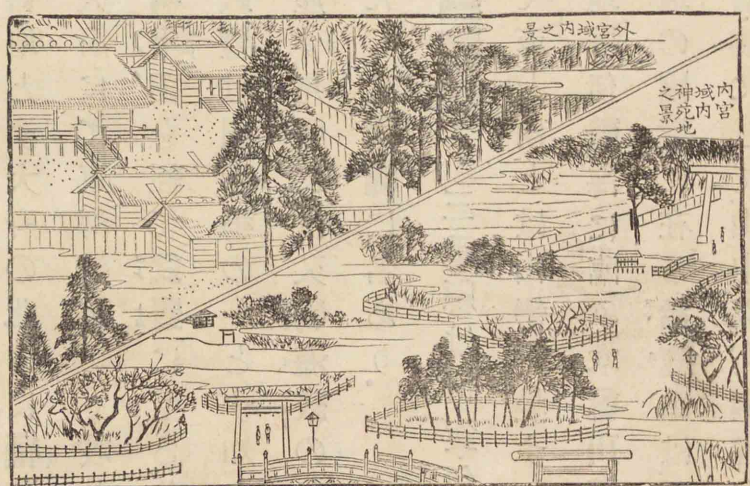
織田信長の武  
田勝頼と戦ひ  
し所  
本多氏五萬石  
の舊城地  
今川義元の織  
田信長と戦ひ  
し所  
野間村源義朝  
の長田忠致の  
爲めに殺され  
し所  
常滑陶器學校

地には長篠の古戰場及鳳來寺山あり。岡崎は徳川氏創業の舊地とす。大府の北方に桶狭間の古戰場あり。武豊線の鐵道大府にて東海道線より岐れ、知多半島の東岸地を南走し、龜崎半田を経て武豊に至る。此邊醋醬油酒の産を以て名あり。武豊は開港場の一とす。知多半島の西岸地よりは常滑焼を産す。尾張には又鳴海絞の名産あり。三河は多く御影石を出だし、又木綿に名あり。

三重縣

三重縣は、伊賀、伊勢、志摩と紀伊一部との地にして、西と南とは山巒重疊すれども、沿海の地は地勢平坦なり。地域伊勢海に臨み、木曾川、櫛田川、宮川等皆な之に注ぐ。西北地の國境に在る鈴鹿山は、天武天皇の時鈴鹿關を置かれし舊跡にして、山中深谿幽谷多く、俗に八百八谷と稱す。縣廳は

\*藤堂氏三十二萬三千石の舊城地にして上古三津の一とす  
 津銀子  
 松阪織  
 專修寺眞宗高田派の本山にして津の近傍一身田に在り  
 十一身田に在り  
 春慶塗及柳御山杉の細工を名産とす



り参拜する者、四時絶ゆることなし。近傍に朝熊山二見浦の

\*津市に在り。此地は一に安濃津と稱す。關西鐵道の一派、此に來り、参宮鐵道に連續す。参宮鐵道は此地より松阪を経て經宇治山田に至る。宇治山田は、皇大神宮豊受大神宮の鎮座まします所にして、神聖無二の靈地たり。因りて神都の稱あり。皇大神宮は即ち内宮にして、天照大神を奉祀し、豊受大神宮は即ち外宮にして、豊受大神を奉祀す。諸國よ

\*松平氏十一萬石の舊城地  
 時雨蛤  
 石川氏六萬石の舊城地  
 藤堂氏の舊本府

丸柱村より製出す

勝あり。宇治山田の東方に在る鳥羽は天然の良港なれども、陸路の交通不便なるを以て、物貨の出入盛んならず。關西鐵道は愛知縣より本縣に入り、木曾河口地を通じ、桑名四日市(市)龜山を經、柘植に至りて兩分し、一は近江に入りて東海道線の鐵道に會し、一は伊賀の上野を經て近畿地方に向ふ。四日市は開港場の一にして、東京等との間に定期汽船の往來あり。且熱田と海路相通じ、紡績製紙の業盛んに行はる。此邊萬古焼を産す。龜山の東北方能褒野には日本武尊の御墓あり。本縣産する所の伊勢米は、一に錦米と稱し、品質佳良を以て名あり。域内又菜種の産多し。沿海漁利に富み、伊勢鰯の名世に高く、特に鱧鱈の産に富む。又眞珠の産あり。伊賀焼又世に聞こゆ。

滋賀縣

滋賀縣即ち近江の域は、四境に山嶽連亘すれども、琵琶湖中央に在りて、殆んど全國の半ばを占む。琵琶湖は一に鳩海と稱す。湖中に竹生島、多景島、沖島、奥島等の島あり。奥島最も大にして、竹生島最も景勝に富む。湖中の水は瀬田川、宇治川、淀川となり、大阪灣に注ぐ。湖邊頗る景勝に富み、所謂近江八景世に名あり。比叡山、比良山等西方に聳立して、殆んど湖畔に迫る。比叡山には延曆寺あり。天台宗の本山とす。日吉社又其麓に在り。縣廳は琵琶湖南岸地の大津市に在り。大津は湖畔諸所と汽船往復の便ありて、東海道線の鐵道亦之に通ず。市の西方逢阪山は往昔逢阪關の在りし所とす。大津の西、長等山の麓に、弘文天皇の御陵あり。其南に又園城寺(三井寺)の巨刹あり。東海道線の鐵道は、岐阜縣より本縣に入

\* 石山秋月瀨田  
夕照粟津晴嵐  
三井晚鐘唐崎  
夜雨堅田落雁  
比良暮雪矢橋  
歸帆  
僧最澄の開創  
義仲寺境内に  
源義仲の墓及  
松尾芭蕉の墓  
あり  
栗津原源義仲  
戰死の所  
大津宮址天智  
天皇  
下阪下明智光  
秀の城址  
三上山近江富  
士

加賀清正  
福島正則  
予予推考  
片桐且元  
磯谷重良  
磯谷丹次郎  
の藤吉の

井伊氏二十五  
萬石の舊城地

織田信長の淺  
井朝倉と兵を  
交へし所

高島硯石湖西  
の阿彌陀山よ  
り産す

り、艾に名ある伊吹山の南を過ぎ、彦根八幡草津を経て、大津附近に來り山城に向ふ。彦根は本縣屈指の都邑にして、近江鐵道此より起りて南す。八幡は蚊帳の産に名あり。近傍安土山は織田信長の城趾ある所とす。草津は東海道と中山道との分合點にして、即ち關西鐵道と東海道線の鐵道との相會する所たり。官設北陸線の鐵道は米原にて東海道線より岐出し、長濱を経て、姊川を渡り、余吾湖近傍を過ぎ、越前に入る。長濱は豊臣秀吉の曾て城居せし所にして、濱縮緬を産す。余吾湖の南に七本槍を以て有名なる賤嶽あり。縣内米穀能く登り、所謂近江米の産あり。信樂川の沿岸は即ち信樂郷にして、地味茶に適す。琵琶湖には源五郎鮎の産あり。野洲川原にては晒布を製す。近江商人、日野商人の名夙に世に聞こえ、今

も猶ほ遠國に行商する者多し。



長良川鵜飼之圖

害の憂あり。堤防を破り田園を損すること、近年殊に多し。往

岐阜縣

岐阜縣は美濃飛驒の地なり。南方は地平かにして、尾張と共に所謂尾濃平野をなせども、北方は山嶽重疊し、地位甚だ高く、所謂濃飛高原を形成す。從ひて氣候甚だ寒く、降雪丈餘に及び、五月花開き七月麥熟す。往時は山中の通路に、籠渡し藤渡しあり。今猶ほ其一二を存す。美濃南方の平原地は、屢ば水

\*戸田氏十萬石の舊城地

養老酒

多く板取川沿岸の村々より抄出す  
主産地は土岐郡邊にして、土岐津町に陶器學校あり  
主産地は羽島郡邊とす

年又大地震の變ありて、諸村大に其害を蒙れり。木曾川信濃より來りて、飛驒川長良川の水を合せ、揖斐川に會して伊勢海に注ぐ。長良川は鮎を産し、其鵜飼世に名あり。縣廳は岐阜(市)に在り。金華山(稻葉山)市東に聳え、山頂に織田信長の城址あり。産する所の岐阜提燈、世に名あり。近傍盛んに蠶絲を産し、縮緬を製出す。東海道線の鐵道は愛知縣より本縣に入りて此に來り、大垣(大垣)を經、中山道附近を通じ關原を過ぐ。大垣の西南養老山中に養老瀧あり。關原は徳川氏の大に石田三成等の軍を破りし所にして、附近に不破關址あり。飛驒には其中心地に高山あり。此邊地域高くして氣候寒し。其南方の位山は多く水松を産す。本縣は大に美濃紙を産し、又美濃燒美濃縞の産に富む。美濃米の名又世に高し。赤阪には大理石の

眞桑瓜 蜂屋柿

産あり。飛驒にては、各地桑麻を植ゑて紡織を事とし、白川郷は養蠶特に盛んなり。

**福井縣** 福井縣は越前若狹の地にして、域内山巒多けれども、**九頭龍川** **日野川** **足羽川**の流域は地平かなり。縣廳は足羽川流域の**福井(市)**に在り。福井は往昔柴田勝家の據りし北庄の地にして、**羽二重絹ハンケチ奉書紬**等の産多し。足羽山上に**藤島神社**あり。新田義貞を祀る。福井の北方九頭龍河口の**三國(阪井)**港は舟泊の要地とす。福井の南方**一乗谷**は、朝倉氏五世の城址ある所にして、福井の東方に在る**永平寺**は、曹洞宗の總本山とす。北陸線の鐵道、滋賀縣より本縣に入り、敦賀武生を經、略ぼ北陸街道に沿ひて福井に來り、東北走して加賀に入る。敦賀は開港場の一にして、船舶常に輻輳し、北海

松平氏三十二萬石の舊城地

奉書紙 杉原紙 鳥子紙

燈明寺 暖義貞 戦死の所

金ヶ崎 尊良親王及新田義顯の國難に殉せし所

酒井氏十萬三千石の舊城地

前田氏百二萬二千石の舊城地

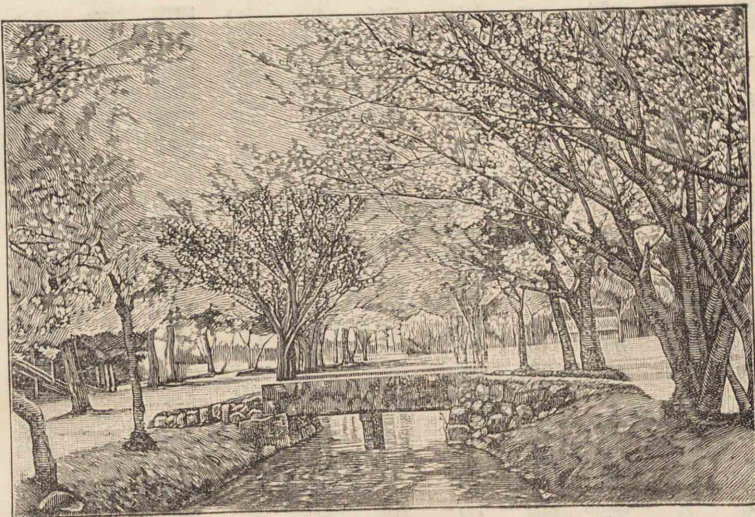
御所 落雁

前田氏の支封地 十萬石の舊城

道と大阪との間に立ちて、商品を媒介す。敦賀の西南方**小濱**は、若狹塗に名あり。本縣の産として名あるもの、又**越前雲丹**若狹綱等あり。

**石川縣** 石川縣は加賀能登の地にして、加賀は東南山嶽相連なり、**白山**等の高峯ありて、地勢頗る高峻なれども、海岸地方は地平かにして、**手取川**の流れあり。能登は七尾灣より西南、西海岸地に至る間、地勢平坦なれども、概して丘陵多く平地少なし。縣廳は**金澤(市)**に在り。金澤は北國の大都會にして、**金石港**と相通じ、第九師團司令部第四高等學校、**金澤醫學專門學校**等あり。此地の**兼六園**は日本三公園の一とす。**九谷燒象眼細工漆器**等の産あり。北陸線の鐵道は、福井縣より本縣に入り、略ぼ北陸街道に沿ひ、**大聖寺小松**を經て此に來り、





金澤兼六園之圖

東北走して越中に入る。小松は加賀絹の産地にして、安宅關址は、此地の近傍なれども、今は遙かの海中に在り。大聖寺、小松邊又九谷焼の産多し。七尾鐵道、北陸線の鐵道より岐出して、能登の七尾に至る。七尾は開港場の一にして、近傍に城山あり。天正五年上杉謙信の陥取せし古城址にして、數行過雁月三更の詩は、當時の作なりと云ふ。近傍に和倉溫泉あり。七尾灣内の能登島

總持寺曹洞宗の本山

\*金澤支藩前田氏十萬石の藩城地  
滑川烏賊墨作  
木曾義仲の大木に平家の軍を破りし所

は古來良馬を産す。能登半島の西北岸に在る輪島は、輪島塗の産地とす。加賀には銅の産多く、能登には製鹽の業行はる。其沿海又鱒の産多し。

**富山縣** 富山縣は越中の地にして、東西南の三方は山嶽重疊し、立山等の高山あれども、黒部川常願寺川神通川射水川下流の流域は、地平かにして田圃大に開け、所謂越中米の産多し。縣廳は神通川下流地の富山市に在り。富山は諸名藥を産す。富山の東北魚津の海上には、春夏の候往々海市を見る。海市は即ち蜃氣樓なり。北陸線の鐵道は、石川縣より俱利伽羅峠の洞道を通じ本縣に入り、略ぼ北陸街道に沿ひ、高岡(市)を經、現時富山に來りて止む。高岡は金物漆器の産に名ある所とす。中越鐵道此地より、北方伏木に通じ南方城端に至

る。伏木は開港場の一にして、主に米を輸出す。近傍に新湊あり。

近畿地方

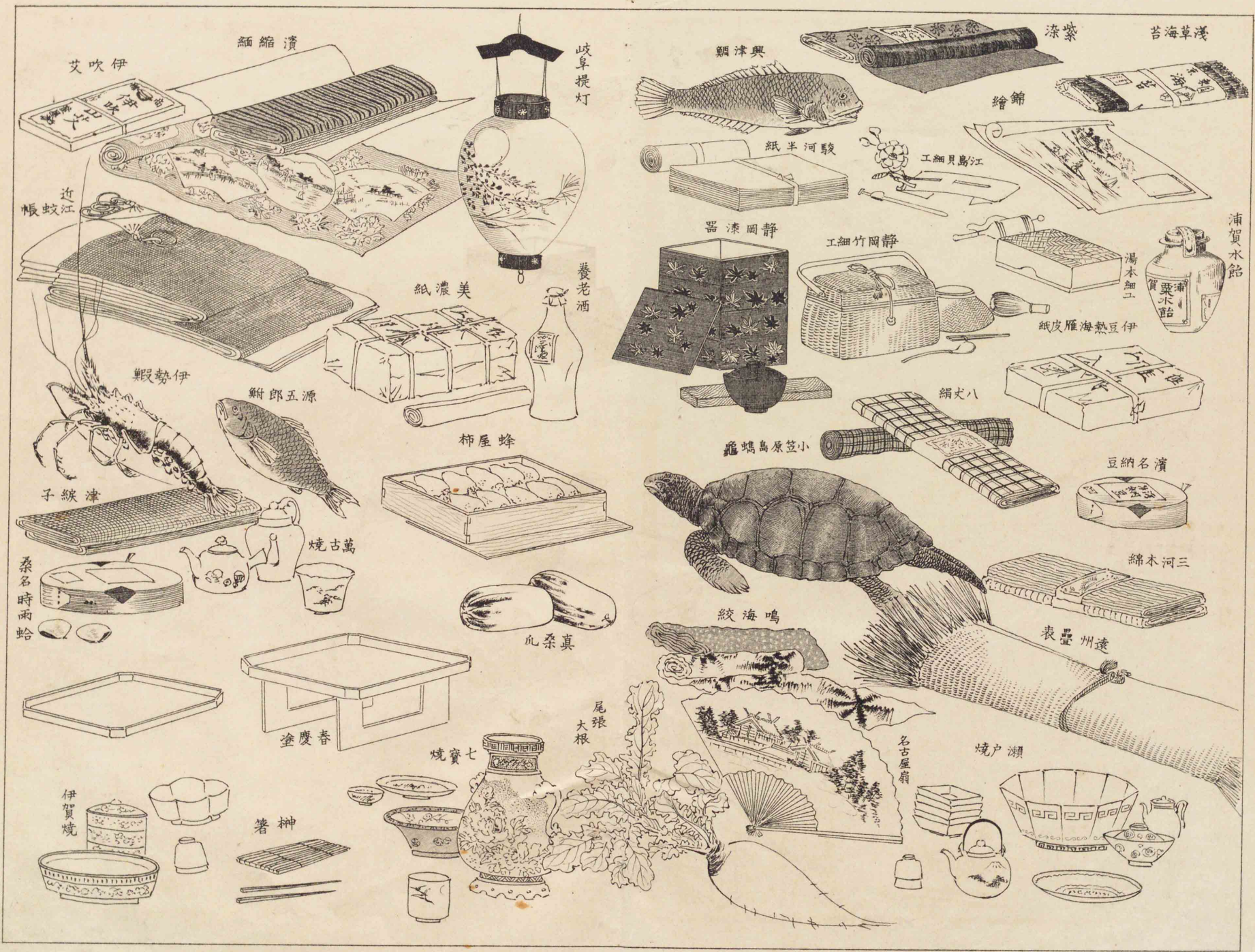
近畿地方は、畿内全部、山陰・山陽兩道小部と紀伊地方との域にして、其中に次の諸府縣を含有す。

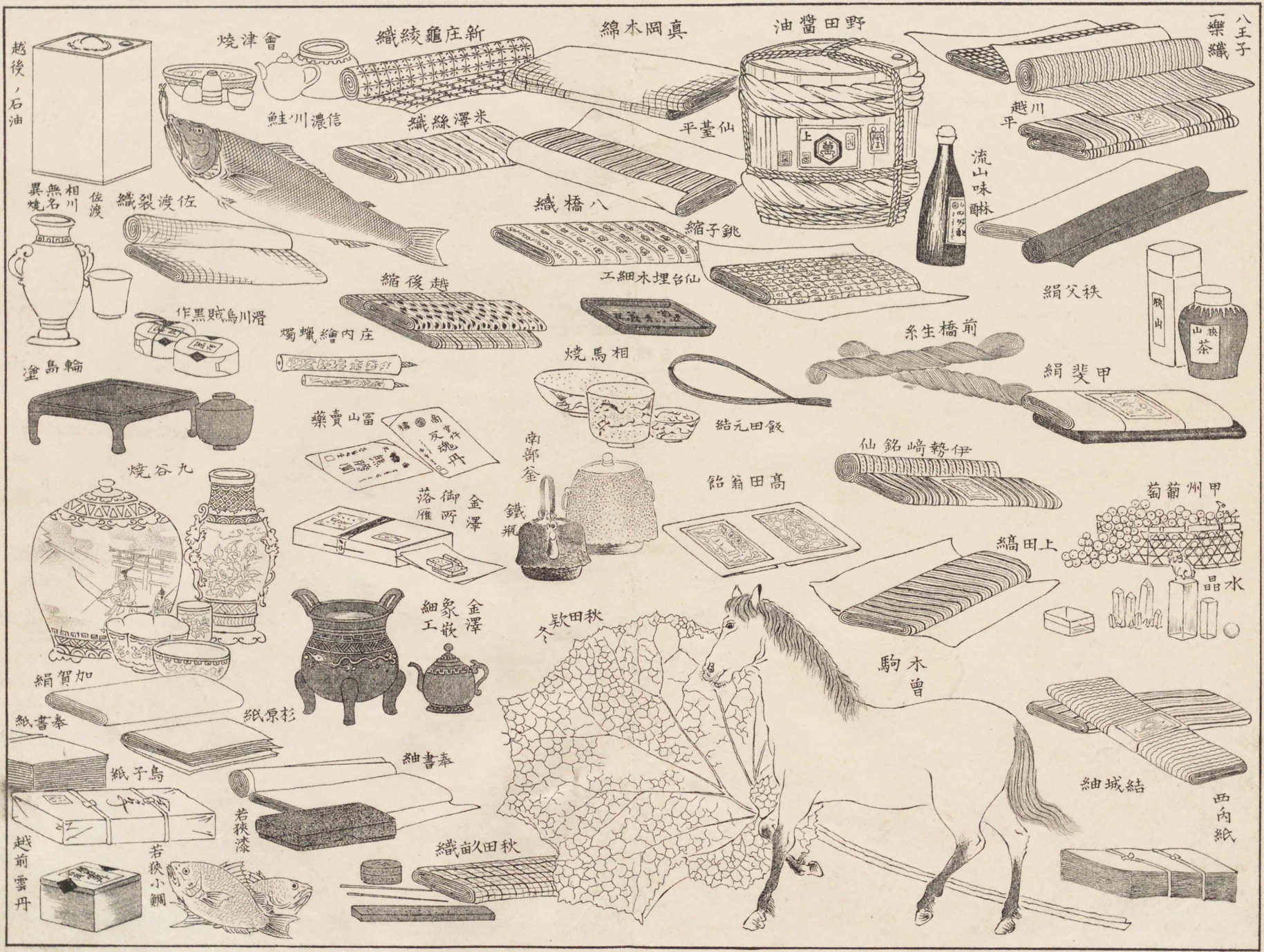
府縣	京都府	國	府縣	大阪府	國	縣	奈良縣	國	大和。
	<small>山城、丹後、丹波の一部。</small>			<small>河内、和泉、攝津の一部。</small>					
	<small>紀伊の大部。</small>			<small>攝津の一部、丹波の一部、但馬、播磨、淡路。</small>					
和歌山縣			兵庫縣						

近畿地方の交通系

東海道線の鐵道は、近江より京都

を過ぎ、大阪を經、大阪灣の西北岸に至りて止み、山陽鐵道に連續す。關西鐵道は伊賀より山城に入り、二派に岐れ、共に大





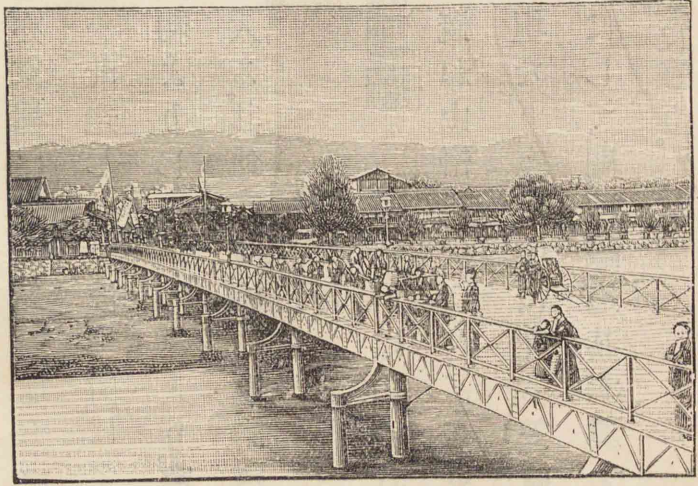
阪に向ふ。奈良鐵道、京都より起りて其兩線を横截し、京都鐵道亦京都に起り丹波地方に向ふ。又阪鶴鐵道あり。攝津の中部を北走して、丹波地方に至る。紀和鐵道、南和鐵道に連續し、大和よりして紀伊に入り、南海鐵道は海岸地を通じて紀伊に入る。其他西成鐵道、高野鐵道、河南鐵道等あり。

### 處 誌

**京都府** 京都府は山城、丹後と丹波一部との地にして、城内概ね山巒起伏すれども、東南部と由良川の流域とは、地勢平坦なり。東南境に在る笠置山は、後醍醐天皇の行宮ありし所にして、關西鐵道其北麓を通ず。府廳は東南平地部の京都(市)に在り。

京都は千有餘年間の帝都の地にして、我が國第三の大都

會なり。東京と相對して、或は西京と云ふ。三條通を以て上

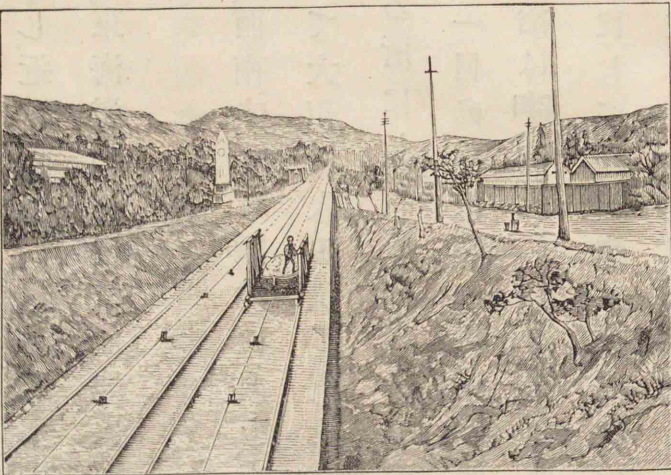


隔て、東北に聳ゆるは比叡山とす。市の西北に見ゆるは

京下京の二區に分ち、市坊頗る端正なり。賀茂川の東部を流れ、架するに數大橋を以てす。京都御所は賀茂川の西市の北部に在りて、二條離宮中は市の西部に在り。現時此地に京都帝國大學及第三高等學校を置く。又美術工藝學校、染織學校等あり。其東方一帯の連山を東山と云ふ。東山を

恒武帝を祀る  
足利義政別墅  
淨土宗本山  
東本願寺廟所  
西本願寺廟所  
豐太閤を祀る  
近世諸帝の御陵ある所  
眞宗大谷派本山  
眞宗本願寺派  
眞言宗本山  
足利義滿退隱の所  
足利氏累代の影儀ある所  
織田信長を祀る

愛宕山にして、清瀧川其麓を流る。比叡愛宕兩山の間に見ゆるは鞍馬山とす。市の内外名社巨刹多し。賀茂川以東には平安神宮銀閣寺南禪寺智恩院八坂神社清水寺東大谷西大谷三十三間堂豐國神社泉涌寺等あり。賀茂川以西には東本願寺西本願寺東寺金閣寺北野天神等持院大徳寺建勳神社等あり。嵐山は櫻の美を以て聞こえ、高雄は紅葉に名あり。市内に電氣鐵道の設あり。此地は山水秀麗、風俗



疏水クニイラノ之圖

優雅にして、市民美術工藝に巧なり。西陣織友禪染鹿子絞、清水焼、粟田焼等、名産甚だ多し。近年琵琶湖疏水工事の業成り、市民大に其恩澤に浴す。東海道の往還は此地に至つて止む。

東海道線の鐵道は京都を過ぎ、西南走して攝津に入り、奈良鐵道は京都より伏見宇治を経て大和に入る。伏見東北方の岡陵桃山は、豐太閤の城址ある所にして、此山より西南を望めば、宇治川の流れ、巨椋の池、一目の中に在り。伏見の西南、男山の頂に、男山八幡宮あり。宇治は宇治茶に名あり。此地の平等院は源頼政の自刃せし所にして、萬福寺は黃蘗宗の本山とす。京都鐵道は京都より丹波に入り、龜岡を經、園部に至りて止む。園部の西北方に在る、福知山は丹波屈指の都邑

七條ステーション

鞍馬炭

北山丸太

白川石

稻荷

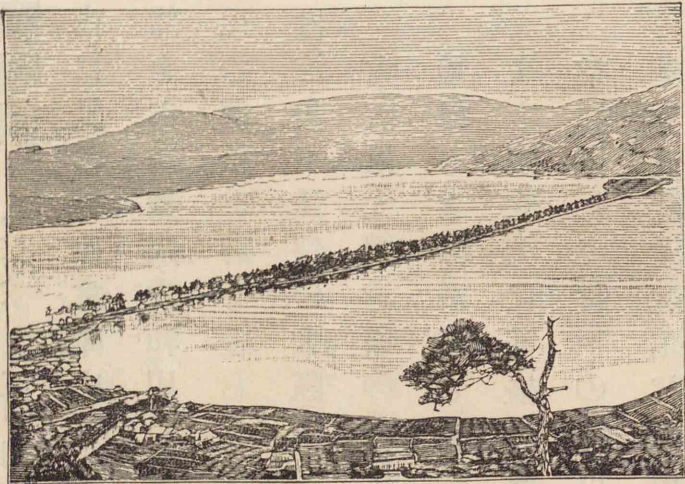
稻荷山松茸

伏見人形

壘の名所

松平氏五萬石の舊城地

本莊氏七萬石の舊城地



天橋立之圖

にして、阪鶴鐵道現時の終點とす。福知山の北方由良河口の西に在る宮津は、開港場の一にして、宮津灣に臨む。宮津灣は一に與謝海と稱す。其西北岸より一條の長洲西南に突出す。即ち有名なる天橋立にして、日本三景の一とす。宮津の東南舞鶴は軍港の一にして、第四海軍區鎮守府の在る所とす。舞鶴灣は小に失すれども淺からず。眞に天然の良港たり。丹波丹後の地は養蠶盛んにして、峯山邊よりは丹後縮緬を産す。丹波栗又人

の稱する所とす。山城には歴代諸帝の御陵多し。

**大阪府**

大阪府は河内和泉と攝津一部との地にして、東南には葛城山金剛山等の諸山あれども、地域畿内平野の大部を占め、淀川大和川の流れあり。金剛山腹の千早城址は、楠氏の屢ば奇計を運らして大に東軍を惱まし、所とす。府廳は淀川下流地の大阪(市)に在り。

大阪は大開港場の一にして、我が國第二の大都會とす。此地はもと難波津と稱せし所にして、豊太閤の此に城きてより以來、大に繁盛を極むるに至れり。眞に本邦隨一の商業地にして、貨物の集散繁く、山陽山陰兩道、四國九州の商業を支配す。此地に集散する主要物産は、米穀紙類油藥種等にして、海外への輸出品は、錫寒天燐寸綿絲綿布類酒等

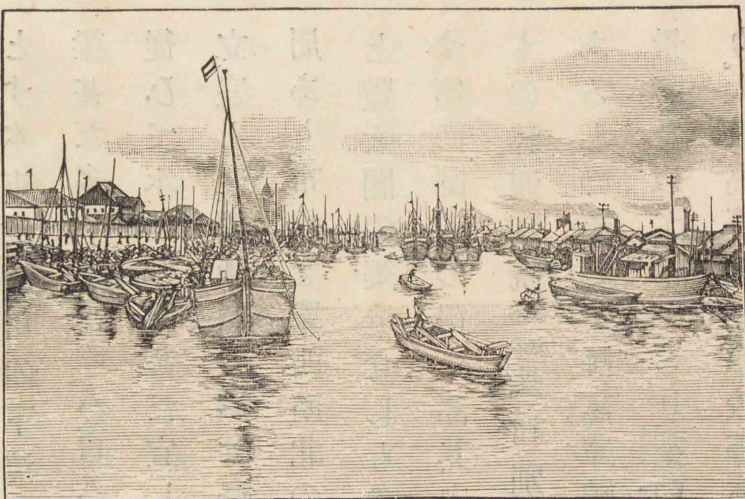
淀川は市内に入りて公園ある中、島を挾み、安治川永津川となり、大阪灣に注ぐ。安治川口に天保山あり。

聖徳太子創立の古刹、仁徳帝を祀る豊太閤を祀る徳川家康の本陣を置きし所、眞田幸村岩を城き、徳川勢を防ぎ、遂に戦死せし所。

を主とし、海外よりの輸入品は米大豆綿砂糖熟皮等を主とす。本市は淀川の下流市北を流れ、溝渠縦横に通じ、橋梁甚だ多し。東京の八百八町に對して、八百八橋の號あり。従ひて水運の便甚だ宜しく、近時工場夥しく起り、煙筒林立、盛んに銅器鐵器燐寸紙綿絲等を製す。又砲兵工廠造幣局あり。市内を東西南北の四區に分つ。市東の大阪城は、もと豊太閤の築造せしものにして、今猶ほ概ね其舊模を存す。第四師團の司令部其内に在り。市の内外寺院の大なるもの、難波別院御南の堂津村別院御北の堂四天王寺等あり。神社の名あるもの、天満天神高津神社豊國神社等あり。櫻宮は古來景勝を以て稱せられ、茶臼山眞田山は古戰場として名あり。大阪高等工業學校等あり。大阪は東海道線の鐵道に沿



梅田ステーション



安治川口之圖

ひ、又多くの鐵道の輻湊地たり。關西鐵道の本線は、網島に來り、其一派は湊町に來る。南海鐵道は難波より發し、和泉の海岸地を経て紀伊に向ひ、高野鐵道は汐見橋より起り、現時河内の中部に至りて止む。又西成鐵道は安治川口に向ひ、關西鐵道の一支派は市の東郊を廻る。

關西鐵道の網島線に沿ひて四條驛あり。楠正行の戰死せし

四條驛神社楠正行を祀る

阿部野神社北畠顯家を祀る  
住吉神社  
妙國寺の蘇鐵  
岸和田岡部氏  
五万三千石の  
舊城地  
崇神天皇の世  
に堀らせ給ひ  
しもの  
豊島蜜柑

所とす。南海鐵道に沿ひて堺(市)あり。往昔外國との互市場たりし所にして、鐵器、刃物を産し、又段通に名あり。河南鐵道は關西鐵道の柏原驛より起り、富田林に至る。富田林の西方に狭山池あり。大阪の北方箕面山の西に在る池田は、阪鶴鐵道に沿ひ、酒の産多し。其近傍の山地よりは、所謂池田炭を産す。大阪府の地は地味肥沃にして、米綿の産多く、河内木綿世に名あり。紡績業又盛んに行はる。城内諸帝の御陵多し。

奈良縣は大和の地にして、南部は山巒重疊すれど

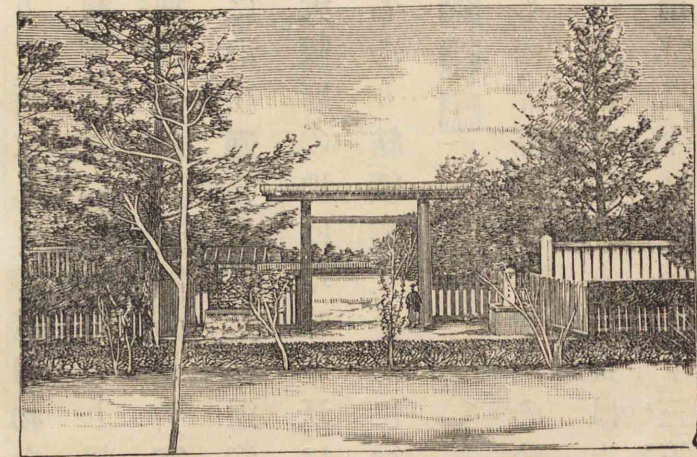
も、西北部には大和川の流れありて、田野開け地味肥ゆ。縣廳は奈良(市)に在り。奈良は上古奈良朝の帝都たりし所にして、南都又平城の稱あり。三笠山東に峙ちて、麓に春日神社あり。此地の内外、勝區名蹟甚だ多く、東大寺、猿澤池等あり。奈良

華嚴宗の本山

奈良人形  
鹿之卷筆

柳澤氏十五萬  
千石の舊城地

石上神社宮  
大和神社  
大神社



神武天皇御陵之圖

神社は藤原鎌足を祀れるものにして、多武峯に在り。多武峯

京都より此地を経て櫻井に至り、關西鐵道の本線は山城より此地に來り、郡山を経て大阪に至る。郡山の近傍に法隆寺あり。伽藍壯嚴を極む。奈良の東方に月瀬梅林あり。奈良南方の地は、大に古蹟名地に富み、神武天皇御陵、檀原神宮、談山神社、長谷寺等あり。檀原神宮は檀原宮址にして、畝傍山の東南に在り。談山

如意輪寺、楠正  
行の辭世の一  
首を遺し、所

吉野地方より  
は吉野葛、吉野  
漆、吉野紙を産  
す

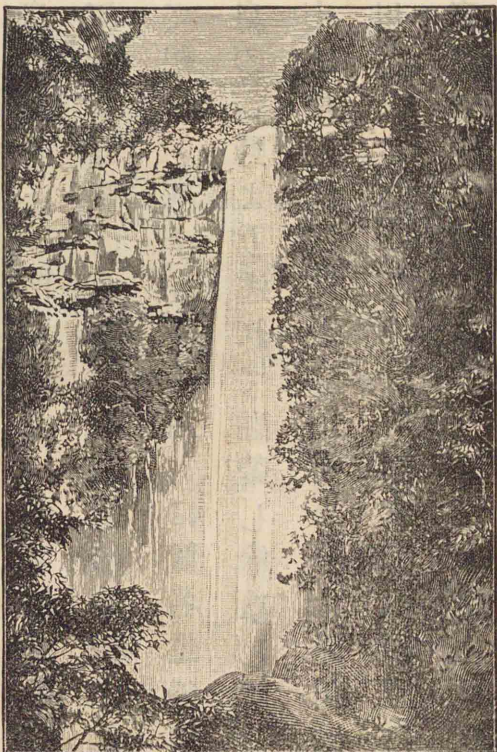
の南方吉野山は、古來櫻花を以て名高く、俗に一目千本の稱あり。南朝四世五十餘年間の行宮ありし所にして、後醍醐天皇の御陵あり。南和鐵道は關西鐵道の高田驛より起り、吉野河畔の五條に至り、紀和鐵道に連續す。吉野川は紀伊に入りて紀川と稱す。五條の南方に賀名生行宮の址あり。後村上天皇の吉野より逃れて駐輦し給ひし所とす。五條南方の山中、十津川の流域に、十津川郷あり。十津川は紀伊に入りて熊野川となる。本縣の地は所謂大和綿の産に富み、大和緞世に名高し。吉野山林は良材を出だし、炭及松煙の産に富む。城内諸帝の御陵多し。

和歌山縣

和歌山縣は紀伊大部の地とす。紀川下流地は、地稍や平坦なれども、其他は概ね山地にして、殊に東部の地

\* 徳川氏五十五萬五千石の舊城地 紋羽織

粉河寺 根來寺 紀三井寺 日御神宮 國懸神宮



那智瀧之圖

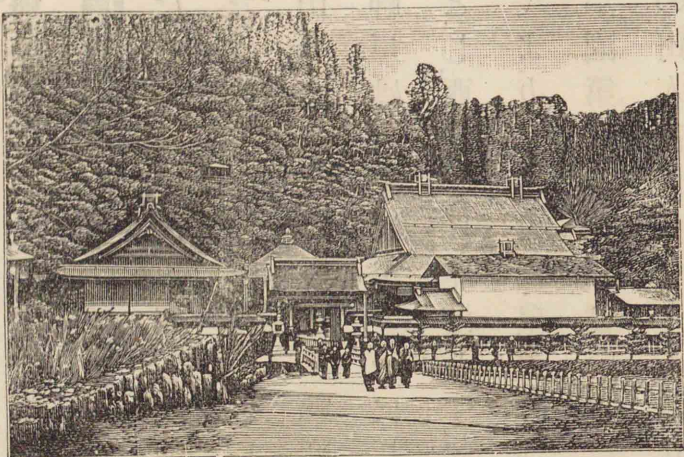
は大塔<sup>オホタカ</sup>峯等の山嶽高く聳え、行路頗る險峻を極む。大塔、峯の脈に那智山あり。其山腹の那智瀧は、直下八十餘丈、海内無二の壯觀とす。縣廳は紀川河口地の和歌山<sup>ワカヤマ</sup>市に在り。和歌山は

徳川氏の親藩を置きし所にして、綿フラネルの産瀧あり。紀和鐵道、大和の五條より紀川の沿岸地方を通じて此に來り、

南海鐵道、大阪より和泉の海岸地を通じて、又此に來る。和歌山近傍の和歌浦は、風光の明媚を以て名あり。紀和鐵道の橋

\* 僧空海の開創 高野氷豆腐

熊野座神社(本宮) 熊野速玉神社 新宮 熊野夫須美神社(那智山)



高野山境内之圖

本驛より南すれば、高野山<sup>タカノヤマ</sup>に上るべし。高野山上には有名なる金剛峯寺あり。本縣の内地は、山巒重疊するを以て、都邑は多く海岸地に在り。其の名あるは、湯淺<sup>ユアシ</sup>・田邊<sup>タナベ</sup>及新宮<sup>シンキウ</sup>とす。新宮は熊野地方に在りて、熊野川に沿ふ。熊野川の上流地に本宮あり。熊野地方に在る熊野三社は、代々の上皇の屢ば行幸ありし神宮とす。本域の海邊は、大に漁利に富み、熊野浦には捕鯨盛んなり。有田川の兩岸は、大に蜜柑を産す。所謂紀州蜜柑是なり。城内

高野槭  
那智黒石  
産地は熊野地  
方

又山林に富み、熊野地方高野山よりは、大に良材を出だす。又無煙炭の産あり。黒江漆器又世に稱せらる。

**兵庫縣**

兵庫縣は攝津一部丹波一部但馬播磨淡路の地

にして、海岸の小部と加古川圓山川等の流域とは、地勢平坦なれども、他は概ね山多し。山には武庫山摩耶山等あれども、山勢概ね高峻ならず。縣廳は大阪灣西北岸の神戸(市)に在り。神戸は大開港場の一にして、港内兩灣をなす。東灣を神戸港とし、西灣を兵庫港とす。此地も横濱と同じく、開港場となりてより、日に月に繁榮を加へ、現時は大阪の門戸をなして、我が國第五の大都會たるに至れり。定期汽船の往來繁く、船舶の出入甚だ多し。米・茶・燐寸・銅地氈・陶磁器・樟腦・水産物・扇子等を盛んに海外に輸出し、綿綿絲・砂糖・反物・石油・豆類・米諸器械

福原郡址平清

有馬筆

松平氏十萬石  
の舊城地  
明石珠明石縮

等を多く海外より輸入す。市内に湊川神社あり。楠正成を祀



神戸之圖

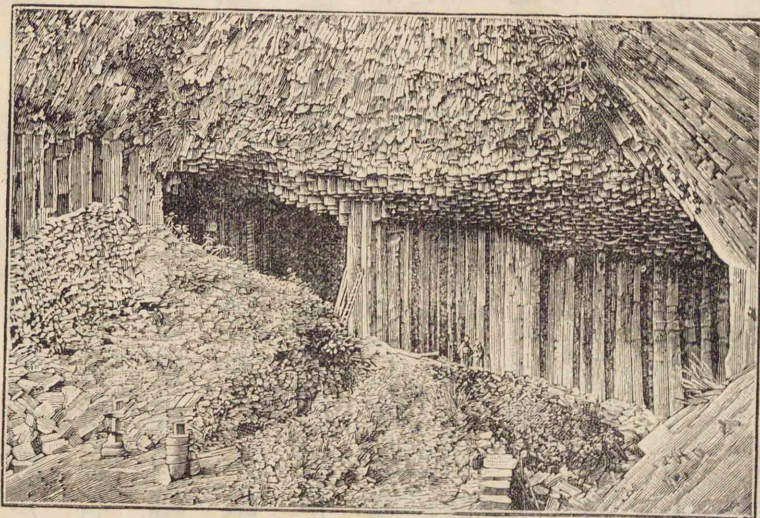
る。近郊に生田森あり。神戸の東北有馬温泉は、古來有名なる靈泉とす。東海道線の鐵道は神戸にて止まり、山陽鐵道に連續す。山陽鐵道は神戸より海岸地を西走して、須磨舞子(明石姫路市)を通じ、舟阪山下を過ぐ。舟阪山は兒島高徳の後醍醐天皇の隱岐遷幸を要せんとして果さゞりし所なり。須磨舞子邊は、白砂青松

鶴越  
酒井氏十五萬  
石の舊城地

別府の手枕松、  
尾上、鐘高砂、  
の相生、松曾、  
根天神の松、  
石寶殿

白旗山赤松園  
心の掃りし所

相映じ、風光甚だ佳なり。附近  
に一谷古戰場あり。姫路は播  
磨屈指の都會にして、姫路城  
あり。古來名城と稱し、現時第  
十師團の司令部此に在り。姫  
路華を産す。姫路と明石との  
間に播磨名所あり。播但鐵道  
は姫路の南方飾磨津に起り、  
姫路を経て北走し、生野地方  
に至る。生野には有名なる銀  
山あり。播磨西南地の海岸に  
在る赤穂は、義士の談を以て人の能く知る所にして、赤穂鹽



圖之洞武玄

篠山(青山氏六  
萬石の舊城地)  
三木刃物  
龍野(脇阪氏五  
萬石の舊城  
地)  
洲本に陶器學  
校あり

の名世に聞こゆ。但馬には、東方の地に出石あり。所謂出石焼  
の産地とす。圓山川西岸地の豊岡邊は、柳行李の産多く、附近  
に玄武洞の奇觀あり。城崎温泉又世に著はる。淡路には洲本  
由良福良等の名邑ありて、賀集村には淳仁天皇の御陵あり。  
本縣の東部地方にては、華類燐寸の製造大に行はれ、灘地方  
伊丹邊には酒の醸造盛んなり。伊丹は阪鶴鐵道に沿ふ。御影  
石龍野醬油又名産と稱す。播磨米は品質佳良を以て名あり。  
但馬にては多く牛を飼養す。所謂神戸牛は、其實但馬因幡地  
方の輸送に係る。淡路には淡路焼の産あり。

中國地方

中國地方は山陰山陽兩道大部の地にして、其  
中に次の諸縣を包含す。

島根縣	岡山縣	縣	國	鳥取縣	廣島縣	縣	國	山口縣	國
出雲、石見、隱岐	美作、備前、備中			因幡、伯耆	備後、安藝			周防、長門	

中國地方の交通系

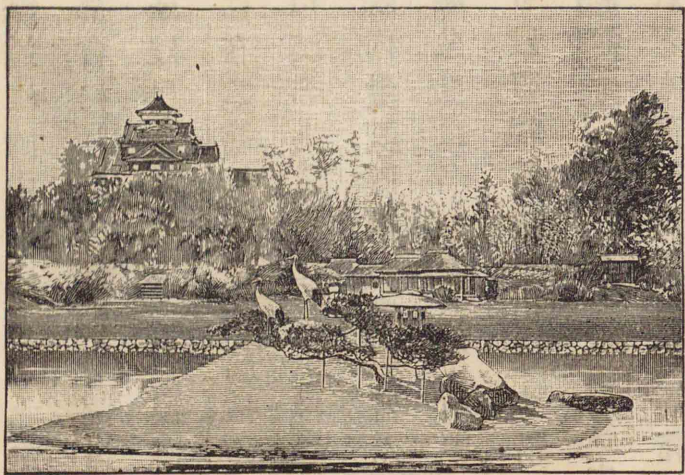
山陰山陽兩道共に其沿海地を通ずる街道あり。山陽道沿海地の街道は中國道と稱し、山陽鐵道略ぼ之に沿ひて西走す。山陰道沿海地の街道には、未だ鐵道の設なし。其兩街道を聯接する二三の主要なる街道あり。中國鐵道山陽鐵道より北に出でて、其一に關聯す。南部は瀬戸内海に沿ひ、良好なる港灣に富むを以て、沿海の交通亦甚だ便なり。

處 誌

岡山縣

岡山縣は美作備前備中の地にして、東大川西大川等の下流地は、地概ね平坦なれども、其他は大抵山嶽起伏す。東大川は一に吉井川と稱し、西大川は一に旭川と稱す。縣廳は西大川下流地の岡山市に在り。此地は山陽道屈指の大都會にして、第六高等學校岡山醫學專門學校等あり。此地の後樂園は、日本三公園の一とす。紋筵の産あり。山陽鐵道、兵庫縣より本縣に入り、略ぼ中國道に沿ひて此に來

池田氏(三十一萬五千石の舊城地)  
熊野染



岡山後樂園之圖

陽鐵道、兵庫縣より本縣に入り、略ぼ中國道に沿ひて此に來

藤戸の渡佐々木盛綱  
松平氏十萬石の舊城地  
雲齋織

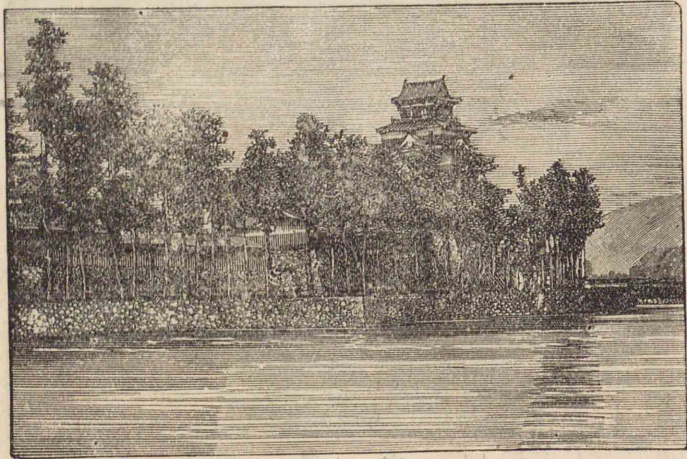
吉備津神社眞金村にあり

淺野氏四十二萬六千石の舊城地

り、**兒島半島**の北を通じ、**玉島笠岡**を過ぎて備後に入る。中國鐵道は岡山に起りて北走し、**津山**に至る。津山は美作屈指の都會にして、山陰・山陽兩道往來の要路に當る。津山の西方院庄は、兒島高德の詩を櫻樹に題せし故地とす。**高梁川**の東岸に在る**高梁**は、備中屈指の都會とす。又**高松**は豊公の水攻を以て名ある所にして、**高島**は神武天皇行在所の故地と云ふ。縣内**壘表産類**の製造盛んに行はれ、**長船**の**刀劍**、**伊部**の**備前焼**、又世に名あり。美作備中には煙草銅の産あり。笠岡地方よりは**麥稈眞田**を出だす。沿海製鹽盛んなり。又**牛**の産多し。

**廣島縣** 廣島縣は備後安藝の地にして、域内山嶽起伏すれども、**蘆田川****大田川**等諸川下流の沿岸は、地平かにして、田圃開く。縣廳は大田川河口地の**廣島市**に在り。廣島は中國第

阿部氏十一萬石の舊城地



廣島城之圖

一の大都會にして、南に**宇品港**を控ふ。中央に舊城あり。もと毛利氏の築きしものにして、今は第五師團の司令部此に在り。廣島の東南に在る**吳港**は、軍港の一にして、第二海軍區鎮守府の在る所とす。其近傍**江田島**に、海軍兵學校あり。廣島の東方、府中に**埃宮**の舊蹟あり。神武天皇東征の時止まり給ひし所とす。山陽鐵道は**福山尾道市**系崎三原を経て廣島に來り、**嚴島**の西

を過ぎて、周防に入る。福山は備後屈指の都會にして、其南方

\*保命酒の名産地

毛利元就の陶器を減ぼし細工の名産あり

郡山の西麓毛利元就の墓

鞆港は舟泊の要地とす。尾道は頗る良港にして、肥料米穀の

て、此邊大麻の産多し。其東北に方り、三次あり。三次川の流れ



嚴島之圖

集散多く、盛んに疊表を輸出す。糸崎は開港場の一にして、三原はもと小早川氏の城居せし所とす。嚴島は一に宮島と稱し、有名なる嚴島神社あり。數多の廻廊長く連なり、結構頗る雅麗にして、繪圖よりも見て驚けりいづく島と云ふ句あり。實に日本三景の一とす。廣島の東北吉田は、初め毛利氏の居りし所にし

に沿ひ、山陰・山陽兩道往來の要點を占む。二次川は下流石見に入りて、江川となる。廣島附近能美島倉橋島等よりは、大に繰綿を産し、安藝の北部よりは砂鐵を産す。備後表又世に名高く、廣島灣の牡蠣名産と稱す。沿海製鹽の業大に行はる。又牛の産に富む。

山口縣は周防長門の地にして、岩國川佐波川厚

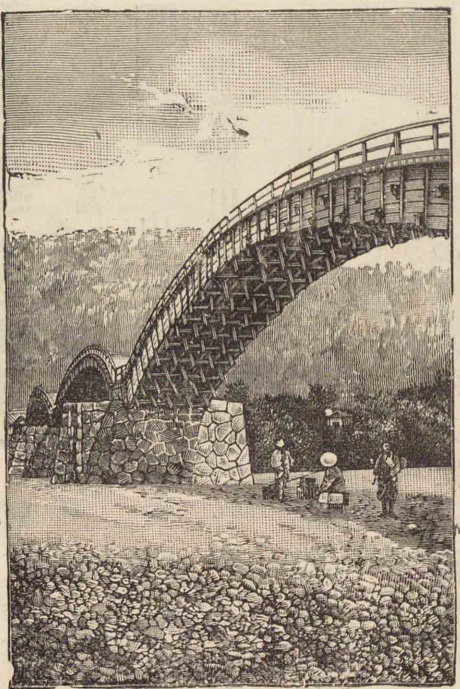
東川厚狹川等諸川下流の沿岸地は、地平かなれども、其他は山巒重疊す。縣廳は周防西部の山口に在り。山口は四面山を繞らし、形恰も挿鉢の如し。昔時大内氏の據りし所にして、山口高等學校あり。其南方に三田尻あり。山陽鐵道岩國柳井津徳山を経て此地に來り、長門の赤間關市に至つて止む。岩國は岩國縮岩國半紙の産地にして、岩國川に臨む。有名なる錦

\*吉川氏六萬石の舊城地



豐浦毛利氏の  
支封五萬石の  
舊城地  
赤間宮安徳帝  
を祀る

毛利氏三十六  
萬九千石の舊  
城地



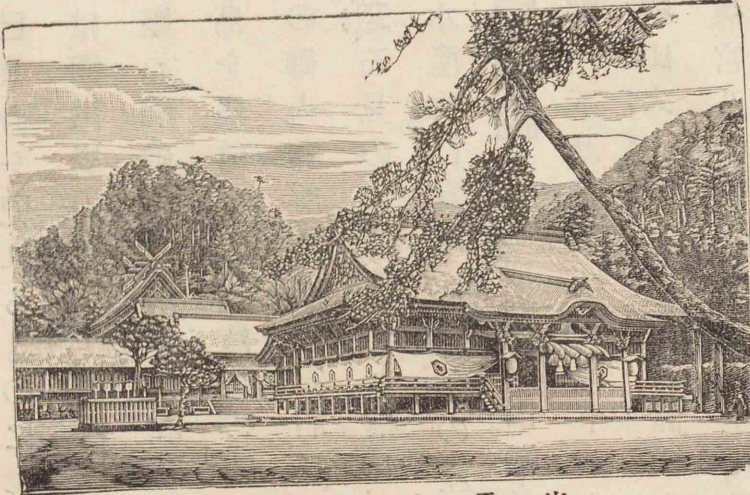
錦帯橋之圖

帶橋あり。赤間關は一に馬關又下關シモノキと稱し、開港場の一にし  
て、多く石炭を輸出す。又米穀集散の大市場たり。馬關煙草赤  
間關硯を名産とす。  
市東壇浦タシノウラは平家滅  
亡の古戰場たり。赤  
間關の東北に在る  
萩ハギは、毛利氏累代の  
舊城地にして、夏橙  
を産す。縣内米綿の  
産に富み、所謂防長米品質佳良を以て名あり。沿海製鹽業大  
に行はれ、三田尻近傍特に盛んなり。周防には安質母尼アサチノニの産  
ありて、長門よりは石炭を出だす。沿海漁利多し。

島根縣

島根縣は出雲石見隱岐の地にして、出雲の東北  
部は所謂島根半島をなし、間に

月山ツキヤマ（尼子氏七  
年の圍を受け  
し所）  
松平氏十八萬  
六千石の舊城  
地



出雲大社之圖

穴道湖アナミヅ中海を挾む。穴道湖の鱸スズキ  
は其味美にして、支那松江の産  
に同じと稱す。高津川タカツ江川エ簸川ヒ  
下流の沿岸地は、地稍や平かな  
れども、到る所概して山嶽多し。  
簸川は一に出雲大川の名あり。  
其發源地なる船通山フネトウは、古の鳥  
上山にして、所謂簸川上の舊地  
なり。縣廳は穴道湖畔の松江マツエ（市）  
に在り。杵築キヅキに出雲大社あり。大

御種人參  
十六島海苔

名和神社名和  
長年を祀る

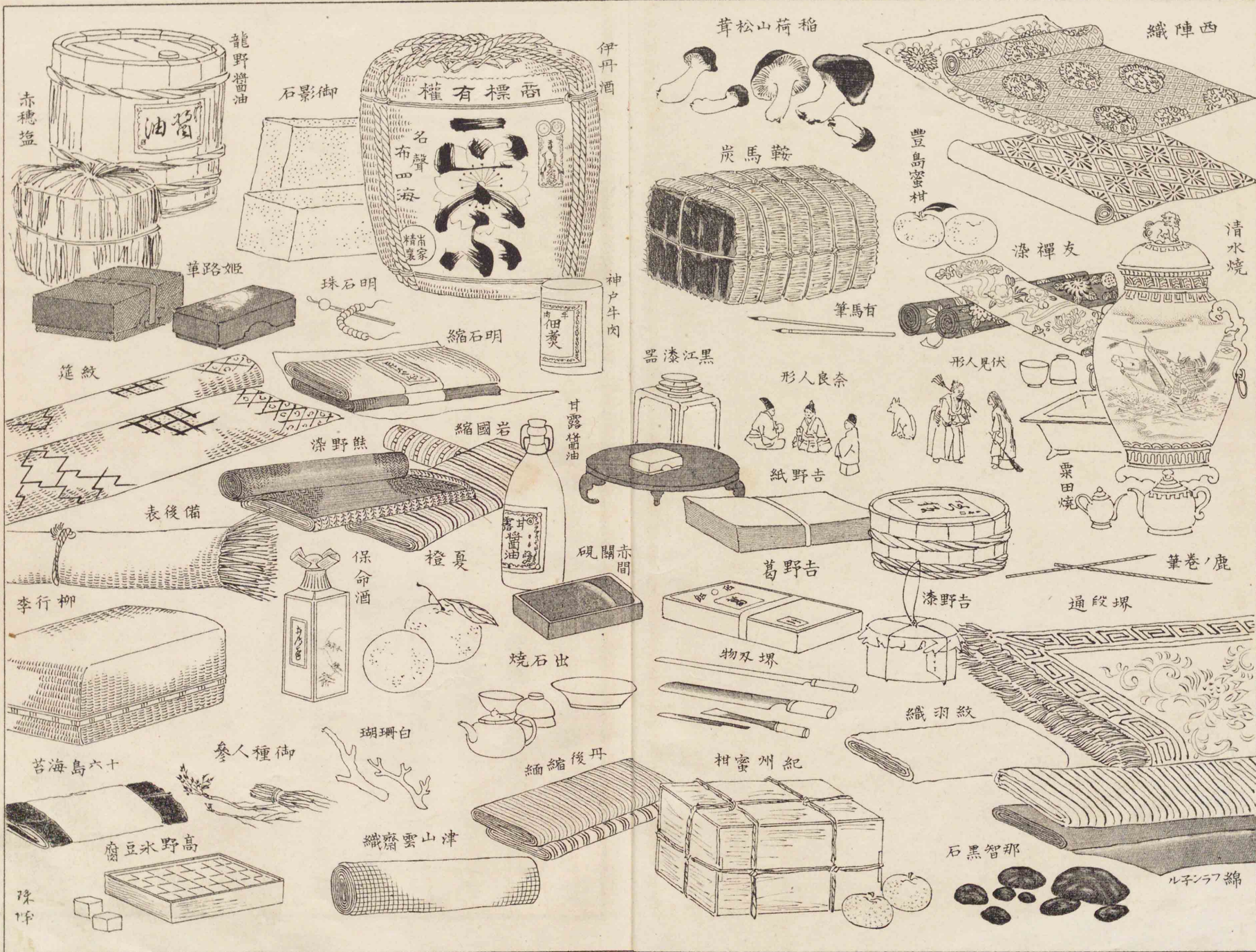
\*池田氏三十二  
萬五千石の舊  
城地

已貴命を祀れるものにして、社宇頗る宏壯なり。石見の濱田は、開港場の一とす。隱岐は北海に孤立せる島國にして、土地概ね礮礮なり。東北に在る一島を島後と云ひ、西南に在る三島を島前と云ふ。島後の西郷は良港とす。中島に後鳥羽上皇の御火葬所あり。出雲石見には大麻砂鐵の産あり。出雲の瑞璫、石見の半紙、名産と稱し、石見の銀山、又世に著はる。隱岐は水産物に富み、特に鰯の産多し。

**鳥取縣**

鳥取縣は因幡伯耆の地にして、千代川天神川日

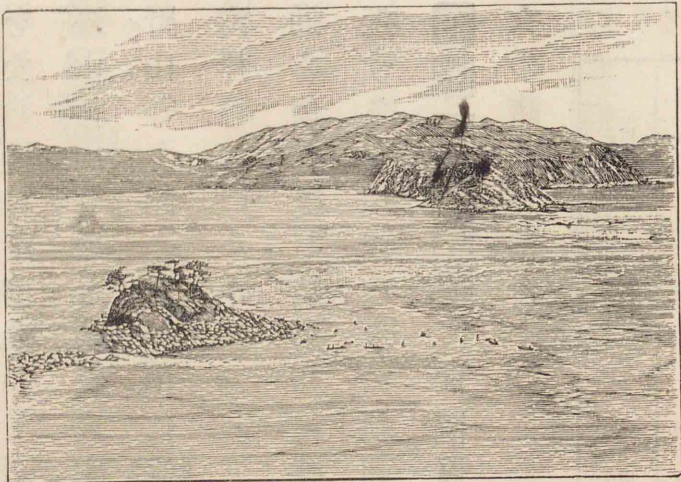
野川下流の流域は、地平かなれども、南方一帶山嶽相連なり、蛭山大山船上山等の諸山あり。大山は山腹に大神山神社の奥宮及大山寺あり。船上山は名和長年の後醍醐天皇を奉ぜし所とす。縣廳は因幡の鳥取(市)に在り。伯耆の西部には夜見



濱の砂嘴ありて、西北に突出し、其北端に開港場の一なる境サカあり。境港は北方に美保ミホ關突出して、北風を防ぐが故に、冬期にても船の碇泊稍や安全なり。且敦賀赤間關間の唯一の良港なるを以て、商業大に發達し、米子ヨコ松江等に供給する物品の媒介を爲す。大阪等との間に定期汽船の往來あり。米子は伯耆屈指の都會とす。伯耆には綿の産多く、倉吉クラヨシ地方より盛んに伯州木綿を出だす。又砂鐵の産あり。因幡には牛の産多く、其海邊よりは白珊瑚を産す。

四國區

四國區の海岸 四國の東北端と淡路島との間は、鳴門海峡と稱し、潮勢急激にして大渦をなし、舟行危険なり。所謂阿波、鳴門是なり。鳴門海峡の西濱より、南方蒲生田岬に至る間は、概して砂濱にして、出入稍や多し。該岬より海岸線西南に曳き、室戸岬に至る。其間峭岸砂濱相交る。室戸岬端には岩礁亂立す。此れより海岸西北に曲折し、又西南に延長して、蹠蹠岬となる。中央部は砂濱なれども、他は概して峭岸なり。室戸岬、蹠蹠岬と相對して、彎圓狀の大灣を抱く。所謂土佐灣是なり。此灣の一部は往時陸地なりしが、地震のために陥没したるものなりといふ。蹠蹠岬より西北方佐田岬に至る間は豊豫海峡豊後水道の東岸にして、海岸の出入甚だしく、幾多の



島嶼碁布す。其中に天慶の頃藤原純友の據りて官軍に抗せ

し日振島あり。佐田岬は九州の地蔵岬と相對し佐賀關海峡を阿なす。此れより海岸線東北に曳波き、砂濱となり峭岸となりて、高繩半島の北端大隅鼻に至り、東門南折して豫讚灣の南岸となる。之概して峭岸なり。豫讚灣の東方には讚岐の大突出あり。其沿岸は、屈曲出入甚だしくして、許多の島嶼其前に羅列す。

四國區の地勢

南日本外帶山脈、九州より四國に入りて

四國山脈となり、中央部を殆んど東西に走り、本域の分水界をなし、地勢東南北の三面に向ひて傾斜す。四國山脈には吉森山(7,400)、劔山等あり。阿蘇火山脈は本域に於て、石鎚山(7,790)、高繩山(8,610)、飯野山等起す。吉野川、仁淀川、渡川、肱川の流域及伊豫讃岐の海岸地には、小平野あれども、域内概して山嶽多く、内地は交通の便に乏し。吉野川は俗に四國三郎と稱す。山脈北岸に接近するを以て、内海の斜面は地狭く、水流皆を短かし。

**四國區の區劃** 四國區は南海道大部の地にして、其中に次の諸縣を包含す。

德島縣	縣	阿波	國	香川縣	縣	讚岐	國	愛媛縣	縣	伊豫	國
-----	---	----	---	-----	---	----	---	-----	---	----	---

高知縣 土佐

**四國區の交通系**

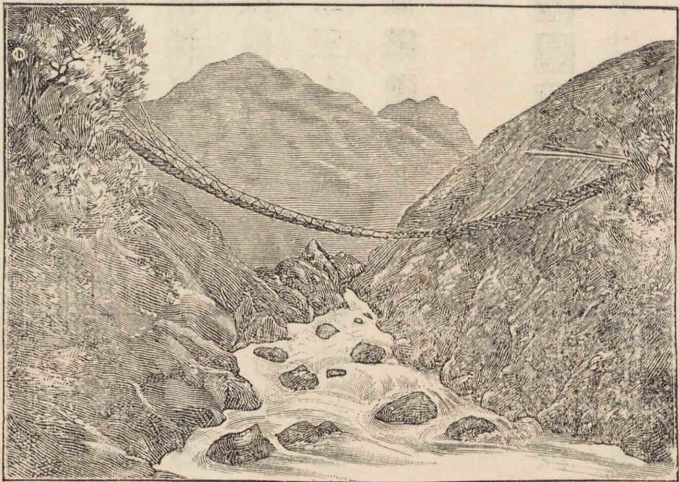
四國には阿波の德島を元とせる主要なる街道三あり。一は北西走して讚岐に入り、又南西折して伊豫に入る。一は吉野川の沿岸地を西走し、土佐に入り、又一は海岸地に沿ひて、土佐に入る。此他伊豫、土佐間の交通小系二三あり。鐵道は、阿波に德島鐵道、讚岐に讚岐鐵道、伊豫に伊豫鐵道あり。

**處 誌**

**德島縣**

德島縣は阿波の地にして、吉野川、那賀川の沿岸地は、地稍や平かなれども、他は概して山嶽重疊し、劔山等あり。劔山には劔社あり。安徳天皇の御劔を祀る。劔山の西方に

蜂須賀氏二十  
五萬七千石の  
舊城地



祖 谷 蔓 橋 之 圖

吉野川の南岸地を西走す。吉野川北岸の脇町、東海岸地の小

大谷あり。祖谷と云ふ山深くして別世界の如く、風俗人情他と異なるもの多し。谷中に蔓橋などの奇あり。縣廳は吉野川河口地の徳島市に在り。徳島は絨織の産地にして、大阪等との間に定期汽船の往來あり。徳島の北方撫養邊は齋田鹽の産地とす。近傍池谷に土御門天皇の御火葬所あり。徳島鐵道、徳島より起りて

牛田橋

中に就きて鹽  
飽本島及廣島  
を大なりとす  
松平氏十二萬  
石の舊城地

京極氏五萬千  
石の舊城地

松島富岡等又本縣の名邑たり。吉野川の沿岸は、實に藍の名産地にして、其下流地方は地味甘蔗に適し、其上流地方は地味茶と煙草とに適す。

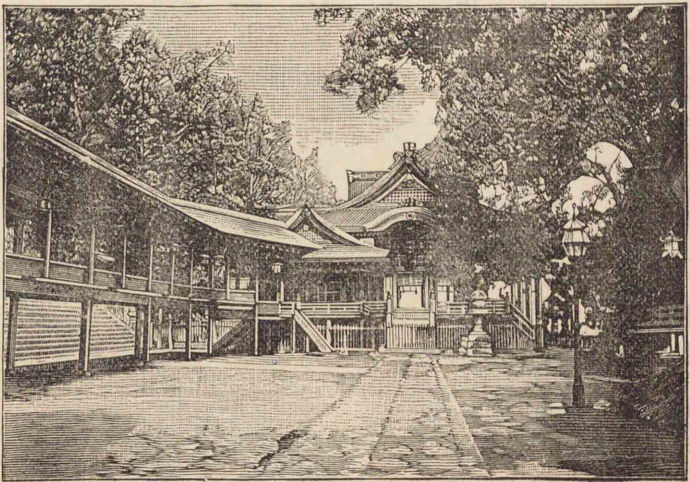
香川縣

香川縣は讚岐の地にして、南方には山嶽重疊す

れども、北部海濱の地は、地勢概ね平坦なり。山には讚岐富士の名ある飯野山等あり。小豆島鹽飽諸島等、大小の島嶼、其海上に散布し、頗る風景に富む。縣廳は北海岸の高松市に在り。高松は保多織の産地にして、高松城巍然として聳え、東北方に五劔山を望み、汽船の出入常に絶えず。南方栗林公園は景色の佳を以て名あり。五劔山の西方屋島は、源平の古戰場にして、安徳天皇の内裏跡、今猶ほ存す。讚岐鐵道、高松より阪出九龜市多度津善通寺を経て琴平に通ず。多度津は汽船碇泊

屏風浦僧空  
海の生地

の要港にして、備中の玉島等と海路相通じ、汽船の出入多し。



金刀比羅宮之圖

善通寺は第十一師團司令部の在る所とす。琴平は象頭山の麓に在る市街にして、象頭山半腹の金刀比羅宮は、諸國よりの参拜者常に絶えず。所謂金毘羅大権現是なり。又白峯山頂には崇徳天皇の御陵あり。其他本縣の名邑としては西に觀音寺、東に志度引田等あり。縣内大に鹽砂糖の産に富み、讚岐三盆白の名世に高し。又牛の産あり。

\*久松氏十五萬石の舊城地

高繩山(河野氏の累代據りし所に於て藤原純友も此れに據れりといふ)

加藤氏六萬石の舊城地

伊達氏十萬石の舊城地

愛媛縣

愛媛縣は伊豫の地にして、道後平野、肱川沿岸地

及海岸地方の外は、山嶽大に鬱結し、石鎚山等の高峯あり。石

鎚山は、一に石鐵山又伊豫の高嶺と稱す。縣廳は道後平野の

松山(市)に在り。伊豫鐵道によりて、三津濱道後又郡中等に通

ず。松山は伊豫縞の産地にして、道後は有名なる温泉場とす。

三津濱は安藝の宇品港等と海路相通じ、汽船の出入常に絶

えず。三津濱の海上に在る興居島は、全島一山を以て成り、俗

に伊豫の小富士と稱す。高繩半島東北岸の今治は、舟泊の要

地とす。本縣の西部には大洲、八幡濱、宇和島等の都邑あり。八

幡濱は九州に渡る要津にして、宇和島と大阪との間には定

期汽船の往來あり。東北海岸の西條亦本縣の名邑とす。縣内

頗る鑛産に富み、別子銅山よりは大に銅を産し、市川は盛ん



に安賀母尼を出だす。又檣樹多く、大に木蠟を産す。伊豫藤伊

豫砥世に名高し。東部諸郡には又伊豫桎紙の産あり。

高知縣は土佐の地

にして、渡川仁淀川鏡川物部川

の沿岸地及海岸地方は地稍や

平かなれども、其他は到る所、山

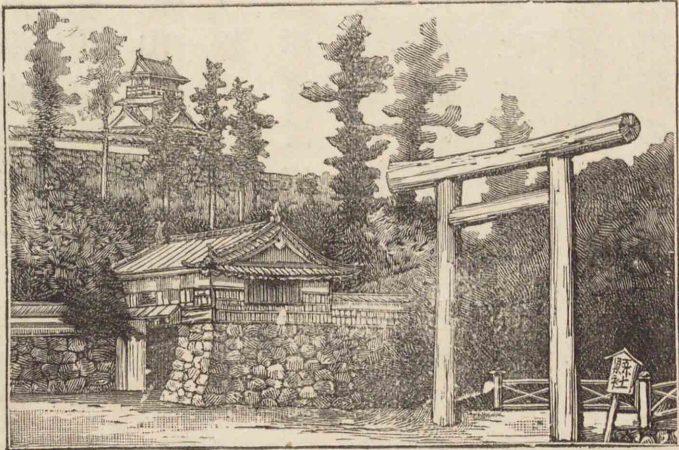
嶽相連なる。渡川は一に四萬十

川と稱す。縣廳は鏡川北岸の高

知(市)に在り。此地は吸江により

浦戸に通ず。浦戸は高知の咽喉

に當る要港なれども、入口に岩礁あるを以て、汽船の出入に



高知縣公園之圖

\*山内氏二十四萬二千石の舊城地

姫倉月見山土御門帝行在の舊蹟にして手結港の西に在り

便ならず。近傍龍頭岬上は即ち長曾我部氏の城址なり。高知の東北國比佐は、紀貫之の居りし所にして、岡豊は長曾我部氏勃興の地とす。須崎は又本縣屈指の市邑たり。城内大に半紙を産し、且經節に名あり。又大に樟腦を出だす。縣内の或る小部分には、一年二回米を收穫し得る地あり。土佐駒の名又世に聞こゆ。室戸岬蹉跎岬邊は、捕鯨の業盛んなり。又珊瑚眞珠の産あり。

### 九州區

#### 九州區の海岸

九州の東北端と本州の西端との間は、即ち下關海峡にして、一に關門海峡と稱す。其東北端より國東半島に至る間は、海岸に屈曲少なし。此半島を南に廻れば、大分灣あり。一に別府灣又箇苜海と稱す。佐賀關半島其東方に突出す。其盡端を地藏岬と云ひ、伊豫の佐田岬と相對す。佐賀關半島以南は、豊豫海峡の西濱にして、出入曲折甚だしく、岬灣相交り、概して峭岸たり。鶴見岬を西方に廻れば、海岸線西南に曳き、都井岬に至る。其海上は即ち日向灘にして、風濤荒し。海岸略ぼ平直にして、砂濱多く、安全の碇泊地に乏し。都井岬を西に廻れば、志布志灣あり。一に大隅灣と稱す。大隅半島其西に突出し、薩摩半島と相擁して、鹿兒島灣を抱く。此邊

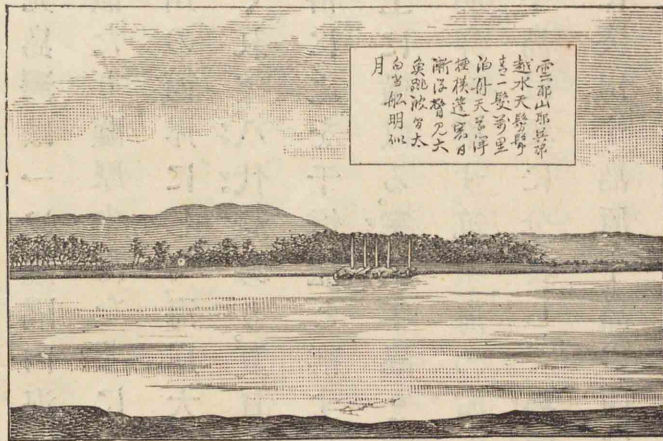
砂濱多し。大隅半島の南端は、佐多岬と稱し、航行危険多し。鹿兒島灣は一に薩隅内海と稱す。灣内水深く、其形狀東京灣に似たり。薩摩半島を北に廻れば、野間岬あり。此れより北は九州の西岸にして、海岸大に錯綜す。潮流の急なる黒瀬戸を過ぐれば、八代灣あり。夏日暗夜燐光を放つ。所謂不知火にして、俗に之を千燈籠と稱す。沿岸多く峭崖にして、天草諸島其海上に横はる。宇土半島を廻りて北すれば、筑紫海あり。一に有明洋と稱す。筑紫海の西に在る大半島は、肥前半島にして、此半島は更に分裂して、島原半島彼杵半島を成し、野母崎南方に突出す。島原半島の西は、即ち千々岩灘にして、野母崎の海上は、即ち天草洋なり。彼杵半島は東に大村灣を控ふ。此れより北は、海岸殊に錯雜し、概して峭岸にして、北松浦半島、東松

浦半島と相擁して、其間に伊萬里灣を抱く。東松浦半島の東

芥屋大門

海の中道

\*三韓より舶載  
せる大鐘此海  
中に沈めりと  
いふ古來之を  
揚げんとして  
未だ果さず



天 草 洋 之 圖

には唐津灣あり。此邊の海上を松浦潟と呼ぶ。此れより東すれば、博多灣あり。灣内は元寇覆没の古蹟とす。博多灣を出でて東すれば鐘崎あり。此岬角以東は即ち響灘にして、以西は即ち玄海灘なり。九州の北岸は所々に砂濱あれども、概して峭岸なり。壹岐と對馬との間は對馬海峡と稱し、對馬と朝鮮國との間は朝鮮海峡と稱す。

九州區の地勢

九州には、南日本内帶山脈北部に在りて

九州北部山脈と稱し、南日本外帶山脈南部に在りて九州南

部山脈と稱す。雷山寶滿山福智山等は前者に屬し、市房山祖

母山等は後者に屬す。此兩山脈の間に、阿蘇火山脈ありて、一

群彙をなす。阿蘇山九重嶽由布嶽英彦山等其中に在り。又霧

島帶火山脈あり。開聞嶽御嶽霧島山溫泉嶽多良嶽等之に屬

す。要するに、九州は中央部に高山鬱結して、東西の分水界を

なし、西岸は西に向ひて傾斜し、東岸は東に向ひて傾斜し、北

岸は北に向ひて傾斜す。南部は地域狭く、山嶽重疊するを以

て巨流なし。平地は筑後川沿水地、筑後平野と肥後平野とを

大とす。其他遠賀川流域大野川大淀川高鍋川下流々域川内

川の沿岸地等には小平野あり。筑後川は俗に筑紫二郎と稱

し、其流域は略ぼ十二萬五千町の田圃を有す。筑後川、川内川は球磨川と共に、筑紫の三大河と稱す。

**九州區の區劃** 九州區は西海道大部の地にして、其中に次の諸縣を包含す。

鹿兒島縣	薩摩、大隅。	大分縣	豐前の一部、豐後。	宮崎縣	日向。
熊本縣	肥後。	佐賀縣	肥前の一部。	長崎縣	肥前の一部、壹岐、對馬。
福岡縣	筑前、筑後、豐前の一部。				

**九州區の交通系** 九州にては、九州街道東北端より起りて西南行し、西海岸地に至りて南行し、南部地方に至る。東海岸地にも、亦重要な街道あり。南行して南部地方に至り、九

州街道と相會す。北部地方には、現時九州鐵道ありて、重要な交通系をなす。其本線は北海岸地を通じ、肥前の東隅に至り、分れて長崎線、八代線の二となる。豊州線、筑豊線の鐵道ありて之に關聯す。其他又西北部に唐津鐵道、南部薩摩の地に少許の官設鐵道あり。

處 誌

**福岡縣**

福岡縣は筑前、筑後と豐前一部との地とす。東南部には英彦山等の諸山連亘し、支脈西北に出でて、筑前を兩平原に分つ。東部の平原は即ち遠賀川の流域とす。英彦山は中世僧院の盛なりし頃、三千八百坊ありしと云ふ。筑後の域には筑後川ありて、所謂筑後平野をなす。縣廳は福岡(市)に在り。福岡は、其港を博多と稱す。博多は開港場の一にして、上

\*黒田氏五十二萬石の舊城地

上古三津の一

小笠原氏十五萬石の舊城地

柳浦安德帝の行宮ありし所

名島(神功皇后征韓の時出師凱旋し給ひし所)

製鐵所(八幡村若松港内海濱に在り)

古三韓唐土の渡口たりし所とす。博多織の産あり。博多灣は灣内廣く、又風波を防ぐに便なれども、其入口の狹小なると、河川の吐出する砂のため、海底の淺きとを、其缺點とす。九州鐵道、赤間關の對岸門司(市)より起り、小倉(市)折尾、香椎、箱崎を経て此を過ぐ。門司は九州の咽喉にして、開港場の一たり。赤間關と共に砲臺の設あり。頗る良港なれども、其近傍に平地なきは、兩者の缺點とす。小倉は小倉織の産地にして、第十二師團司令部の在る所とす。豊州線の鐵道は、此地より出でて、豊前の東北海岸地を東南走す。一支線又豊州線の中途より岐れて西南走す。折尾は九州鐵道幹線の筑豊線鐵道と相交又する所にして、筑豊線鐵道は、若松より此地を通じ南方筑豊炭田地に向ふ。若松は即ち其石炭積出の要港とす。其西方

宇美應神帝の降誕し給ひし所  
鳥飼村(九州探題の城址)  
水城の古址(天智帝の時外寇に備ふる爲め築きしものなり)

有馬氏二十一萬石の舊城地

立花氏十一萬九千石の舊城地

遠賀河口の蘆屋港は、古の崗水門にして、神武天皇東征の時過ぎ給ひし所とす。香椎には香椎宮あり。神功皇后を祀れるものにして、其地は仲哀天皇神功皇后の行在所たりし所なり。箱崎には箱崎宮あり。應神天皇を祀れるものとす。福岡の東南に又太宰府廳址太宰府神社あり。太宰府神社は菅原道眞を祀れるものにして、公は即ち此地に於て薨せしなり。九州鐵道の八代線は久留米(市)大牟田を過ぎて肥後に入る。久留米は筑後屈指の都會にして、筑後川に沿ひ、久留米總を産す。大牟田は石炭積出の要港たり。其石炭は近傍三池の産に係る。筑後河口の大川は工業盛んなる所にして、其西端若津は船舶の出入多く、大阪等との間に定期汽船の往來あり。矢部川下流地の柳河は、又筑後の名邑とす。本縣産する所の筑

前米は、品質佳良を以て稱せられ、石炭の産頗る多し。又蠟の産に富む。

佐賀縣

佐賀縣は肥前一部の地にして、東南部は地勢平

坦なれども、北部は平地少なく、松浦川沿岸地の外は、概して

\*鍋島氏三十五萬七千石の舊城地

山嶽起伏す。縣廳は東南部の佐賀(市)に在り。九州鐵道の長崎

線、鳥栖にて八代線と相岐れ、此に來り、武雄有田を経て長崎

縣に入る。有田より一支線北に出でて伊萬里に至る。有田は

有名なる磁器の産地にして、伊萬里は其磁器積出の良港と

小笠原氏六萬石の舊城地(鏡山古の領市振山)

す。因りて其磁器に伊萬里燒の名あり。松浦河口の唐津は、開

港場の一にして、唐津鐵道に沿ひ唐津燒を産す。附近又石炭

の産あり。唐津の西北に名護屋の城址あり。征韓の役に豊公

の陣營を設けし所として、史上に名あり。此れに登れば遙か

に壹岐對馬の諸島を望む。

長崎縣は肥前一

部と壹岐對馬との地にして、

本地には彼杵半島、島原半島

の突出ありて、到る所概ね山

嶽起伏し平地少なし。縣廳は

南部の長崎(市)に在り。長崎は

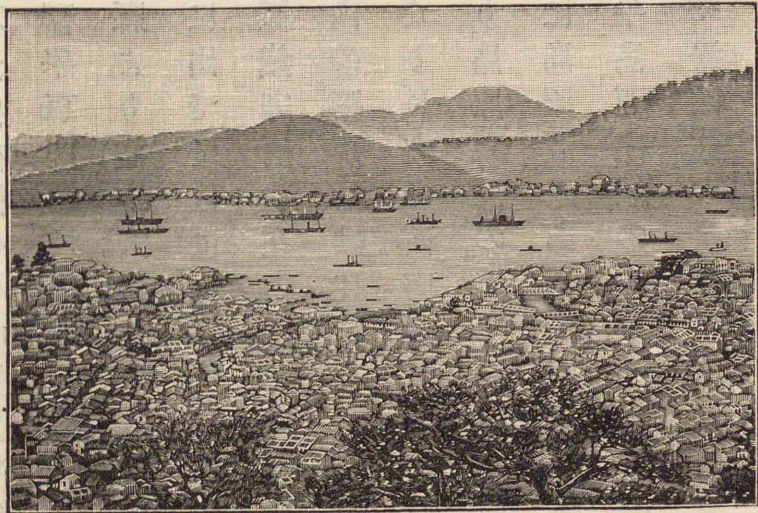
大開港場の一にして、西北岸

に砲臺あり。港内水深く、實に

自然の良港にして、汽船の出

入頗る繁し。石炭、錫、米、樟腦、椎

茸等を盛んに海外に輸出し、



長崎港之圖

石油・白砂糖生牛皮・纈綿・油糟等を多く海外より輸入す。長崎醫學專門學校等あり。長崎煙草の産あり。長崎線の鐵道佐賀縣より**彼杵大村**を経、此に來つて止む。一支線早岐より西北に出でて**佐世保**に至る。佐世保は軍港の一にして、第三海軍區鎮守府の在る所とす。佐世保の西北に方り**平戸島**あり。島内の**平戸港**は往時我が國の初めて和蘭と互市を開きし所なり。長崎の西南の海上に在る**高島**は、**石炭**の産を以て名あり。島原半島の地には**島原**あり。**溫泉**嶽其西に聳ゆ。山の西腹に島原溫泉あり。島原及大村邊は砂糖及七島筵を産す。島原半島西南端の**口津**は、開港場の一にして、石炭を輸出す。**野母崎邊**は**鱈**の産に名あり。西方の海上に在る**五島列島**は福江島中通島等より成り、其海上は**五島鯨**を産す。又**五島鰯**の産

松浦氏六萬千石の舊城地

松平氏七萬石の舊城地

宗氏十萬石格の舊城地

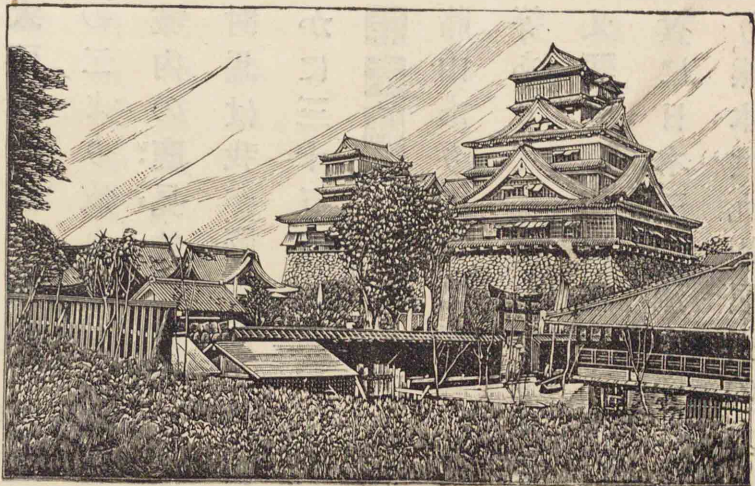
多し。壹岐は内部に丘陵甚だ多けれども、概して地味宜しく、大豆の産あり。島内に**郷浦勝本**等の港あり。對馬は上島下島の二より成り、概ね石多き瘠土にして、地味五穀に適せず。其域内の**鹿見佐須奈嚴原**は、開港場の一とす。又**竹敷**要港あり。對馬は我が國の西北端にして、朝鮮國と相距ること、海上僅かに三十五哩に過ぎず。

熊本縣

熊本縣は肥後の地にして、東方には**阿蘇山**等の諸山ありて、地勢高峻なれども、西北部には**菊池川****白川****綠川**等ありて、其流域は所謂**肥後平野**をなし、大に**肥後米**を産し、又**粟麥**の産に富む。南部には**球磨川**あり。水勢箭を射る如く、實に日本三急流の一とす。縣廳は白川に沿へる**熊本(市)**に在り。熊本は九州屈指の大都會にして、中央に熊本城あり。慶長

細川氏五十四萬石の舊城地

本妙寺加藤清正の墓



三角は開港場の一にして、長崎等との間に定期汽船の往來

年中加藤清正の築きしものなれども、西南の役に兵燹に罹り、樓櫓焼失せり。現時第六師團の司令部此に在り。市の近傍細川本氏の別業成趣園は、風致を以て城名高し。又第五高等學校あり。九州鐵道の八代線は、福岡縣より本縣に入り、西南役の激戰地田原阪近傍を過ぎ、此に來り、南走八代に至る。一支線途中宇土より宇土半島の西端三角に至る。

あり。三角の西南に天草諸島あり。其本島は上島及下島に分る。甘蔗甘藷を産し、又無煙炭陶土に名あり。菊池川の上流地方に山鹿温泉及隈府あり。隈府城趾に在る菊池神社は、菊池氏世々の靈を祀れる所とす。球磨川の上流地に人吉あり。其北方の萬山重疊せる中に、五家莊あり。傳へ云ふ、平家遺族の潜匿する所と。其路險崖危棧、牛馬なく又米穀に乏し。

大分縣

大分縣は豊前一部と豊後との地にして、大野川

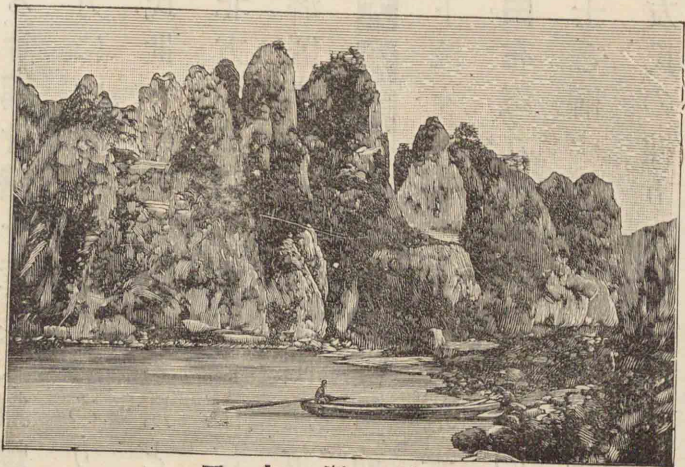
下流々域及海岸地は、地平かなれども、西方一帶山嶽鬱結し、由布嶽九重嶽祖母山等の諸山聳立す。由布嶽は俗に豊後富士と稱す。縣廳は大分灣南岸地の大分に在り。此地は往昔大友氏の據りて、威を四隣に振ひし所とす。大分の西北方に別府温泉あり。豊州線の鐵道は福岡縣より本縣に入り、中津を

奥平氏十萬石の舊城地



經て宇佐に至る。中津は山國川の東岸に在り。山國川上流地方の耶馬溪は有名なる勝地とす。宇佐の宇佐神宮は和氣清麿の神勅を請ひし所として、史上に名あり。臼杵佐伯又城内の名邑とす。本縣には所謂豊後表の産あり。又大に大豆椎茸を産す。

**宮崎縣** 宮崎縣は日向の地にして、東海岸の小部即ち五箇瀬川美々津川高鍋川一瀬川大淀川下流の流域は、地稍や平かなれども、其他は山嶽重疊し、市房山霧島山等の諸山あり。霧



耶馬溪之圖

經て宇佐に至る。中津は山國川の東岸に在り。山國川上流地方の耶馬溪は有名なる勝地とす。宇佐の宇佐神宮は和氣清麿の神勅を請ひし所として、史上に名あり。臼杵佐伯又城内の名邑とす。本縣には所謂豊後表の産あり。又大に大豆椎茸を産す。

なれども、其他は山嶽重疊し、市房山霧島山等の諸山あり。霧

宮丸一説に高千穂の宮址といへり  
内藤氏七萬石の舊城地  
伊東氏五萬千石の舊城地

島山には、東西兩嶽あり。東嶽は一に矛嶽と稱し、頂上は即ち高千穂峯なり。西嶽は又韓國嶽と稱す。五箇瀬川上流地の高千穂村は、上代天孫降臨の靈地と傳稱す。縣廳は大淀川下流地の宮崎に在り。此地はもと原野なりしが、漸次開拓して、今日の繁華を見るに至れり。宮崎の西南方に都城あり。此邊萬年青の産多し。五箇瀬川下流地の延岡、高鍋川下流地の高鍋又本縣の名邑たり。港には細島及油津あり。細島は大阪との間に定期汽船の往來あり。油津近傍の飫肥地方は、氣候溫暖なるを以て、近時熱帶植物試驗場を設け、珈琲幾那の類を培養す。本縣は大に山林に富み、良材巨木を出だし、盛んに樟腦を産す。又檜樹能く繁生す。城内又柑橘を産し、且半紙炭に名あり。

鹿兒島縣

鹿兒島縣は薩摩大隅の地にして、城内山嶽重

島津氏七十七萬石の舊城地



鹿兒島之圖

を經て國分地方に至る。所謂國分煙草の產地とす。近傍に鹿

疊し、平地少なし。縣廳は鹿兒島灣西岸の鹿兒島(市)に在り。市の西北城山は、西郷隆盛の戰死せし所にして、其東麓を鶴丸城趾とす。島津氏世々の居館を構へし所とす。第七高等學校造士館あり。大阪等との間に定期汽船の往來あり。櫻島市の前面に横はり、御嶽高く其中央に聳ゆ。官設鐵道鹿兒島より起り加治木

九州種子島トカラ海峡

上古三津の一  
太平寺趾豐臣氏西征の時本營を置きし所  
屋地(島津忠久以下五代の居城ありし所)  
川邊十島硫黃島竹島黒島口之島中之島諏訪瀬島平島臥蛇島惡石島寶島  
大島諸島大島喜界島徳之島沖之永良部島興論島

兒島神宮あり。彦火々、出見尊を祀る。國分の東北方霧島山の西麓に霧島神宮あり。彦火々、瓊々杵尊を祀る。薩摩半島の東南端山川港は、上世琉球船舶の來泊せし所とす。其西方に薩摩富士の名ある開聞嶽あり。薩摩半島の西南端坊津は、往時唐船の多く來泊せし所とす。川内川河口の海上に、飯諸島あり。

本縣南方の海上に薩南諸島あり。薩南諸島は之を大別して、川邊十島種子島屋久島及大島諸島とす。川邊十島中、口島以南の諸島は、或は之を寶七島と稱す。各島皆な火山性にして、硫煙を絶たず。其海上は七島灘と稱し、航海者の危険とする所なり。屋久島の一湊港、大島の名瀬港等は、舟泊の要地とす。

櫻島大根  
阿久根燧耐

縣内大に煙草を産し、垂水指宿國分等に其産最も多し。薩摩  
上布薩摩認薩摩節世に名高く、屋久杉又世に聞こゆ。山野芹、  
野鹿籠の金山よりは、盛んに金を産し、苗代川にては薩摩焼  
を製出す。又良馬の産あり。薩南諸島には羅漢松蘇鐵竹の類  
多く、且杪權阿咀呢等を産し、又永良部鰻飯匙、侍瑋瑁等の動  
物あり。大島諸島は、黑砂糖縞紬疊表を出だし、寶七島亦疊表  
筵に名あり。

南 域

琉 球 區

琉球區は即ち琉球諸島の域にして、其西南端は臺灣に密邇  
す。琉球は徳川氏の世には、島津氏に隸屬し、又私かに支那に  
も屬して、恰も兩屬の如くなりしが、明治の世に至り、全く支  
那と絶たしめて、琉球藩とし、後沖繩縣を置けり。縣内は沖繩  
諸島宮古諸島八重山諸島の三部に分る。後の二者を總稱し  
て又先島諸島と云ふ。中に就きて、沖繩諸島中の沖繩島最も  
大なり。沖繩島は其大部に丘陵起伏し、北方高く南方低し。宮  
古島は平地多く、石垣島は山地多し。沖繩島は域内を國頭中頭及島尻の三部に分ち、又之を幾多

の間切に小別す。縣廳は南部の那覇(區)に在り。那覇は開港場の  
一にして、風光明媚なり。大阪等との間に定期汽船の往來



あり。其近傍(首里) (區)は舊時國王の居りし所とす。北  
球部の運天港は良  
人港とす。琉球諸島  
は、概して其沿岸  
に珊瑚礁あるを

以て、何れの港も淺く、且風を防ぐ便なけれども、其海底に珊  
瑚礁あるは、大に錨の定著に利あり。琉球區の産は、大島諸島  
の産と略ほ相同じく、綿細木綿、緞細上布、芭蕉布、朱泡、盛疊、表

黒砂糖等を産す。又琉球塗の産あり。氣候暖熱にして、霜雪を  
見ること稀なり。且毎年夏秋の際に、颶風屢ば起る。琉球人は  
甘藷を常食とし、男女共に髻を結び、簪を挿む。

### 臺灣區

臺灣は、我が國人の往昔高砂と呼びし島にして、西洋人は之をFORMOSAモサと呼ぶ。蓋し美島の義なり。此地域はもと支那の領土なりしが、日清戦争の結果として、支那より我れに割讓せしものとす。本島に屬する島嶼中、大なるもの、西に澎湖列島あり。

#### 臺灣區の海岸

臺灣の最北端は富貴角と稱す。此れより東南に廻れば鼻頭角三貂角あり。東海岸は一帶斷崖にして屈曲少なく水甚だ深し。南端には南岬及南西岬あり。此邊珊瑚礁多く又霧深し。西海岸は東海岸に反し、遠淺にして土砂多し。概して本島の海岸線は屈曲甚だ少なく、良好なる碇舶場に乏し。

#### 臺灣區の地勢

臺灣の地たる、西部は海岸に沿ひて平野をなせども、東部は一面平地稀にして、山勢直ちに海岸に迫る。平地は全面積の略ぼ三分一にして、他は凡て山地とす。中央より少しく東方に偏して、一萬尺内外の鏈鎖をなせる大山系あり。之を玉山山脈と云ふ。シルヴィア(12,330)新高山(12,560)玉山等の諸山其中に在り。新高山は其高さ富士山を凌ぐ。又本島の北部に大屯山彙ありて、霧島帶火山脈に屬す。臺灣には大河なし。淡水河は稍や大なれども、之を本州地方の河に比すれば兒孫の如し。

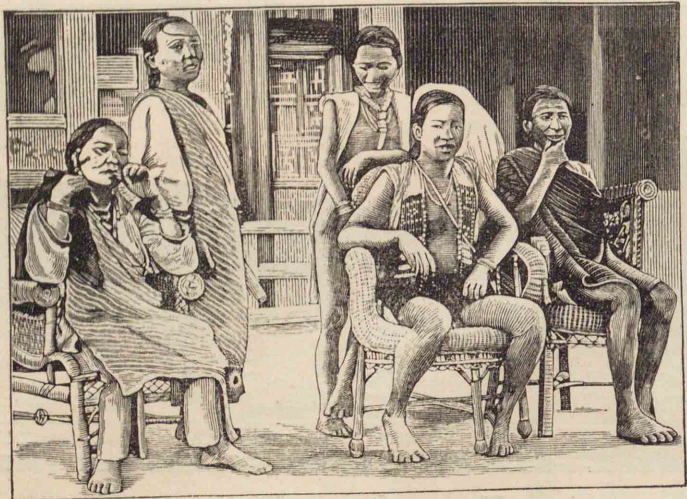
#### 臺灣區の區劃

本區には現時二十廳を置きて、其附近諸地を治し、其上に臺灣總督府ありて、全域を統管す。其二十廳の名は次の如し。

臺北廳	基隆廳	宜蘭廳	深坑廳	桃仔園廳	新竹廳
苗栗廳	臺中廳	彰化廳	南投廳	斗六廳	嘉義廳
鹽水港廳	臺南廳	蕃薯寮廳	鳳山廳	阿猴廳	恆春廳
臺東廳	澎湖廳				

〔臺灣には支那移住民と蕃人との二種族あり、支那移住民の大部は福建省の地より移住せしものとす、又廣東省の地より移住せしものあり、蕃人には生蕃熟蕃の別あり、熟蕃とは、生蕃に對し支那人の附せし名にして、善化蕃民の義なり、生蕃は性兇暴にして、人を殺し首を獲るを以て其能事となせり、蕃人の部落は蕃社と稱す、本島の我が領土となりてよりは、邦人の來住するもの日を逐ひて増加す。

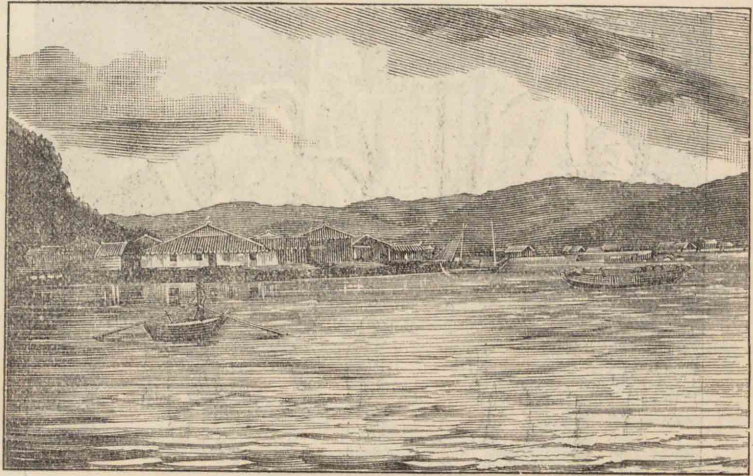
處 誌



臺灣神社北白川宮を祀る

臺灣蕃人之圖

**北部地方** 北部地方には北方に大屯山彙の諸山あれども、淡水河の流域及海岸地方は土地平坦なり、淡水河流域地の臺北は臺灣總督府及臺北廳の在る所にして、本州の京都の如く、四面山を繞らせり、府城の西南に在る街區は艋舺(舊街)と稱し、府城の北に在る街區は大稻埕(新街)と稱す、大稻埕は製茶の業盛ん



基隆之圖

蘭及蘇灣あり。宜蘭は宜蘭廳の在る所とす。蘇灣の沿岸には、

にして、其産出の茶は烏龍茶と稱す。官設鐵道、東北海岸の基隆より起り此地を過ぎて新竹に至る。基隆(鷄籠)は基隆廳の在る所とす。港内水深く大艦を泊すべけれども、東北風を防ぎ難きと、潮流の頗る急なるとの不利あり。開港場の一にして、主に石炭を輸出す。神戸等との間に定期汽船の往來あり。基隆の東南に宜

深坑深坑廳の在る所  
桃仔園桃仔園廳の在る所

\*支那形船に限りて貿易を爲し得るもの

珊瑚礁ありて、船舶の碇繫に便なり。此地は往時熟蕃の根據地なりし所なれども、今は多く蕃族を見ず。臺北の北方淡水河口に、淡水港滬尾あり。開港場の一にして、茶石炭樟腦砂金等を輸出す。鐵道によりて臺北と相通ず。此地は河より吐出する砂のため、海底淺くして、吃水淺き船にあらざれば入る能はず。又初夏大雨後、河流急湍となり、投錨安全ならざることあり。新竹は新竹廳の在る所にして、新竹近傍の舊港は特別開港場の一とす。

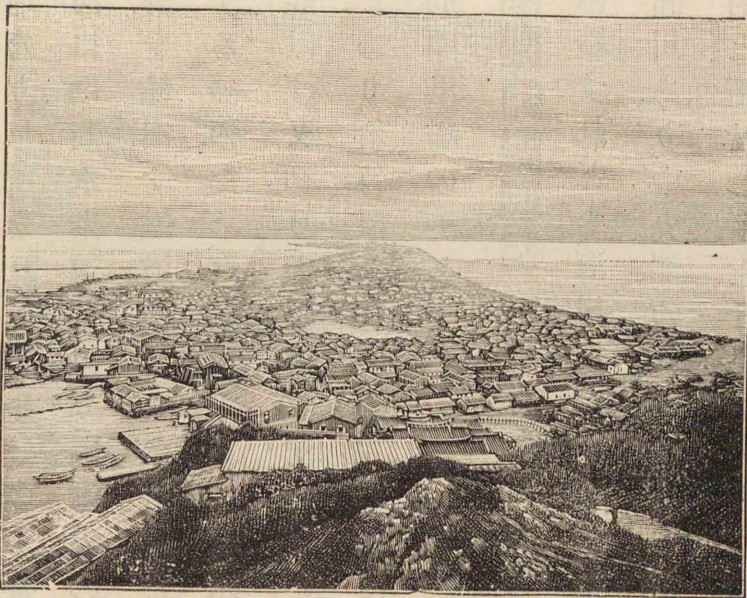
西部中央地方

西部中央地方は、東方に玉山山脈の諸山鬱結すれども、海岸地は土地平坦にして、後壠溪西螺溪等の諸川あり。中央部の臺中<sup>13.0</sup>は臺中廳の在る所にして、もと臺灣府と稱せし所とす。臺中の西方に彰化<sup>13.4</sup>あり。彰化廳の在る所

大甲溪

斗六斗六廳の  
在る所  
南投南投廳の  
在る所

後龍港特別開  
港場



打狗之圖

方の雲林、又樟腦の集散を以て著はる。

とす。又其西方に鹿港あり。特別開港場の一にして、支那に渡るには此れよりするを最も近しとす。樟腦及生蕃地の産物此に集まり、支那船常に幅湊す。鹿港の北方に塗葛窟あり。亦特別開港場の一たり。北部の苗栗は、苗栗廳の在る所にして、樟腦産地の一邑とす。南

番薯蕃薯蕃薯  
廳の在る所

阿猴(阿猴廳の  
在る所)

下湖口特別開  
港場

鹽水港(鹽水港  
廳の在る所)

南部地方

南部地方は東部には、玉山山脈あれども、海岸地は總て平坦なり。中部海岸地の臺南は臺南廳の在る所にして、久しく本島の首府たりし所とす。臺南の西に安平港あり。開港場の一にして、砂糖樟腦等を輸出す。官設鐵道、臺南附近より南走し、鳳山邊を経て打狗に至る。打狗は一に旗後と云ふ。開港場の一にして、盛んに砂糖を輸出す。神戸等との間に定期汽船の往來あり。安平は日に盛大に趣き、此地は日に衰ふるものゝ如し。鳳山は鳳山廳の在る所とす。鳳山の東南に東港あり。特別開港場の一にして、穀物及砂糖を輸出す。又北方に嘉義及東石港あり。嘉義は嘉義廳の在る所にして、東石港は特別開港場の一とす。極南地に恆春あり。恆春廳の在る所とす。



**東部地方**

東部一帯の山地は、所謂生蕃地にして、未だ其狀況を審かにせず。曾て我が漂民を虐殺せし牡丹社は、恆春北方の山中に在る一部落なりとす。卑南地方に臺東廳あり。**澎湖列島** 澎湖列島は、澎湖島、漁翁島、白砂島及其他近傍の諸島の總稱なり。澎湖島内には山嶽なく、又風強く喬木を見ず。馬公(媽宮)港は澎湖廳の在る所にして、特別開港場の一たり。港内珊瑚礁多く其面積を縮小するも、水深くして大船を碇泊すべし。又風波靜穩なるを以て、夏秋颶風の候支那船風浪を此に避く。

**總括** 臺灣は地味豊饒にして、米産に富み、又多く甘藷を栽培す。米、甘藷共に一年二回の收穫あり。茶は北部地方に産し、製糖業は南部の西岸地方に盛んなり。又麻を産す。樟樹は



主に東部の諸地に多くして、樟腦の産は、實に本島の富源たり。島内又鑛産に富み、石炭、石油、硫黄、砂金等を出だす。中に就きて、砂金、石炭最も多く、石炭は現時基隆附近にて盛んに之を採掘す。南部地方の海岸には、製鹽の業行はる。域内竹、龍眼、樹、杪、欖、麒、麟、血、樹、檳、榔、樹等、熱帯性の植物能く繁茂す。

十

安

北城

十州區

十州區の海岸

十州の西南部に在りて、形魚尾の如きは、渡島半島と稱す。該半島西南の岬角は白神岬と云ひ、陸奥の龍飛崎と相呼應し、其東南の岬角は惠山岬と稱し、陸奥の尻屋岬と相對す。此半島と陸奥との間は津輕海峡と稱す。白神惠山兩岬の間に函館灣あり。惠山岬を廻り西北航すれば、噴火灣あり。一に内浦と稱す。概して砂濱とす。灣の東岸の岬角は繪鞆岬と稱す。此れより海岸弓狀に屈曲して、襟裳岬に至る。岬邊は峻峭にして、巉岩削立す。往時は此岬より西を口蝦夷と稱し、東を奥蝦夷と稱せり。襟裳岬より海岸東北に曳

き、納沙布岬となる。其間に厚岸灣あり。沿岸概して砂濱なり。納沙布岬を西に廻れば、根室灣あり。知床半島北東に突出す。其間概して砂濱にして、野付砂地の小突出あり。知床半島の盡端は、即ち知床岬にして、該岬を廻れば、オホツク海の濱となる。知床岬より宗谷岬に至る間は、砂丘の濱にして、海岸平直畫一なり。其南部には一帯の沼湖あり。此邊海岸の性質十九里濱と相類す。宗谷岬と樺太との間は宗谷海峡と稱す。宗谷岬より西南に廻れば、日本海の濱にして、出入屈曲少なく、南部に石狩灣及積丹半島あり。積丹半島には、積丹岬・神威岬あり。神威岬を距る數百間の處に、オモカイ岩及メノコ岩あり。土人以て神となし、通舟帆を下して過ぐ。

十州區の地勢

十州にては、蝦夷山脈、千島帶火山脈と

十字形に交叉して、分水界をなし、諸川四方に分流し、巨大なる高原平野を形成す。蝦夷山脈は東北山脈と日高山脈とより成る。宗谷嶽・天鹽嶽等は、前者に屬し、夕張嶽・芽室嶽等は、後者に屬す。千島帶火山脈は、千島諸島より十州に入り、良牛山・斜里山・雄阿寒嶽・阿寒嶽・ヌタブカウシベ石狩嶽・十勝嶽・オプタテシケを起し、蝦夷山脈に交錯す。域内湖水多く、温泉所々に涌出す。西部には、又渡島山脈・後志山塊あり。恵山・駒嶽等は前者に屬し、マクカリ嶽等は、後者に屬す。原野には、石狩原野・天鹽原野・十勝原野等あり。石狩川・天鹽川・十勝川等の各流域とす。石狩川は本邦第二の長河にして、其中流に神居古潭の險あり。天鹽川は水緩かなれども、河口は風浪荒くして、舟泊に便ならず。

十州區の區劃

十州區には、北海道本地の諸國、即ち渡島・後志・石狩・天鹽・北見・膽振・日高・十勝・釧路・根室之に屬し、現時北海道廳を置きて之を管治し、諸要區に支廳を置く。

十州區の交通系

十州は近年の開拓に係るを以て、内地は、叢林野を蔽ひ、寥として人家を見ざる所多けれども、又新設の道路少なからず。鐵道には炭礦鐵道ありて、西南部の平地を通ず。

處 誌

西部地方

十州の西部地方は、渡島・後志・石狩・天鹽の地にして、所々に山巒鬱結すれども、石狩川及天鹽川の流域は、所謂石狩原野・天鹽原野を成す。後志・渡島は土地狹くして、廣原大河なし。渡島の東南部に函館(區)あり。開港場の一にして、水

近時函館に商船學校を置く

函館氷

上ノ國(松前氏の祖武田信勝創業の地)



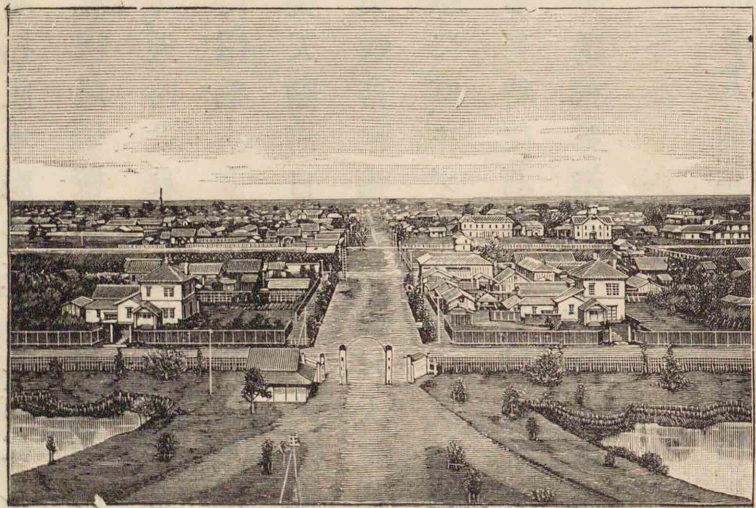
函館之圖

志の壽都スツツには壽都支廳ありて、岩内イヌナイには岩内支廳あり。石狩

産物硫黃石炭等を輸出す。函館支廳あり。港内水深くして、大波なく、大船安全に碇泊す。函館の東北五稜郭は、安政年間函館奉行の築きしものにして、維新の歴史に關して名あり。渡島の西南端に福山フクヤマあり。もと松前氏の城居せし所にして、往時は松前と稱せり。松前支廳あり。福山の北方江差エサシは檜山支廳ある所とす。後

\* 砂川以北は官設鐵道とす

灣沿岸地の小樽オゾラは、開港場の一にして、小樽支廳の在る所とす。此地は西方に陸地突出すれども、東方開くが故に、時々風浪の憂あり。然れども其位置良好なるを以て、商勢盛んなり。神戸等との間に定期汽船の往來あり。炭礦鐵道、小樽近傍より起り、石狩の札幌サッポロ區を過ぎ、空知支廳ある岩見澤イソノサキに至りて三分し、一は幌内炭山マウラ、一は北方上川地方に、一は南方



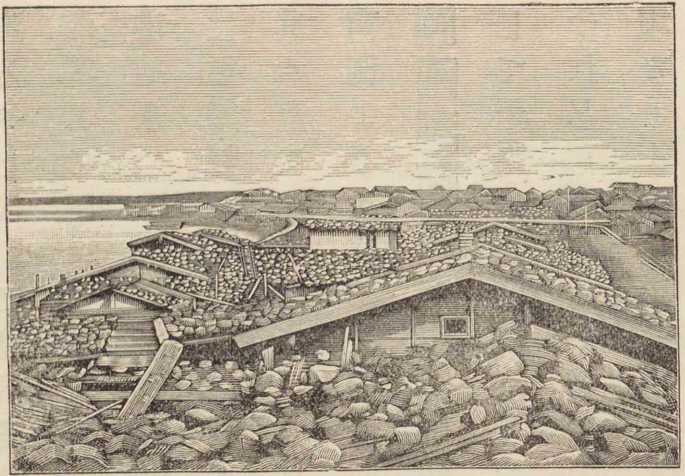
札幌之圖

膽振の地に向ふ。札幌はもと開拓使本廳の在りし所にして、今は北海道廳の所在地たり。札幌農學校あり。上川地方の旭川は上川支廳の在る所にして、近時此に第七師團の司令部を置く。天鹽の國には、海岸地に増毛あり。小樽以北の良港にして、増毛支廳の在る所とす。又天鹽河口に天鹽あり。石狩原野は、地味概ね肥沃にして、農桑牧畜に適す。天鹽は大に樹木に富み、良材を産す。沿海の山脈には、エゾマツ叢生す。域内鱒鮭の漁利多く、又鱒鱒の收穫多し。特に石狩河口は有名なる鮭漁場とす。渡島邊の海上は、又昆布を産す。石狩は大に石炭の産に富む。

**東北部地方**

十州の東北部地方は、北見根室の地にして、北見は西方に東北山脈の山巒連亘すれども、海岸及諸川の

\* 周囲二〇里



根室之圖

沿岸は平原多し。根室は北方に良牛山斜里山等の山嶽あれども、其他は概して高原平野なり。根室は氣候甚だ寒く、夏秋の候、深霧屢ば起り、寒冷を感ずるを常とす。北見には猿間湖網走湖等の湖水あり。根室には風連湖あり。北見西北端の稚内は宗谷支廳の在る所にして、小樽との間に定期汽船の往來あり。又オホツク海の沿岸に枝幸及網走あり。枝幸は砂金の産を以て

に適し、又商港たるに適す。南方釧路に通ずべく、西方石狩に至るべし。根室には根室港あり。根室支廳の在る所にして、函館等との間に定期汽船の往來あり。花咲港と相腹背す。根室港結氷の際は、船舶花咲港に入るを常とす。北見根室兩國共に鮭鱒、昆布、鱈等の漁利多し。特に西別川は大に鮭鱒を産し、其水源に産卵所あり。北見には又鮭の收利あり。知床半島の南側よりは盛んに硫黃を出だす。

**南部地方**

十州の南部地方は、釧路・十勝・日高・膽振の地にして、十勝・釧路は根室と共に概ね高原なり。諸所に山嶽鬱結すれども、釧路川・十勝川の流域及膽振の東部は、其地頗る平坦なり。十勝川の流域は、之を十勝原野と稱す。其面積頗る大にして、土地高燥肥沃なり。釧路川本支流の上流地には釧路

下帶廣(河西支廳の在る所) 浦河(浦河支廳の在る所) 跡佐登



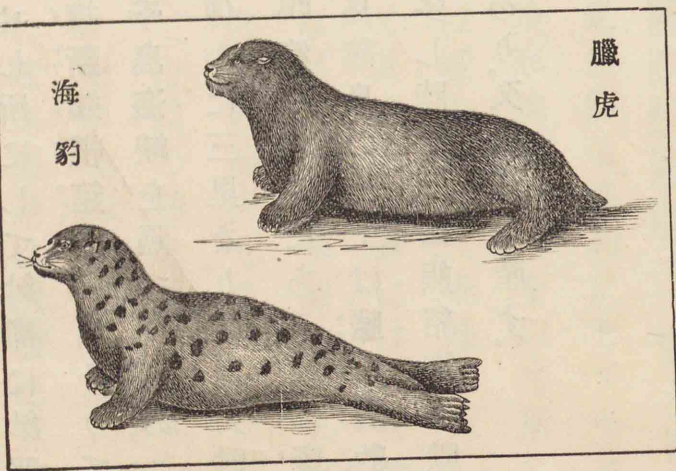
ア イ ノ 部 落 之 圖

湖阿寒湖等の湖水ありて、雄阿寒、雌阿寒等の山嶽あり。釧路の厚岸港は、水深く、舟泊に便なり。港の内部に厚岸湖あり。大に牡蠣を産す。釧路河口に釧路港あり。開港場の一にして、釧路支廳の在る所とす。盛んに硫黃を輸出す。鐵道其北方標茶より釧路湖方面に通ず。日高の沙流川沿岸及十勝川本支流の沿岸にはアイノ人の部落多く、平取村最も



大にして、其地に源義經の祠あり。膽振の室蘭港は開港場の  
 一にして、室蘭支廳の在る所なり。又第五海軍區鎮守府の所  
 在地に指定せられたる所とす。繪柄岬西北に出で、水深く風  
 浪の憂なし。炭礦鐵道は石狩を通じて膽振に入り、追分に於  
 て支線を夕張炭山に出だし此に來る。室蘭の西北に洞爺湖  
 あり。湖邊よりは北に蝦夷富士の稱あるマクカリ嶽を見る。  
 洞爺湖の東北に支笏湖あり。域内昆布鮭鱈の漁利多く、襟裳  
 岬附近は有名なる昆布繁殖地なり。釧路邊には又鮭の收穫  
 あり。釧路は硫黃石炭を出だし、膽振も亦硫黃を産す。十勝石  
 又世に名高し。日高の新冠高原は、耕牧に適し、馬の牧養行は  
 る。

千島區



丹は良灣とす。又國後の東北に擇捉島あり。千島諸島中の最

千島區

千島區は、即ち千島諸島の域に  
 して、根室國の海上より斜に東  
 北に連互せる三十餘島の一群  
 彙より成る。域内千島帯の火山  
 脈連互して、平地少なし。海岸は  
 險惡にして波荒く、河は矩かく  
 して流れ急なり。其の西南に在  
 るを國後島と云ふ。北端に爺嶽  
 ありて、南端に泊村あり。國後の  
 東南に色丹島あり。色丹の斜古

大島とす。此島は往年近藤守重等の渡航して、アイノを撫育せし所にして、紗那シナに紗那支廳北海道廳の支廳あり。擇捉の東北に得撫ウヰ新知幌筵等の島ありて、最東北に在るものを占守島シムシとす。千島海峡を隔て、東塞加半島のロバトカ岬LOBATKAと相對す。其間僅かに三里なり。郡司大尉此に在りて、大に力を開拓に盡す。幌筵の北方にある阿頼度島は、實に我が國の極北地とす。千島諸島の海上は、臘虎海豹、臘豚等の海獸に富み、又鱒の漁利多し。陸には狐熊貂等の獸エトビリカチシマガラス等の鳥あり。又硫黃を産す。

概 括

帝國の氣候

我が國は山秀で水清くして、地味肥え、其氣候頗る溫和にして、冬夏の溫度に著しき差なし。然れども、地形狹長なるを以て、所によりて寒暖を異にす。概して南地は暖かにして、北地は寒し。即ち南日本は氣候概ね溫暖にして、其南端臺灣には、熱帶性の動植物を有す。之に反し北日本は、氣候概ね寒暑の差甚だしきこと多く、北端千島には寒帶性の動植物を産し、殊に美麗なる毛皮を有する動物あり。  
 (帝國の植物には十州にトドマツ、エゾマツの類多し。又本州中北緯三十六度以北には、栲カの類多く、以南は黒松多し。琉球臺灣は棕櫚芭蕉榕樹カの類に富む。)

全國一年の平均溫度は、略ぼ華氏五十四度半にして、北緯三

十一度に於ける平均温度は、同六十三度半、北緯四十度に於けるは、同五十度なり。概して寒氣の差は著しけれども、暑氣の差は著しからず。平均温度の最高なるは、臺灣琉球地方基隆七二・六とし、最低なるは十州の上川地方ハニニとす。上川は最寒の時華氏寒暖計、零以下三十六度餘に達したることあり。

我が國の氣候は、又海流のために支配せらるゝこと少なからず。

（我が國の近海を流るゝ海流には數派あり。黒潮クハシホ即ち黒瀨川は、有名なる暖流にして、一に日本海流と稱す。臺灣の南端近傍に發し、北東に進み、宮古島ミヤコの北方に於て、二派に分れ、其本派は九州の南端を過ぎ、四國本州の南岸に沿ひて

進み、犬吠岬イヌボシ邊にて東方に折る。又其分派は、九州の西岸を過ぎ、對馬海峽よりして、日本海に入り、東北進して小分派を津輕海峽に出だし、其大部は更に十州の西岸を過ぎ、宗谷海峽より、オヨツク海に入り、知床岬チシマの方面に向ふ。之を對馬海流と稱す。親潮即ち千島海流は、オホツク海の東北隅に發し、千島諸島を洗ひ、北州の東南岸、本州の東岸に沿ひて進み、犬吠岬邊にて消滅す。此海流にも津輕海峽を経て日本海に入る一小分派あり。又來滿海流ライマンはオヨツク海の北西に起り、日本海の北西部を流れ、朝鮮海峽に達し、津輕海峽より來れる親潮の小分派と合し、進みて臺灣海峽に達す。來滿海流の樺太島の北端に於て一派を出だし、同島の東岸に沿ひて進み、宗谷海峽より來る對馬海流に會

して、其形跡を失するもの、之を樺太海流と稱す。親潮及來滿海流は共に寒流なり。

黒潮に洗はるゝ所は多くは、其地の氣温を高め親潮に洗はるゝ所は、其地の氣候寒冷なり。即ち北緯三十七度以北の地にて、一年の平均温度に於て、西岸の東岸より甚だ暖かなるもの、前者は對馬海流の影響を受け、後者は親潮の影響を受けるを以てなり。

我が國の風は、夏日には南東風多く、冬日には北西風多し。此兩風の交換する節、即ち六月九月には雨多し。六月の雨は、世に梅雨と稱するものにして、淫霖久しきに互るを例とす。我が國にては、八九月の頃颶風あるを常とす。此颶風は支那海に起り、東北に進み、九州四國の邊より、斜に本州を通過し、十

州に及ぶこと多し。太平洋面は日本海面よりも、此の災を蒙ること數ばなり。農家にて懼るゝ厄日、即ち二十日、二十日、十日は、此暴風襲來の節に當たるものなり。全國を通じて降雨の多量なるは、紀伊地方の南部、四國九州の南部、能登半島附近にして、雨の寡少なるは、瀬戸内海本州中央部及北州とす。又本邦に於ける深雪の地は、北陸地方及兩羽地方とす。

**帝國の天産と産業**

帝國の面積中、田地山林等多少收

益ある所は、全面積の十分六にして、耕地一三、山林四〇、牧場又は秣場に使用する原野〇五、家宅鹽田池沼等〇二の割合とす。我が國は古來農を以て、國の大本とせしを以て、農業大に發達し、従つて農産に富む。米は全國にて産する所、凡そ四千七百萬石にして、其内六十萬石は、海外に輸出し、二百萬石

は酒造に費やし、殘餘は内國の需要に供す。全國にて産額の多きは、新潟縣・福岡縣・兵庫縣・千葉縣・愛知縣等にして、十州は頗る少なし。十州は其産に乏しきに非ず。開墾未だ至らざるなり。地味上最も米産に適せるは、尾張・河内等とす。米の過剰多きは、越後を第一とし、米の不足なるは、武藏を第一とす。性質の佳良なるは、伊勢米・肥後米・防長米・近江米・美濃米・播磨米等とす。麥は全國にて産する所、米の略半ばにして、地味上之に適せるは、武藏・尾張・讃岐等とす。北部地方と降雨多き所とは、其産に適せず。産額は、埼玉縣・茨城縣首位を占め、過剰多きは、茨城縣とす。各種の麥中、最多額を占むるは、大麥にして、裸麥之に亞ぎ、小麥又之に亞ぐ。茶は全國一年の産額略ぼ八百萬貫にして、産額多きは、静岡縣・京都府及臺灣等とす。茶は

氣候の暖かなるを要するが故に、奥羽地方・十州等は、地味之に適せず。質は山城の産を以て最も佳とす。葉煙草は全國にて産する所、略ぼ八百萬貫にして、産額多きは、茨城縣・岡山縣・神奈川縣・徳島縣・鹿兒島縣・福島縣等とす。地味上煙草に最も適せるは、和泉・常陸・備中・阿波・相模・大隅・薩摩・下野・備後等にして、煙草の著名なる産地は、概して北緯三十八度以南の東海岸地に限るが如し。綿は全國にて産する所、略ぼ七百萬貫なれども、近年漸次に其産額を減ず。産額多きは、大阪府・廣島縣・愛知縣を首とし、地味最も之に適せるは、河内とす。綿は暖國に適し、東山・北陸諸道の諸國に少なく、西海道の諸國亦多からず。北海道にては之を作るを得ず。麻の産額多きは、栃木縣・廣島縣・北海道にして、下野の地味最も其産に佳なり。其の栽

培するものは大麻を多しとす。苧麻は米澤地方臺灣に多く、亞麻は十州に多く、黄麻は臺灣に産す。全國にて大麻の産額略ぼ四百萬貫あり。葉藍は全國にて産する所、略ぼ千八百萬貫にして、産額多きは徳島縣愛知縣とす。地味之に適せるは阿波を第一とす。砂糖の産多きは臺灣香川縣を首とす。沖繩縣鹿兒島縣は、大に黑砂糖の産に富む。全國各種の製糖額、略ぼ千四百萬貫にして、製糖の原料は主に甘蔗と甜菜とす。甘蔗は暖地の植物にして、甜菜は寒地にて能く生長す。砂糖は又和歌山徳島愛媛静岡高知の諸縣に其産多し。其他産額多き點に於て、大豆は茨城埼玉熊本長野の諸縣を推し、粟は熊本縣、黍は愛知縣を推し、甘藷は鹿兒島長崎熊本愛媛の諸縣を推す。

我が國の山林は最近調査、略二千三百萬町にして、民林三、官林六、御料林一の割合なり。全國中山林の多きは東山道を第一とし、東海道之に亞ぐ。山林の大なるものは、陸奥山林羽後山林木曾山林兩毛山林越中山林天城山林伊勢山林大和山林紀伊山林日向山林等とす。木材には松杉樅檜檜檉竹等ありて、副産として樟腦樫蠟漆汁椎茸等の産あり。樟腦は九州南部地方及臺灣に多く産し、樫蠟は愛媛縣福岡縣に其産多し。漆汁の産多きは長野縣茨城縣等にして、椎茸は大分縣宮崎縣に最も多く産す。本邦にては牧畜の業未だ振はざれども、現時稍や其業の盛んなるは、牛馬豚の三種とす。牛は明治三十二年の現在數凡そ百二十萬頭に於て、主産地は中國及九州とす。目下八萬頭以上の牛を飼養するは廣島縣岡山縣

兵庫縣長崎縣とす。其の良種なるは但馬因幡伯耆出雲備後肥前等の産とす。馬は明治三十二年の現在數凡そ百五十萬頭にして、九州の南部、東北地方の東部に其産多し。現時八萬頭以上の馬を飼養するは、鹿兒島縣熊本縣岩手縣福島縣にして、其の良種なるは南部駒三春駒等東北の産とす。豚は九州の南部、臺灣東京府千葉神奈川諸縣、十州地方にて飼養す。養禽は上總、中國の小部、西南諸國に行はるれども、其勢微々たり。臺灣には水牛多し。

我が國は海國なるを以て水産の利甚だ多し。其の主なるもの、生物類には鱈、鯉、鯛、烏賊、鮪、鯖、鰯、鮭、鯉、鮑、牡蠣、海鼠、鮎、鰻、鱒、鱒、昆布等あり。鹽物には鹽、鮭、鹽、鯖、鹽、鰯、鹽、鰻、鱒等あり。乾物には鯉、節、鰯、煮、乾、鰻、乾、鰻、寒、天、乾、鰻、海、苔等あり。概して水産の産

出に於ては北海道千葉縣に及ぶものなし。鹽は瀬戸内海に其産多く、十州鹽田の名世に高し。中に就きて周防讚岐、其産最も多し。質の佳良なるは赤穂鹽齋田鹽とす。

我が國の**鑛産**中其産額の多きは石炭銅銀硫黃等とす。全國中鑛産物に最も富めるは東山道にして、金は鹿兒島縣新潟縣秋田縣兵庫縣等に最も多く産し、銀は秋田縣岐阜縣兵庫縣新潟縣福島縣等に最も多く産し、銅は栃木縣愛媛縣秋田縣岡山縣島根縣等に最も多く産し、鐵は岩手縣島根縣鳥取縣廣島縣等に最も多く産し、石炭は福岡縣十州佐賀縣長崎縣等に最も多く産す。硫黃は釧路を推し、石油は越後を隨一とす。

我が國の**産業**としては、養蠶業綿絲業織物業陶磁器製造漆

器製造、製紙、釀酒等の業最も盛んなり。養蠶業は東國地方に最も盛んにして、蠶絲の産最も多きは長野縣、群馬縣とす。綿絲業の最も盛んなるは大阪府にして、岡山縣之に亞ぐ。絹織物業の最も盛んなるは京都府にして、群馬縣、福井縣之に亞ぐ。木綿織物業の盛んなるは、愛知、和歌山、愛媛、大阪、埼玉の諸府縣にして、麻織物業の盛んなるは大阪、滋賀、奈良の諸府縣とす。陶磁器製造の盛んなるは愛知縣、岐阜縣、佐賀縣、京都府、石川縣等にして、漆器製造の盛んなるは和歌山、京都、静岡、神奈川等の諸府縣とす。紙類の産額多きは高知、岐阜、静岡、愛媛、長野等の諸縣とし、革類製造の盛んなるは兵庫縣、東京府、大阪府とす。燐寸の製造は兵庫、愛知、大阪、東京の諸府縣に盛んにして、其軸木の上等なるは十州、奥羽の産とす。釀酒の盛ん

なるは兵庫縣を主とし、愛知縣之に亞ぐ。醤油釀造の盛んなるは千葉縣を第一とし、兵庫縣之に亞ぐ。

**内地商業と外國貿易**

東京の關東諸國に於けるは大坂の關西諸國に於けるが如く、共に其方面の商業を支配す。名古屋も亦其間に在りて、大に附近の商業を支配す。日本海面の地にして、東京又は名古屋に近きも、未だ鐵道の設あらざる所は、其産物汽船等の便によりて、大阪に廻るもの多し。然れども此方面の商品、敦賀よりして鐵道により、大阪又は名古屋に至るものなしとせず。東京、大阪、名古屋の他、關東地方に在りては横濱、奥羽地方に在りては仙臺、本州中部地方に在りては静岡、敦賀、金澤、富山、高岡、甲信越地方に在りては新潟、近畿地方に在りては神戸、和歌山、中國地方に在りては



\*亞米利加合衆國、英吉利、露西、亞和蘭、佛蘭西、葡、葡、牙、牙、獨逸、瑞、西、白、耳、義、以、太、利、丁、抹、瑞、典、威、西、班、牙、奧、地、利、匈、牙、利、秘、露、朝、鮮、暹、羅、メ、キ、シ、コ、支、那、プ、ラ、シ、ル、希、臘、ユ、ン、ゴ、自、由、國、ア、ル、セ、ン、チ、ナ

岡山・廣島・赤間關境、四國に在りては徳島、九州に在りては福岡・長崎・熊本・鹿兒島、十州に在りては函館等、みな内地商業上の樞區たり。内地商業にては米及清酒最も勢力あり。現時全國五十六所に商業會議所を置く。銀行には日本銀行・正金銀行の外、勸業銀行一、農工銀行四十五、普通銀行凡そ千五百二十六、貯蓄銀行凡そ三百三十あり。又普通銀行にして貯蓄銀行を兼ねるもの凡そ二百あり。現時我が國の條約國は二十三國にして、我が國目下の開港場は、横濱・神戸・長崎・函館・大阪・新潟・清水・武豊・四日市・敦賀・七尾・伏木・宮津・糸崎・赤間關・濱田・境門・司博多・唐津・口津・三角・嚴原・須奈・鹿見・那覇・基隆・淡水・安平・打狗・小樽・室蘭・釧路の三十三港とす。臺灣には別に八個の特別開港場あり。開港場中輸出價

額の最も多きは横濱にして、明治三十二年には凡そ一億萬圓に上れり。之に亞げるは神戸とす。輸入價額の最も多きは神戸にして、明治三十二年には、凡そ一億二千萬圓に上れり。之に亞げるは横濱とす。全國を通じて輸出價額の最も多き物品は、生絲・綿絲・絹布・石炭・茶・銅等とし、輸入價額の最も多き物品は、綿類・砂糖・鐵毛絲及毛織物等とす。

**帝國の軍備**

我が國陸軍の常備團隊は近衛師團及十二師團を以て組織せらる。一師團の下に二旅團あり。別に東部中部西部の三都督部あり。東部都督部は第一第二第七第八の四師團を管し、中部都督部は第三第四第九第十の四師團を管し、西部都督部は第五第六第十一第十二の四師團を管す。

又我が國海軍の制は全國の海岸及海面を五海軍區に分ち、

第六	第五	第四	第三	第二	第一	近衛	號	師團	番號	司令官所在地	旅團	番號	司令官所在地	師團	號	司令官所在地	旅團	番號	司令官所在地	
																				熊本
第廿三	第十一	第九	第七	第五	第三	第二	第一	第一	第一	第一	第一	第一	第一	第一	第一	第一	第一	第一	第一	第一
大村	熊本	山口	廣島	伏見	大阪	豊橋	名古屋	新發田	仙臺	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京
	第十二	第十一	第十	第九	第八	第七	第六	第五	第四	第三	第二	第一	第一	第一	第一	第一	第一	第一	第一	第一
	小倉	善通寺 (名稱丸龜)	姫路	金澤	弘前	旭川	旭川	旭川	旭川	旭川	旭川	旭川	旭川	旭川	旭川	旭川	旭川	旭川	旭川	旭川
	第廿四	第十二	第十	第八	第六	第四	第二	第一	第一	第一	第一	第一	第一	第一	第一	第一	第一	第一	第一	第一
	久留米	小倉	松山	福知山	姫路	敦賀	金澤	秋田	弘前	旭川	旭川	旭川	旭川	旭川	旭川	旭川	旭川	旭川	旭川	旭川

各海軍區に軍港を置き、鎮守府を設く。

第五	第四	第三	第二	第一	軍港	所管			
							膽振國室蘭	丹後國舞鶴港	肥前國佐世保港

我が國目下の海軍艦艇は軍艦總數五十九隻、水雷艇總數七十四隻とす。

帝國臣民にして滿十七歳より滿四十歳までの男子は、總て兵役に服する義務あり。兵役は常備兵役、後備兵役、補充兵役、國民兵役とす。

常備兵役 現役 陸軍 三年 滿二十歳に至りたる者之に服す。  
海軍 四年

豫備役 陸軍 四年四月 現役を終りたる者之に服す。  
海軍 三年

後備兵役 五年 常備兵役を終りたる者之に服す。

補充兵役 陸軍 第一補充兵役七年四月 其年所要の現役兵員に超過する者  
第二補充兵役一年四月 其年所要の人員之に服す  
海軍 一年 其年所要の現役兵員に超過する者之に服す

第一國民兵役 後備兵役及第一補充兵役を終りたる者之に服す。

第二國民兵役 常備兵役後備兵役補充兵役第一國民兵役にあらざる者之に服す

**帝國の教育**

我が國の學事は維新以來著しく發達し、今は寒村僻邑に至るまで、殆んど學校の設あらざるなし。最高の學校としては、東京と京都とに**帝國大學**あり。東京帝國大學は法理・醫文・工農の六分科より成り、京都帝國大學は法・醫・理工の三分科より成る。分科大學の上に大學院を置く。又東

京・京都・仙臺・金澤・岡山・山口・熊本・鹿兒島に**高等學校**あり。東京に男女の**高等師範學校**あり。現時官立・公立・私立を合せて小學校の總數凡そ二萬七千、中學校の總數百八十三あり。又師範學校五十四、**高等女學校**四十四、**專門學校**四十一、**技藝學校**八十五あり。其他又諸種の學校ありて、帝國全體の學校數、實に二萬八千の上に出づ。臺灣には國語學校・國語傳習所等の設あり。軍事教育も近時大に進歩し、陸軍にては**陸軍大學校**・士官學校・幼年學校・砲工學校・戸山學校等あり。幼年學校には中央幼年學校・地方幼年學校あり。中央幼年學校は東京に在りて、地方幼年學校は東京・仙臺・名古屋・大阪・廣島・熊本に各一校あり。海軍には**海軍大學校**・**海軍兵學校**・**海軍機關學校**等あり。

**帝國の交通** 維新以來交通の便大に開け、今日に於ては、郵便、電信、汽車、汽船等交通の機關一も備はらざるなし。鐵道の已に開通せるもの線路哩數凡そ四千哩あり。電信線路は互長凡そ五千七百里、延長凡そ二萬四千里にして、郵便線路は普通道路實里數凡そ一萬二千里、同延里數凡そ千三百萬里、鐵道實里數凡そ三千六百哩、同延里數凡そ六百七十萬哩あり。郵便電信局總數凡そ千二百にして、又電信局三十六、郵便局凡そ二千六百あり。近時諸要地に電話の設あり。船舶は汽船總數凡そ千二百、帆船總數噸數船凡そ三千三百、石數船凡そ二百二十にして、其他小船凡そ六十五萬隻あり。陸には官設鐵道を始め、日本鐵道、山陽鐵道、九州鐵道等諸會社の諸線路ありて、陸路の交通甚だ便に、海には日本郵船會

社、大阪商船會社等の定期船ありて、沿海の交通亦甚だ便なり。

**帝國の宗教**

我が國の主なる宗教は神道、佛道及耶蘇教

にして、神道には神道、大社教、實行教、修成教、神宮教、扶桑教、黑住教、大成教、御嶽教等あり。佛道には天台宗、真言宗、淨土宗、臨濟宗、曹洞宗、黃蘗宗、眞宗、日蓮宗、時宗、融通念佛宗、法相宗、華嚴宗あり。耶蘇教には新舊の兩派あり。神社の階級は神宮を最高とし、官幣大社、官幣中社、官幣小社之に亞ぎ、別格官幣社、國幣中社、國幣小社之に亞ぎ、府縣社、郷社、村社等其下に在り。

**帝國の國民**

我が國民の大部は大和民族より成る。皇

室と臣民との間には宗支の關係ありて、臣民の皇室を仰ぐこと父母の如く、皇室の臣民を視給ふこと子の如し。大

和民族の外、又アイヌ種族、支那種族臺灣に於ける支那移住民、臺灣種族、生蕃、熟蕃あり。アイヌ種族はもと本州に蔓延せしが、漸次大和民族の爲に驅逐せられて、今は僅かに十州に其形迹を存するのみ。

現時日本人民には皇族、華族、士族、平民の別ありて、華族に公侯伯子男爵の五等あり。臣民の義務としては、兵役の外、又納税の義務あり。國税、地方税、市町村費等を負擔すべきものとす。

### 帝國の政體

我が國の政體は立憲君主政體にして、主權は萬世一系の天皇之を總攬し給ひ、其下に立法、司法行政の三機關あり。立法權は帝國議會之に與る。帝國議會は貴族院、衆議院より成る。貴族院議員は目下其數三百二十人にし

て、世襲議員、互選議員、勅選議員、多額納税議員の數種より成り、衆議院議員は目下其數三百人にして、選舉資格を有する臣民の選出せる議員より成る。司法權は裁判所之を司る。裁判所には上に大審院、七控訴院所在東京大阪名古屋廣島長崎仙臺函館ありて、下に四十九の地方裁判所、凡そ二百九十の區裁判所あり。行政權は政府之を司り、上に内閣ありて、外務、内務、大藏、陸軍、海軍、司法、文部、農商務、逓信の九省之に屬す。又宮内省ありて、帝室の事に任じ、樞密院ありて、天皇最高の顧問に應ず。別に元帥府あり、軍事上の最高顧問たり。地方にては臺灣に總督府ありて、總督之に長たり。北海道に道廳ありて、長官之に首たり。府に府廳、縣に縣廳ありて、知事之を統轄し、市に市役所、區に區役所、郡に郡役所、町に町役場、村に村役場ありて、各長あり。

府縣市區郡町村に各議會ありて、管内公共の事を議す。

帝國新地理 終

（Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 府、縣、市、區、郡、町、村、議、會、公、共、の、事、を、議、す、）

明治三十四年十一月廿五日	印刷
明治三十四年十二月三十日	發行
明治三十五年三月一日	訂正再版印刷
明治三十五年三月四日	訂正再版發行
明治三十五年四月一日	版發行
明治三十五年五月五日	版發行

帝國新地理 附 定價金 五拾五錢

編輯者兼 發行

龜井忠一 東京市神田區裏神保町一番地

印刷者

神保周造 東京市神田區裏神保町一番地

印刷所

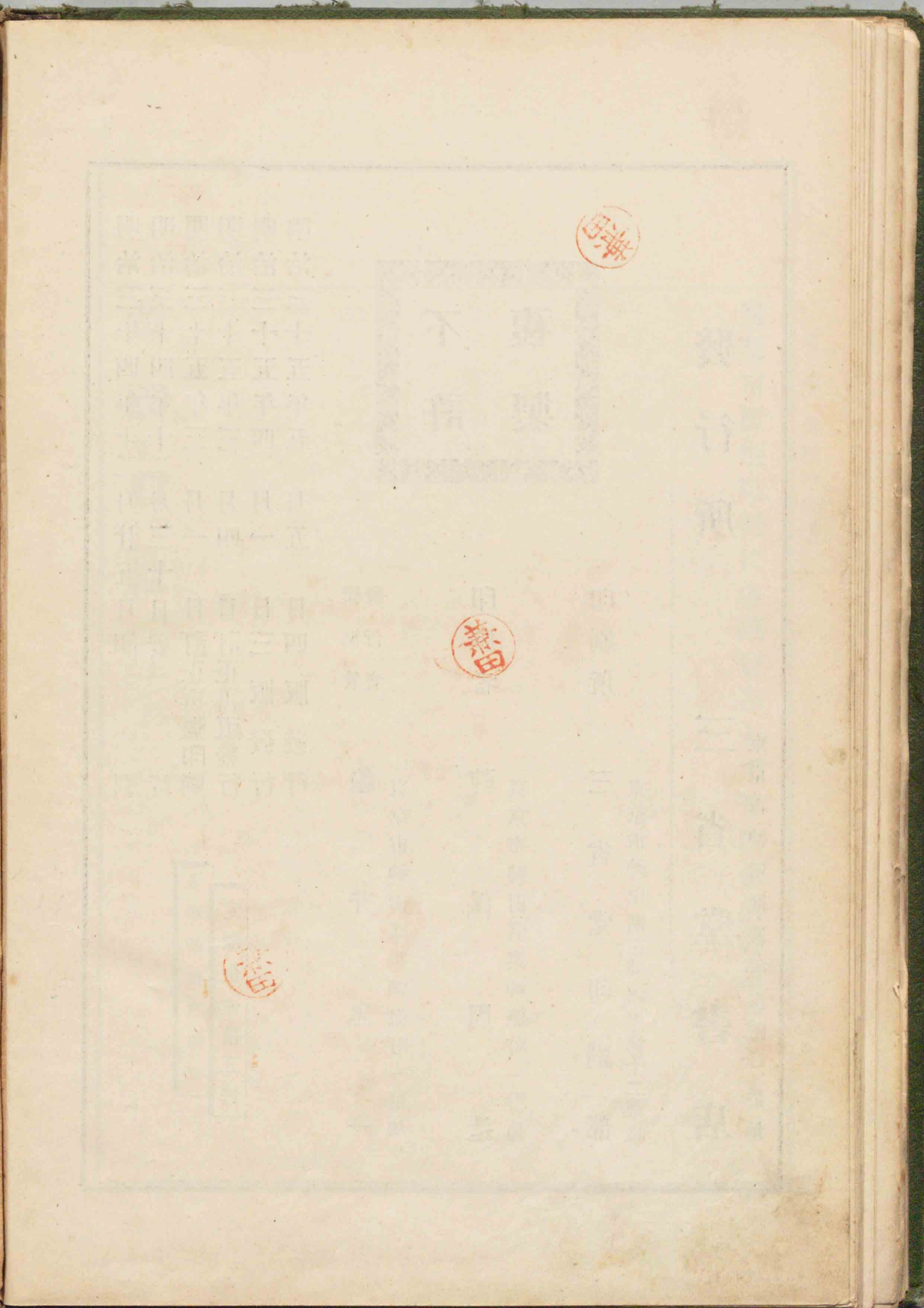
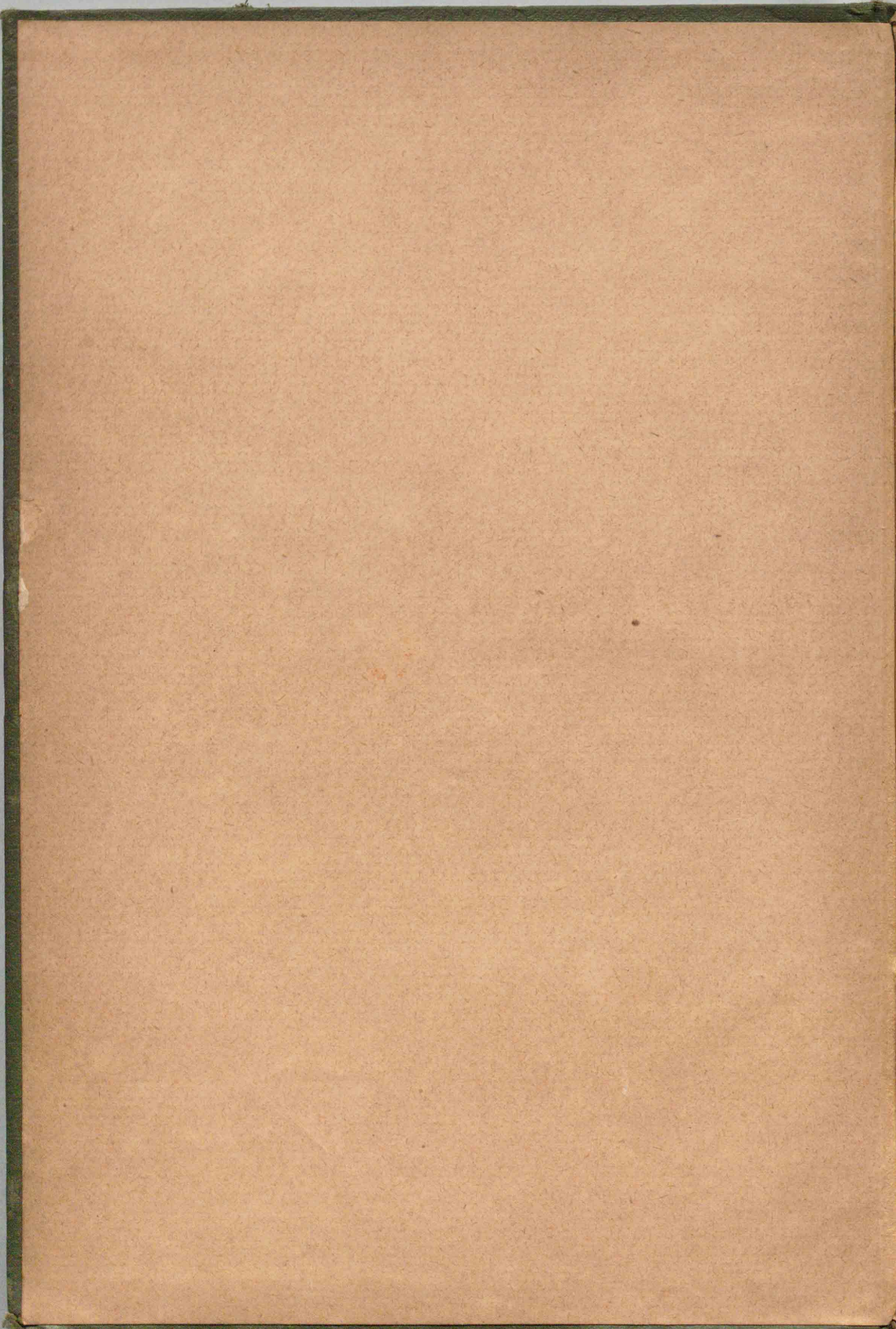
三省堂印刷部 東京市神田區三崎河岸第十二號地



發行所

三省堂書店

東京市神田區裏神保町一番地





広島大学図書

2000040299

